

「オノマトペ+する」の語彙的意味とアスペクト性 の研究

伊東, 真美

<https://doi.org/10.15017/1522386>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（芸術工学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

「オノマトペ+する」の
語彙的意味とアスペクト性の研究

*A study of the lexical meanings and
aspectuality of mimetic verbs*

伊東 真美
ITO MAMI
2015年6月

目 次

目 次	i
図表目次	v
凡 例	vii
序章	1
0.1 本研究の背景	1
0.2 本論文の構成	2
第 1 章 先行研究	3
1.1 オノマトペの先行研究の概要	3
1.1.1 音韻形態的特徴	3
1.1.2 副詞用法	6
1.1.3 オノマトペ + 「する」	7
1.1.4 オノマトペと結びつく接尾辞	8
1.1.4.1 動詞的活用の接尾辞	8
1.1.4.2 形容動詞的活用の接尾辞	9
1.1.5 名詞修飾用法	9
1.1.6 オノマトペの名詞用法	10
1.1.7 オノマトペの多義性について	10
1.2 音象徵について	13
1.3 機能動詞「する」	14
1.4 オノマトペの語彙化	17
1.5 アスペクトの先行研究の概観	19
1.5.1 アスペクトの違いによる動詞分類	19
1.5.2 語彙的アスペクト	22
第 2 章 本研究の目的と方法	23
2.1 本論文の位置づけ	23
2.2 本研究の目的	23
2.3 本研究の方法	24
2.3.1 書き言葉コーパスによる調査	24
2.3.2 アンケート調査	25

2.4 用語の定義	26
2.4.1 語彙的意味	26
2.4.2 語彙的アスペクト性	28
第3章 オノマトペの語彙的意味による分類	31
3.1 対象とするオノマトペの選定	31
3.2 BCCWJ による調査結果	32
3.3 オノマトペの意味に関する先行研究	35
3.4 「する」と結びつきやすいオノマトペ	38
3.4.1 感情・感覚表現	38
3.4.2 動き・状態	39
3.4.3 「させる」と結びつくもの	40
3.4.4 性質	40
3.5 「する」と結びつきにくいオノマトペ	41
3.5.1 様態を表すもの	41
3.5.2 様態以外を表すもの	43
第4章 「する」と結びつきにくいオノマトペ	44
4.1 様態を表すもの	44
4.1.1 動詞との共起制限が強いもの	44
4.1.2 動詞との共起制限が弱いもの	47
4.2 様態以外を表すもの	48
4.2.1 頻度を表すもの	48
4.2.2 量を表すもの	49
4.2.3 程度を表すもの	50
4.2.4 結果の状態を表すもの	53
第5章 形態論的アスペクト	58
5.1 感情・感覚表現	58
5.1.1 繼続性があるもの	58
5.1.2 変化結果の継続性があるもの	59
5.1.3 繼続性がないもの	61
5.2 動き・状態	62
5.2.1 動作性が高いもの	62

5.2.1.1 意志性があるもの	62
5.2.1.2 意志性が関わらないもの	63
5.2.2 動作性が中程度もの	64
5.2.3 動作性が低いもの	65
5.2.3.1 意志性があるもの	65
5.2.3.2 意志性がないもの	66
5.3 「させる」と結びつくもの	67
5.3.1 再帰用法	67
5.3.2 他動詞的な用法	68
5.4 性質	69
第6章 語彙的アスペクト	72
6.1 語彙的アスペクトの分析方法	72
6.2 アスペクチュアリティーの表現形式との結びつき	74
6.2.1 直前	74
6.2.1.1 するところだ	74
6.2.1.2 しようとする	75
6.2.2 開始	77
6.2.2.1 しあげる	77
6.2.2.2 しだす	79
6.2.3 状態の出現・変化の進展（てくる）	81
6.2.4 状態の変化（していく）	84
6.2.5 繼続	85
6.2.5.1 しつづける	85
6.2.5.2 しつつある	86
6.2.5.3 しているところだ	88
6.2.6 直後	89
6.2.6.1 したところだ	89
6.2.6.2 したばかりだ	90
6.2.7 終了（しおわる）	91
6.2.8 完遂・完了	92
6.2.8.1 してしまう	92
6.2.8.2 してある	95
6.3 まとめ	96

終章 結論	98
7.1 「する」と結びつきやすいオノマトペ.....	98
7.2 「オノマトペ+する」の主文末における語彙的アスペクト性.....	99
7.2.1 感情・感覚表現.....	100
7.2.1.1 繼続性があるもの.....	100
7.2.1.2 変化結果の継続性があるもの.....	101
7.2.1.3 繼続性がないもの.....	102
7.2.2 動き・状態.....	103
7.2.2.1 動作性が高いもの（意志性があるもの）.....	103
7.2.2.2 動作性が高いもの（意志性が関わらないもの）.....	104
7.2.2.3 動作性が中程度のもの.....	106
7.2.2.4 動作性が低いもの（意志性があるもの）.....	107
7.2.2.5 動作性が低いもの（意志性がないもの）.....	108
7.2.3 「させる」と結びつくもの.....	109
7.2.3.1 再帰用法.....	109
7.2.3.2 他動詞的な用法.....	110
7.2.4 性質.....	111
7.3 オノマトペの語彙的意味と結びつきやすいアスペクチュアリティーの表現形式	113
7.4 本研究の学問的意義.....	114
7.5 今後の課題	115
参考文献	116
付録	120
付録 1. 分析対象としたオノマトペ一覧.....	120
付録 2. オノマトペ（ひらがな・カタカナ）+（と）「させ」	133
付録 3. オノマトペ（ひらがな・カタカナ）+（と）「し」	146
付録 4. オノマトペ（ひらがな・カタカナ）+（と）「する」	159
付録 5. 主文末の用法に含める形式.....	172
付録 6. オノマトペの述語用法に関するアンケート用紙.....	175
付録 7. オノマトペの述語用法に関するアンケートの結果.....	183
付録 8. オノマトペの述語用法に関するアンケートの結果（オノマトペ別）	190
謝辞	196

図 表 目 次

【図】

図 1.1 洋語の述語形式化 (村木 1991:211)	16
図 1.2 オノマトペの述語形式化 (村木 1991:211 より作成)	16

【表】

表 1.1 日本語のオノマトペの音韻形態 (田守・スコウラップ 1999 : 19-25 より作成)	3
表 1.2 2モーラの語基のバリエーション	13
表 1.3 金田一 (1950:9-12) による動詞の4分類	19
表 1.4 アスペクトの違いに基づく動詞分類 (工藤 1995:69-78 より作成)	21
表 1.5 動作・作用の動詞の語彙的アスペクト (中村 2001 : 30)	22
表 1.6 形容詞、名詞、状態動詞の語彙的アスペクト (中村 2001 : 31)	22
表 2.1 アスペクチュアリティーの表現形式 (工藤 1995:31-33 より作成)	25
表 2.2 アンケート対象者の情報	25
表 2.3 アスペクト・テンス体系 (工藤 1995:8)	28
表 3.1 「オノマトペ+する (全ての活用形)」の例文数が多いもの	32
表 3.2 「オノマトペ+させ」の例文数が多いもの	33
表 3.3 「オノマトペ+し」の例文数が多いもの	34
表 3.4 「オノマトペ+する」の例文数が多いもの	35
表 3.5 「する」と結びつきにくいオノマトペ (様態以外を表すもの)	43
表 4.1 主文末における「オノマトペ+ (と) する」 (動詞との共起制限が強いもの)	45
表 4.2 主文末における「オノマトペ+ (と) する」 (量を表すもの)	49
表 4.3 主文末における「オノマトペ+ (と) する」 (程度を表すもの)	51
表 4.4 「オノマトペ+『に』」と共起する動詞	54
表 4.5 結果の副詞と結びつく動詞 (仁田 2002 : 53-74) より作成	56
表 4.6 結果の副詞と結びつかない動詞 (仁田 2002 : 53-74) より作成	56
表 5.1 感情・感覚表現 (継続性があるもの)	59
表 5.2 感情・感覚表現 (変化結果の継続性があるもの)	60
表 5.3 感情・感覚表現 (継続性がないもの)	61
表 5.4 動作性が高いもの (意志性があるもの)	62
表 5.5 動作性が高いもの (意志性が関わらないもの)	64
表 5.6 動作性が中程度のもの	65

表 5.7 動作性が低いもの（意志性があるもの）	66
表 5.8 動作性が低いもの（意志性がないもの）	67
表 5.9 再帰用法	68
表 5.10 他動詞的な用法	69
表 5.11 性質	71
表 6.1 「オノマトペ+する」とアスペクチュアリティの表現形式との結びつき	72
表 6.2 アンケートの対象語	73
表 6.3 アスペクチュアリティの表現形式に前接する「オノマトペ+する」の条件	97
表 7.1 「する」と結びつきやすいオノマトペ	99
表 7.2 感情・感覚表現（継続性があるもの）	100
表 7.3 感情・感覚表現（変化結果の継続性があるもの）	101
表 7.4 感情・感覚表現（継続性がないもの）	102
表 7.5 動作性が高いもの（意志性があるもの）	103
表 7.6 動作性が高いもの（意志性が関わらないもの）	105
表 7.7 動作性が中程度のもの	106
表 7.8 動作性が低いもの（意志性があるもの）	107
表 7.9 動作性が低いもの（意志性がないもの）	108
表 7.10 再帰用法	109
表 7.11 他動詞的な用法	110
表 7.12 性質	111

凡 例

【本文】

- 「 」 : 日本語の表現および引用
 『 』 : 書名
 斜体 : 英語等その他の言語表現
 < > : 意味を構成する要素・用法など
 () : 注記および訳語
 【 】 : 注記
 / / : 音素表示 (phonemic representation)
 [] : 音声表示 (phonetic representation)
 { } : 語彙的意味素性、語彙的アスペクト素性

【例文】

- () : 出典
 下線 : 強調
 […] : 省略
 * : 容認されない表現 (文法的には的確であるが意味的に容認されない場合を含む)
 ? : 容認されるかどうか曖昧な表現

【コーパス】

- ・BCCWJ : 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」 (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese) 2008 年度版

【略号】

- C : 子音 (consonant)
 V : 母音 (vowel)
 Q : 促音
 N : 撥音
 Ri : り
 inc-p : 始動点 (inchoative point)
 ter-p : 終了点 (terminative point)
 pre-p : 準備期間 (preparatory duration)

- pro-dur : 過程期間 (process duration)
- res-dur : 結果期間 (resultative duration)
- スル形 : 述語 (動詞、形容詞、形容動詞、名詞) の終止形。「ル形」とも言われる。
(例) 「食べる」「暑い」「穏やかだ」「海だ」(普通形)
「食べます」「暑いです」「穏やかです」「海です」(丁寧形)
- シタ形 : 「～た」で終わる述語。「タ形」とも言われる。
(例) 「食べた」「暑かった」「穏やかだった」「海だった」(普通形)
「食べました」「暑かったです」「穏やかでした」「海でした」(丁寧形)
- シティル形 : 動詞の連用形に「ティル」が付いた形。「ティル形」とも言われる。
- シティタ形 : 動詞の連用形に「ティタ」が付いた形。「ティタ形」とも言われる。

【表記】

- ・オノマトペの長音を表す場合は長音記号(ー)を用い、直前の仮名の母音と同じに扱う。
ただし、例文の引用の場合は、引用元の表記に従う。
- ・擬音語は片仮名ではなく、平仮名で書く。ただし、引用の場合は、引用元の表記に従う。

序 章

0.1 本研究の背景

音や声をそのまま表現したものを「擬音語」、音響とは直接関わりのない状態や様子を音声にたとえて表したものを「擬態語」という。擬音語・擬態語は、音象徵語 (Akita 2009, 玉村 1989, 西尾 1983, 姫野 2005) とも称されるが、本論文では、総称として「オノマトペ」(仏: onomatopée, 英: onomatopoeia) (角岡 2007, 田守・スコウラップ 1999, 丹野 2005) を用いる。

日本語はヨーロッパの諸言語と比べると、オノマトペが多い言語として知られている。話者の心情や意図するところを的確に伝え、その場面や事物の様相を正確に描写するため、日常会話だけでなく、新聞、雑誌、広告、文学作品 (田守 2011)¹、絵本(深田 2013, 村上 2013)、漫画など様々な分野において幅広く用いられている。

このように、オノマトペは日常的に触れる言葉であるにも関わらず、感覚的であることから、言語の周辺的なものであると見なされ、長らく言語研究の対象として注目されなかった。しかし、現在では、和語、借用語などと並ぶ語彙グループとして、その音韻形態的特徴、意味的特徴、統語的特徴の解明、認知言語学的視点からの意味拡張に関する研究、医療やスポーツの現場におけるオノマトペの有効性、日本語教育で教えるべきオノマトペの選定や指導に関する研究 (秋元 2007, 玉村 1989, 三上 2003;2006) など、言語学の領域を超え、学際的に研究されている。

もう 1 点、オノマトペと非常に密接な関わりがあるものとして、「音象徵 (sound symbolism)」と呼ばれる現象がある。音象徵は、ある言語音に内在するイメージのことで、音と意味とに有契性があるという説明が一般的である。これは、フェルディナン・ド・ソシュール (Ferdinand de Saussure) の言う言語の恣意性の例外として頻繁に言及され、言語学やその関連分野において、研究対象とされている (筧・田守 1993, 田守・スコウラップ 1999, Hamano 1998)。

オノマトペは、日本語において語彙として確立されているが、オノマトペの統語機能について論じた研究は限られている (影山 2005, Kita 1997, Tsujimura 2001)。こうした背景から、本研究は、オノマトペをアスペクト性の観点から分類し、その分類ごとに、「する」が結びついて動詞となった際の主文末におけるスルとシテイルの基本的なアスペクト対立について論じる。また、どのような語彙的意味を持ったオノマトペが開始や継続といった時間的局面を表せるかを解明する。

¹ 宮澤賢治の作品には、賢治特有のオノマトペの使い方が現れている (田守 2002:112)。

0.2 本論文の構成

本論文の構成は以下のとおりである。

- 序 章： オノマトペについての概要、研究状況とその問題点を述べた。
- 第1章： オノマトペの音韻形態および統語的特徴、多義性、音象徴、機能動詞「する」、語彙化、アスペクトに関する先行研究を概観する。
- 第2章： 本研究の位置づけ、目的、具体的方法（書き言葉コーパスによる調査、およびアンケート調査）を述べる。また、オノマトペの「語彙的意味」と「語彙的アスペクト性」の定義を行う。
- 第3章： 分析対象とするオノマトペを選定し、対象とした480語と「する」との結びつきを書き言葉コーパスによって調べる。その調査結果を踏まえ、「『する』と結びつきやすいオノマトペ」と「『する』と結びつきにくいオノマトペ」に分けた。「『する』と結びつきやすいオノマトペ」は、感情・感覚表出現現、動き・状態、「させる」と結びつくもの、性質の4つに分類し、継続性か瞬間性か、動作性の程度、意志性の有無によって11に細分化する。「『する』と結びつきにくいオノマトペ」は、様態性を表すかどうかによって、大きく2つに分ける。
- 第4章： 第3章で「様態を表すもの」（「音を表すもの」「動詞との結びつきが強いもの」と「様態以外を表すもの」（「頻度」・「程度」・「量」・「結果の状態を表すもの」）に分類した「『する』と結びつきにくいオノマトペ」をカテゴリーごとに、BCCWJから引用した例を挙げて詳しく分析する。また、「『する』と結びつきやすいオノマトペ」と比較することによって、「する」と結びつきにくい理由について考察する。
- 第5章： 第3章で大きく11に分類した「『する』と結びつきやすいオノマトペ」ごとに主文末における「オノマトペ+する」の形態論的アスペクト（スル形、シタ形、シティル形、シティタ形のテンス、完成か継続か、動きか状態かなど）を記述する。
- 第6章： 主文末における「オノマトペ+する」と直前、開始、状態の出現、継続、直後、終了、完了を表すアスペクチュアリティーの表現形式との結びつきを書き言葉コーパスおよびアンケート調査の結果を踏まえて論じる。
- 終 章： 結論として、まず、「『する』と結びつきやすいオノマトペ」をまとめて示す。次に、11に分けた語彙的意味カテゴリーごとに、「オノマトペ+する」の語彙的意味と語彙的アスペクト性の関連性を体系的に示す。最後に、本研究の学問的意義と今後の抱負を述べる。

第1章

先行研究

1.1 オノマトペの先行研究の概要

1.1.1 音韻形態的特徴

オノマトペの音韻形態は、オノマトペが継続的な動きを表すか、瞬間的な動きを表すかに影響を与えている。たとえば、2モーラの反復形（「ころころ」「きらきら」）は継続的な動きや状態を表し、同じ2モーラを語基に持つCVCVQの形態のオノマトペ（「ころっ」「きらっ」）は瞬間的な動きを表す。

本章では、まず、日本語のオノマトペの音韻形態的特徴に関する先行研究を概観し、どのような音韻形態のオノマトペを分析の対象とするかを述べる。

田守・スコウラップ（1999:19-32）は、表1.1のとおり、日本語のオノマトペの音韻形態を1モーラ（mora）および2モーラを基本とする19種類に分けている。その中で、「と」を義務的に伴わず、「する」との組み入れが可能な形態は、CVQCVri（「ばっさり」、「ばつたり」、「がっくり」など）、CVNCVri（「ぼんやり」、「ふんわり」、「げんなり」など）、2モーラの反復形（「ばさばさ」、「ばたばた」、「ころころ」など）、2モーラの反復形の変種（「がさごそ」、「がたごと」、「からころ」など）であるとしている。

表1.1 日本語のオノマトペの音韻形態（田守・スコウラップ 1999:19-25より作成）

基本	音韻形態	オノマトペの例
1モーラ	CV	ふ（と） つ（と）
	CVQ	ちゅつ ふつ はつ ほつ かつ きゅつ ぱつ ぺつ
	CVN	ばん ぼん ちよん かん こん にやん ぱん ぽん
	CVV	がー ぐー ぎやー ぎゅー かー きやー きゅー
	CVVQ	ばーつ ふーつ かーつ ぱーつ さーつ すーつ
	CVVN	ばーん がーん ごーん きーん かーん きゅーん
2モーラ	CVQ-CVQ	くっくつ きやつきやつ きゅつきゅつ しゅっしゅつ
	CVN-CVN	ばんばん ぼんぼん かんかん ぱんぱん ぽんぽん
	CVV-CVV	がーがー ぎやーぎやー かーかー きやーきやー
	CVCV	がば ぐい はた ひし ひた ぴた ぴよ ぷい そよ
	CVCVQ	ばたつ ばさつ ぱらつ ぐさつ ころつ ぼきつ
	CVCVri	ばたり ばさり ぱらり ぐさり ころり ぼきり

CVCVN	ばたん ぼとん どきん ごろん こつん ぼきん
CVQCV	どっか はっし すっく
CVNCV	むんず ざんぶ
CVQCVri	ばっさり ばったり がっくり ぐったり にっこり
CVNCVri	ぼんやり ふんわり げんなり こんがり にんまり
2モーラ反復形	ばさばさ ばたばた ころころ きらきら めらめら
2モーラ 反復形の変種	がさごそ がたごと からころ かさこそ かたこと どたばた むしゃくしゃ ペちゃくちゃ うろちょろ

C = consonant (子音)、V = vowel (母音)、Q = 促音 (っ)、N = 撥音 (ん)

ri = り

オノマトペと「する」の間に「と」を義務的に伴う「はっとする」「かっとする」「ほつと/or/する」などは、慣用的な表現で、一語の動詞として定着している。「と」を随意的に伴う形態（「ぼんやり（と）する」、「きらきら（と）する」など）は、「と」を伴う場合、途中で途切れているような印象があるため、「と」がないほうが一語の動詞らしくなる。

次の例は、オノマトペが「と」を義務的、あるいは随意的に伴っている例である。オノマトペは、必須成分であるため、「(と)する」と切り離すと、(1b)、(2b)、(3b)、(4b)のように非文となる。

このように、オノマトペと「(と)する」を切り離すと文が成立しないため、本研究では、「『と』との共起が義務的な場合」も「『と』との共起が随意的な場合」も一語とみなす。

① 「と」との共起が義務的な場合

- (1) a. 年中から入園して、楽しく過ごせたようでホツとしました。
b. *年中から入園して、楽しく過ごせたようで しました ホツと。
- (2) a. でも、なんとなく一瞬、場がシーンとしたんです。
b. *でも、なんとなく一瞬、場がしたんです シーンと。

② 「と」との共起が随意的な場合

- (3) a. 僕もしようがないからにっこり (と) した。(CVQCVri)
b. *僕もしようがないから した にっこり (と)。
- (4) a. 僕の頭の中はひどくぼんやり (と) していた。(CVNCVri)
b. *僕の頭の中はひどく していた ぼんやり (と)。

オノマトペは、和語や漢語と異なる音韻形態的特徴を有している。田守・スコウラップ (1999 : 210-211) によれば、伝統的な日本語のオノマトペ語彙の独自性は主に以下の a~1 の諸要因に基づいている。

- a. 連濁²の適用を受けない：オノマトペの内部の形態素の始めの無声阻害音はけっして有声化を受けない。
- b. 有声軟口蓋閉鎖音の鼻音化の適用を受けない：「がばがば」のような反復形の 2 番目の要素の最初に起こる/g/は、一般語彙の場合 $g>\eta$ と発音されることはない。
- c. p>h 交替を受けない：オノマトペはある一般語彙の最初の形態素以外の形態素に見られる p>h 交替をけっして示さない。
- d. 語頭の/p/はオノマトペに際立って起こるが、和語³や漢語には起こらない。
- e. 2 モーラ反復形の様態副詞的なオノマトペの多くが Q の語末付加を受けるが、この種の接辞付加あるいは拡張は反復形の一般語彙や漢語にはけっして見られない。
- f. 2 モーラ反復形の結果副詞的なオノマトペは語中に Q が挿入されるが、この種の接辞挿入ないし拡張は反復形の一般語彙や漢語にはけっして見られない。
- g. 「り」の語末付加はオノマトペに限られる。
- h. Q の語末付加はオノマトペに限られる。
- i. N の語末付加はオノマトペに限られる。
- j. 反復形のオノマトペは語幹をさらに反復してその形態を拡張することができるが、このようなことは和語や漢語には決して起こらない。
- k. 2 モーラ反復形の様態副詞的なオノマトペは「と」を随意的に伴うが、和語の反復形は「と」を伴うのが普通であり、漢語の反復形は「と」を義務的に伴う。
- l. 様態副詞として機能する 2 モーラ反復形のオノマトペは、高低低低というアクセント型を持つが、反復形の漢語と和語は、それぞれ低高高高および低高高低というアクセント型を持つ。

以上のように、一般語彙とは異なる音韻形態的特徴を有しているオノマトペが、「する」と結びついて動詞化し、文に組み込まれた際に、どのような統語的特徴を示すかについて、書き言葉コーパスによる量的データの分析をすることで、明らかにする。本研究では特に、主文末におけるアスペクト性をオノマトペの語彙的意味ごとに体系的に示すことを目的とする。

次に、オノマトペの文中での用法を詳しく示す。

² 一般語彙の場合は、連濁の適用を受ける (hana-bana、kuni-guni など)。

³ 田守・スコウラップ (1999 : 210-211) は、「和語」を「本来語」としている。

1.1.2 副詞用法

オノマトペは副詞、動詞、形容動詞、名詞といった複数の文法範疇に跨るが、文中において、副詞として使用される場合が最も多い。三上（2003：197-199）は、上級教材に出現しているオノマトペを調査した。その結果は、助詞「と」を伴うか、あるいは、そのまま動詞に後接して様態副詞として機能しているオノマトペの用法が、全体の 58 %、形式動詞「する」を伴い動詞として機能する例が 18 %、「～とした・している」の形で形容動詞的に用いられる例が 7 %、形容詞や名詞に続く用法が 6%、「だ・です」を伴って文末にくる用法と名詞として振る舞う用法が 6%である。

このことから、オノマトペの中心的な用法は副詞であるが、「する」と結びつく用法はその次に多いことがわかる。次に、オノマトペの典型的な用法である副詞用法に関する先行研究を以下のとおり示す（田守・スコウラップ 1999：47-55, 仁田 1983：125, 仁田 2002：37）。例文は BCCWJ から引用した。

① 様態副詞

「状態副詞」とも呼ばれる。動きそのものに内属する側面の様子に言及することによって、動きが実現される際の実現のされ方を表している。(1a)のように助詞「と」を伴わない場合と、(1b)のように「と」を伴う場合がある。本稿で扱う「する」と結びつくオノマトペは、様態副詞に属している。

- (1) a. いい鶏は、羽につやがあってぴかぴか光っている。
- b. 時々少しの風が吹いて来て、笹の葉がさらさらと音を立てます。

② 量・程度の副詞

量の副詞および程度の副詞に分類できる。

- (2) a. ワインやウイスキーはうちにたんまりあるからね。（量の副詞）
- b. 漁獲はめっきり減りました。（程度の副詞）

③ 頻度副詞

事態生起の回数的あり方を限定し特徴づけたもの。このようなオノマトペは非常に少数である。

- (3) a. 薬剤添付文書はちょくちょく改定されている。
- b. これからも、ちょいちょい出かけるようにしようと思うんですよ。

④ 結果副詞

動きが実現した結果の主体や対象の状態のあり様に言及することによって、動きの実現のされ方を示す副詞的成分のことである。

- (4) a. …届いた日は雨で、その郵便物は雨の為びしょびしょになりました。
b. ただ、身も心もくたくたに疲れきっていた。

1.1.3 オノマトペ + 「する」

オノマトペを動詞化させる最も生産的なのは「する」である。姫野 (2005:18-19) は、「する」を伴うかどうかによって、オノマトペを以下の3つに分類している。

① 「する」を伴わない類

a. 共起する動詞に制限のあるもの

様態副詞の中心をなす類である。「ずらりと」と言えば「並ぶ」、「ふかふか」なら「浮く」と日本人ならだれしもすぐ思い浮かぶほど動詞との関連が強い。

b. 共起する動詞にあまり制限のないもの

程度、頻度などを表す類で、広くいろいろな動詞を修飾する。

(例) どんどん、すっかり、めっきり、ちょいちょい、ちょくちょく

② 「する」と他の動詞をともに伴う類

これらは、様態副詞とサ変動詞の語基としての機能を併せ持つ類である。

(例) にっこりする／笑う、うとうとする／眠る、きょろきょろする／見る
がつがつする／食べる、ぶらぶらする／歩く、ぐらぐらする／揺れる

③ 「する」のみを伴う類

a. 制限なし

「びっくりする」のように間に「と」を介さず、完全に動詞として一語化しているものである。

(例) びっくりする、がっかりする、どきどきする、やきもきする

b. 制限あり(シテイル形で状態を表す)

(例) ほそりしている、がっかりしている、のっぺりしている、くりっとしている

本研究では、この枠組みを参考にしながら、オノマトペの語彙的意味と「する」との結びつきの関連性を示すことを一つの目的とする。

1.1.4 オノマトペと結びつく接尾辞

1.1.4.1 動詞的活用の接尾辞

日本語の動詞的活用の接尾辞は「つく」、「めく」、「げる」、「かる」、「ぐ」、「ける」、「む」、「める」、「やく」、「る」、「かす」などがある（田守・スコウラップ 1999：56–59）。これらは、擬情語もしくは擬態語の2モーラ反復形の語基と結びつく。日本語のオノマトペの中には(1a)「よろける」、(1b)「よろめく」のように、同一の2モーラ反復形の語基に複数の接尾辞が結びついている例もあるが、基本的には結びつく接尾辞が一つに決まっている。オノマトペと接尾辞の結びつきが強いという点で、語彙化が進んだ段階であると考えられる。

- (1) a. 起きあがろうとしていたワタルはくらくらとよろけた。
b. バスが動いて、四人はよろめいた。

このような接尾辞のうち、もっとも生産性が高いのは「つく」である。以下に例を挙げる。

(例) ばさつく いらつく べとつく もたつく ちらつく むかつく
ねばつく ごろつく ぱさつく がたつく にやつく ふらつく

「つく」を伴うオノマトペは、否定的なものに限られるが、否定的な意味を持つオノマトペが全て「つく」を伴って動詞化されるわけではない。この制約は、以下の例のようにオノマトペ以外にも当てはまる（田守 1999：51）。

(例) 凍てつく 焼けつく 焦げつく かみつく 纏わりつく

菅原・浜野（2013：25–26）は、コーパスデータを用いた分析の結果から、「する」と「つく」の違いについて、次のように述べている。

- I. 主語が Theme（主題）の場合、擬態語が継続的な動きや状態を表しているときには「する」が、擬態語が瞬間的な動きや一時的な状態を表しているときには「つく」が好まれる。また、Theme の表面もしくは Theme が添付されるものの表面の状態を表す場合に「つく」が好まれる。
- II. 主語が Agent（動作主）の場合、擬態語が身体全体の動きを表す場合には「する」が、身体部位の動きを表す場合には「つく」が好まれる。

「する」と「つく」には、アスペクト的な違いもある。たとえば、「むかつく」はシティル形で継続的な状態を表せる。それに対して、「むかっとする」は、通常、シティル形で継続性を表すことはない。また、「むかつく」は、経験主が1人称の場合、スル形で直接的な感情表出表現になるが、「むかっとする」は、スル形で直接的な感情表出表現にはならない。このように、両者には相違点が確認できるが、接尾辞「つく」に関しては、本稿では詳しく扱わない。

1.1.4.2 形容動詞的活用の接尾辞

形容動詞的活用の接尾辞には、「か」と「やか」がある。「か」と「やか」はオノマトペだけではなく、名詞、形容詞の語幹などの状態を表す語と結びつく。オノマトペの2モーラに形容動詞の語幹を作る接尾辞がついた例は以下のとおりである。

(例) おろおろ	→	おろか	ひそひそ	→	ひそか	さやさや	→	さやか
ほんのり	→	ほのか	ゆったり	→	ゆたか	しななり	→	しなやか
ゆるゆる	→	ゆるやか	さっぱり	→	さわやか	にこにこ	→	にこやか
ひやひや	→	ひややか	すくすく	→	すこやか	やんわり	→	やわらか

形容動詞になることで、「おろか」など、オノマトペとは意味が異なっているものや、「にこやか」など意味に関連性があるものがある。

1.1.5 名詞修飾用法

名詞修飾用法は「オノマトペ+『する』『の』『な』」の形式がある。

① オノマトペ + 「する」

(1) は、それぞれ「オノマトペ+する」がスル形、シタ形、シティル形で名詞を修飾している例である。

- (1) a. 日焼けが過ぎて少しひりひりする場所もあるが、…
- b. ぴかぴかした扉が、ぐるり360度、すっかりしっかりと俺たちを取り囲んでいた。
- c. まだ買ったばかりでぴかぴかしている食卓テーブルと椅子のセットがあり…

② オノマトペ + 「の」

(2a)の「ぴかぴかの」は「高い」「立派な」、(2b)の「ふわふわの」は「柔らかい」という意味で形容詞的に用いられている。「の」と結びついているが、「ぴかぴか」「ふわふわ」が、名詞の特徴である主語や目的語になる例は極めて少ない。

- (2) a. 高いネクタイも、ぴかぴかの靴も、りっぱな背広も、なんの意味もない。
- b. ふわふわの食感を追求したフランス料理のようなお好み焼き。

③ オノマトペ + 「な」

(3)は、オノマトペに「な」が結びついている例文である。これらは、連用形で「ばらばらに」「ほくほくに」、終止形で「ばらばらだ」「ほくほくだ」のように、形容動詞的な活用をする。ただし、「ばらばらの」「ほくほくの」の形も多くみられることから、品詞については検討が必要である。

- (3) a. メンバーのばらばらな意見をリーダーが1つにまとめた。
b. じゃが芋や里芋もほくほくな食感が好きなのか大好物ですね。

「の」や「な」を伴い、名詞を修飾するオノマトペは、動詞よりは、形容詞に近いため、動作性は低いと考えられる。

1.1.6 オノマトペの名詞用法

名詞用法とは、(1)のように主語、(2)のように目的語になるものである。

- (1) a. 電話して状況説明して対応してもらいます。やっぱりぴかぴかがいいですから。
b. 子供ともども落ち着けないし、私自身いらいらが募ります。
- (2) a. このもやもやを消すにはどうすればいいですか。
b. 食べ終わった後麦飯のぬるぬるをごしごし拭き取りました。

以上のように、オノマトペは、意味拡張、あるいは語彙化の過程で、典型的な副詞用法から逸脱し、動詞、形容動詞、名詞として文中に組み込まれている。

1.1.7 オノマトペの多義性について

オノマトペには多義語が多い。(1a)と(1b)は、同一のオノマトペに「する」が結びついて動詞になり、異なる意味を表している例である。

- (1) a. 動物園のパンダの食事時間は、二時間くらいです。あとは、なにもしないで、二ろごろしています。
b. 斜面を埋め尽くしているカブの葉のすきまを見ると、石ころがごろごろしている。

一般語彙においても、多義語は多数ある。『日本語多義語学習辞典 形容詞・副詞編』(2011: 101-103)によると、「からい」は、①「刺激で舌が熱くなるような味」、②「塩味が強い」③「酒の味が強い」④「態度・評価が厳しい」のように意味が拡張している。ただ

し、形容詞であるということに変わりはない。それに対して、オノマトペは同一の語であっても品詞が異なる場合がある。例えば、(1)と(2) のように「ぴったり」は、複数の意味を持っており、その意味に応じて品詞を変える。

(1)は、「隙間なくついているさま」を表し、そのままの形、あるいは助詞「と」を伴い、副詞として機能している例である。

(1) あいかわらずの満員で、英治と相原はぴったりとくついた。

(2a) から(2c)は、「ちょうどいい」という意味で、「オノマトペ+する／だ」あるいは、そのままの形で述語になっている例である。(2d)から(2f)は、同様の意味で、「した」「な」「の」の形で名詞を修飾している例である。

- (2) a. ドタバタという言い方がぴったりする。
b. 黒サテン生地の上品なバッグはドレスアップスタイルにぴったり。
c. そば粉やでんぶんの粉から作るあっさりとした冷麺は、焼き肉を食べた後の仕上げにぴったりだ。
d. スキニーな身体にぴったりしたTシャツ。
e. …これから季節にぴったりなアメ車を下見しています。
f. 軽くて持ち運びが楽なので、小さな子どもやお年寄りにぴったりのサイドテーブルになります。

このようなオノマトペの意味は、プロトタイプ的意味から拡張したと考えられる。意味の拡張には、擬音語から、抽象的な意味である擬態語へと意味が拡張していくパターンと、擬態語から擬態語へ意味が拡張するパターンがある。擬音語から擬態語へ意味が拡張する例として、次のような「乾燥状態」を表す2モーラ反復形のオノマトペがある(伊東 2009 : 27)。

(例) からから、がらがら、ぱらぱら、さらさら、ざらざら、かさかさ、がさがさ
ぱさぱさ、ばさばさ、かりかり、がりがり、ぱりぱり、ぱりぱり

上記のような「乾燥状態」を表すオノマトペの音韻形態のC1は、破裂音[k/g/p/b] (かたいものがぶつかる音) もしくは摩擦音[s/z] (乾いたものが擦れる音) である。C1が破裂音、C2が摩擦音の場合、オノマトペ全体としては摩擦音を表す。擬音語の意味で摩擦音を

表すオノマトペは、意味拡張し、音の発生源である乾燥状態を表す。擬音語は、物質音を模倣しているという点で、典型的なオノマトペであるが、拡張した意味は語彙化の程度が進んでおり、統語的にも副詞から逸脱する。

たとえば、「かりかり」「がりがり」は、(3a)および(3b)のような「噛み砕いたり割れる音」から、(3c)「気分が苛立って怒りっぽくなっている様子」、(3d)「水分がない様子」(3e)「非常にやせている様子」に意味が拡張している。(3c)から(3e)は、統語的にもオノマトペの典型的な用法である副詞から逸脱している。

- (3) a. 切ったバゲットをトーストにし、たっぷりとブルサンのガーリックチーズを塗り、
カリカリと音を立てて食べる。
b. こしようはぜひともガリガリと挽きたい。
c. いいんだ、佐伯。そうカリカリするな。
d. ベーコン2枚はフライパンでカリカリになるまで炒めます。
e. ミミは栄養失調のモデルみたいにがりがりだった。

もう一つ、「ぱりぱり」「ぱりぱり」を例に挙げる。「ぱりぱり」「ぱりぱり」は、(4a) および(4b)のように噛む音、勢いよく裂いたり剥がしたりする音から、(4c)の「勢いのよいさま」、(4d)および(4e)の「水分がなく、こわばっているさま」に意味が拡張している。「ぱりぱり」「ぱりぱり」も音から、音の発生源である乾燥したものへ意味が拡張したと考えられる。

- (4) a. 中を歩くと、床に散らばったガラスがバリバリと音を立てた。
b. そのおにぎりとたくあんを持って主人と野山に出かけ、お昼にパリパリと音を立てて食べるのがとっても楽しい。
c. さて、自分でも信じられないくらい、チーフとしてバリバリ働いています。
d. 客の回転を考え、高温で揚げるとバリバリの海老の尻尾に揚がります。
e. ここのたい焼き、薄くてパリパリの皮に餡子が「これでもかっ！！」って位詰まつてましてね。

このように、プロトタイプ的意味である擬音語から拡張した擬態語は、擬音語と関連した意味を持つが、動詞、形容動詞、名詞となって抽象度を増す傾向にある。一方、感情を表すオノマトペ（「いらいら」「わくわく」など）のように、意味が限定されており、副詞としての用法よりは、「する」との結びつきが強固なものもある。

1.2 音象徴 (sound symbolism) について

田守・スコウラップ (1999:7) は、音声はたまたまそれを含む特定の語の固有の意味とは別の象徴的な意味、すなわち一般に想定されている語と意味の慣習的な関係を超える意味を示唆することがあり、それが音象徴 (sound symbolism) であると述べている。

オノマトペには音象徴が体系性を持って広範に存在する。母音と子音の個別の音象徴に關しては、浜野 (2014) で詳細に記述されているが、本研究に直接関わりのある音象徴は、2モーラの語基の後に付着する促音、撥音、「り」、反復形である。

表1.2は、「2モーラ語基のバリエーション」である。形態的に異なっているが、共通の語基を含んでいるため、それぞれ非常によく似た意味を持っている。基本的な意味は共通の語基によって表され、それぞれの微妙な意味の違いは、語基以外の要素、すなわち「り」・促音・撥音の音象徴と関わっている。

表1.2 2モーラの語基のバリエーション

語基	どき	がく	ぽき	ぱろ
CVCVQ	どきつ	がくつ	ぽきつ	ぱろつ
CVCVN	どきん	がくん	ぽきん	ぱろん
CVCVri	どきり	がくり	ぽきり	ぱろり
2モーラ反復形	どきどき	がくがく	ぽきぽき	ぱろぱろ

浜野 (2014:52-58) は、それぞれについて、以下のような例を挙げて説明している。

<語末の促音>

音や運動が急激で、唐突に終結することを表す。

(1) a. ピッと笛をふいた。

b. 稲妻がピカッと光った。

ただし、促音の意味は、次の例文のように定義に当てはまらないことも多い。

(2) a. ボケっと突っ立っていた。

b. ボヤっと過ごしている。

<撥音>

共鳴や余韻を表す。

(3) a. ペタんとはんこを押した。

b. ドアがバタんと閉まった。

<語末の「り」>

完了、ゆったりした感じを表す。

(4) ボカリと穴があいた。

＜重複＞

継続性を表す。

- (5) a. 雨がポツポツ降ってきた。
b. 意見がコロコロかわる。
c. 丸太がゴロゴロ転がっている。
d. 手がカサカサしている。

以上のように、オノマトペの反復形、語末や語中に現われる促音や「り」の音象徴的意味は、継続性や瞬間性といった基本的なアスペクト対立をオノマトペの語彙的意味に生じさせている。

1.3 機能動詞「する」

田守（2002：59-60）によれば、オノマトペに動詞としての役割を担わせる方法のうち、「する」という動詞語尾を付け加えるのが最も生産的であるが、これはオノマトペだけに限ったことではなく、「研究する」「勉強する」のように漢語に由来する名詞や、「インプットする」「アップする」のように洋語⁴にも当てはまる一般的な現象である。ただし、すべてのオノマトペが「する」と結びつくわけではなく、「ざわざわ」「どんどん」のような擬音オノマトペは、「する」と結びつかない。一方、典型的な擬態オノマトペである、人間の心理状態を表す擬情語は、例外なく「する」と結びつくことができる。

オノマトペ語彙と上記のような漢語、洋語の共通点は、動詞のように[u]で終わる、あるいは形容詞のように[i]で終わるといった特徴がないことである。そのため、動詞化する際に、「する」と結びつきやすい。この他に、オノマトペ語彙、漢語、洋語に共通しているのは、「な」や「の」を伴う名詞修飾用法（ピカピカな、安全な、ピンクの）、接尾辞「やか」「げ」を伴う形容動詞用法（「ゆるやか」「自慢げ」など）である。

村木（1991：204-213）によれば、このような漢語や洋語を動詞化させる「する」は、「実質的な意味を名詞にあづけて、みずからはもっぱら文法的な機能をはたす動詞」である。この「する」は、「かける」「とる」「いれる」といった動詞と同じ「機能動詞」の中でも典型的なものであるとして、以下のように説明している。

(1) と (2) の文は、それぞれ下線部の形式が異なっているが、同義性が保たれている。(1a) と (2a) の文の動詞「さそう」「におう」の意味は、(1b) と (2b) の文では、「さそい」「におい」などの広い意味での動作性（行為・過程・状態・現象）の名詞によって表現され、これらの名詞と組み合わさっている「かける」「する」といった動詞は、実質的な意味が希薄で、

⁴ 田守（2002）は、「洋語」を「外来語」としている。

述語形式をつくるための文法的な機能を果たしていると考えることができる。多くの機能動詞は、本来の意味を失い、名詞に託された、行為・過程・状態・現象などのなんらかの側面を特徴づけているにすぎないとしている。

- (1) a. 太郎は 花子を さそった。
b. 太郎は 花子に さそいを かけた。
- (2) a. なにか におう。
b. なにか においが する。

また、村木（1991：204-213）によると、日本語の動詞は、テンスやムードなどの文法的なカテゴリーに支えられた語形変化の体系を持っており、一般に他の品詞からの動詞への転成を困難にしている。そのため借用語である漢語や洋語の単語が、形態的な拘束のない名詞の仲間として日本語の中にとりこまれ、それを動詞化することになる。現代日本語の場合、名詞からの動詞化は、生産力の高い「一する」に頼っている。「一する」の他には、「一化一する」（国有化する、近代化する、抽象化する、具体化する、……）「一づける」（基礎づける、義務づける、位置づける、……）などが抽象名詞を動詞にかえているが、「一する」の生産力には及ぶものではない。

動詞の語結合への展開は、特に和語動詞の場合に限られ、動詞が引きのばされた格好で、名詞を含む語結合になるとして、以下の例（におう、さそう）を挙げている。

(例) におう、さそう
※におう → においが する
におう → 語彙的意味 → におい (が)
文法的意味 → する

※さそう → さそいを かける
さそう → 語彙的意味 → さそい (を)
文法的意味 → かける

名詞が語結合に展開する例は、漢語や洋語の名詞に顕著で、図1.1に示されるように、動作性の意味内容をもつ名詞を述語形式化する。

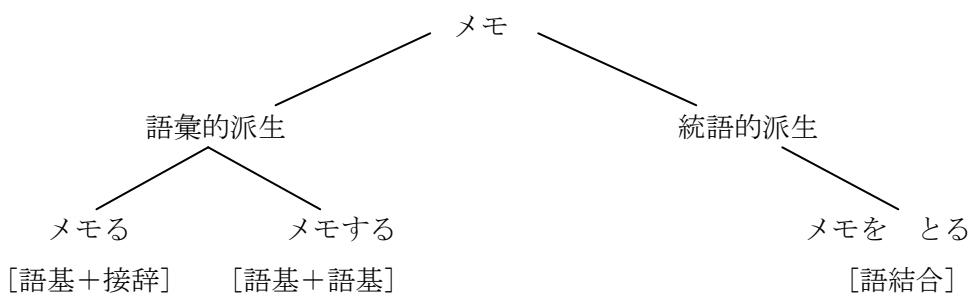


図 1.1 洋語の述語形式化(村木 1991:211)

村木 (1991:211) を参考に、「オノマトペ+する」の述語形式を図 1.2 のように示した。「する」は動詞化させる機能しかなく、「オノマトペ+する」の意味は、オノマトペの語彙的意味が決定している。その語彙的意味ごとに、統語的特徴が異なっていると考える。

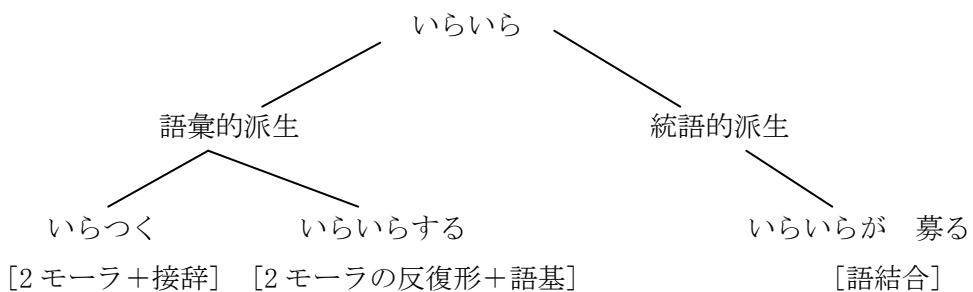


図 1.2 オノマトペの述語形式化(村木 1991:211 より作成)

影山 (2005 : 1-9) によれば、擬態語に結びつく「する」は、意味構造の鋳型を、擬態語は具体的な意味内容をそれぞれ分担して受け持っている。オノマトペに「する」が結びついた擬態語動詞は、基本的に通常の語彙的動詞と実質的に同じであるが、他動詞用法に関しては文法的な違いがあるとしている。その違いは、擬態語動詞が状態変化使役の他動詞になりにくいことである。(3)の擬態語動詞は、ヲ格に身体部分が現れ、主体が身体部分に働きかけて変化をさせる再帰用法である。影山 (2005 : 1-9) の調査では、「オノマトペ+する」と「オノマトペ+させる」をインターネットでランダムに検索した結果、他動詞形(「する」)よりも使役形(「させる」)のほうが 3 倍近く多くなっている。

- (3) a. 足を {ばたばたする (約 25%) / ばたばたさせる (約 75%)}
 b. 手と足を {ぶらぶらする (約 25%) / ぶらぶらさせる (約 75%)}
 c. 歯を {かちかちする (約 20%) / かちかちさせる (約 80%)}

- d. 口を {ぱくぱくする (約 25%) / ぱくぱくさせる (約 75%)}
- e. 目を {ぱちくりする (約 15%) / ぱちくりさせる (約 85%)}

影山（2005：7-9）は、擬態語動詞が状態変化使役の他動詞になりにくい理由を次のように説明している。「する」そのものには(4)のように状態変化使役の意味があり、その場合はヲ格が成立する。

(4) 彼女は息子を医者にした／髪を短くした。

一般に、日本語でヲ格が現われるのは(5)の3つの状況である。(5a)および(5b)に相当する擬態語動詞は、それぞれ、(6a)および(6b)のとおり存在するが、(6c)の一般語彙に相当するものはない。そのため、使役形が使われているとし、オノマトペと結びつく「する」は、独立した動詞の「する」と比べると、他動性（Transitivity）が非常に低いとしている。

- (5) a. ACT ON の対象 (壁をたたく)
- b. MOVE が選択する移動経路 (公園を散歩する)
- c. 使役変化の対象 (ビルを建てる)

- (6) a. 背中をトントンする。
- b. 繁華街をうろうろする。

以上のとおり、オノマトペと結びつく「する」は、他動性（Transitivity）が低いことが一つの特徴であり、そのために「させる」と結びつく。本研究では、「させる」と結びつくオノマトペを身体の部分などを動かす再帰用法と、動作主のはたらきかけが対象に変化を及ぼす他動詞的な用法に分けて、そのアスペクト性を分析する。

1.4 オノマトペの語彙化

オノマトペの語彙化とは、オノマトペが統語構造、すなわち文に自由に入れる程度を指す。覧(1993:39-42)は、より語彙化されているオノマトペと、あまり語彙化されていないオノマトペを区別し、語彙化の程度を測定するために、次の二つの基準を設け、その基準に基づき、語彙化の程度を四つの段階⁵に分けている。

⁵ オノマトペは多義語が多いことから、複数の段階に跨っているオノマトペもある。たとえば、雷が鳴る様子である「ゴロゴロ」は、第一段階の臨時形となり、「ごろごろと転がる」は第二段階、「家でごろごろしている」は第三段階である。

二つの基準

- ① 引用性 — 引用として括弧内に入るか、引用を示す助詞の「と」をとるかどうか。
- ② 語彙変化 — 時制の変化を示す「活用」がみられるかどうか。

語彙化の程度の四段階

【第一段階】

臨時形（例）ガビューン、るんるん

【第二段階】

「と」を伴い、かつ「語形変化」をしないものである。日本語のオノマトペは、ほとんどがこの部類に属する。この段階のオノマトペにおいては、「と」の生起や「抽象度」に関して、かなりの差異がある。以下のように、「と」の生起が義務的な場合と、「と」の生起が随意的な場合に分類できる。

<「と」の生起が義務的な場合>

- a. 单音節（例）「ツと立ち上がる」
- b. 促音で終わる。（例）「バサッと落ちる」
- c. 撥音で終わる。（例）「きちんとまとめる」
- d. 同じ音節の繰り返しの間に促音が入る。（例）「せっせせっせと働く」
- e. 長母音で終わる。（例）「グーと吐く」
- f. 「り」で終る非反復形で、語中に促音や撥音を含まないもの（例）「からりと晴れる」

<「と」の生起が随意的な場合>

- g. 反復形（例）「ぶらぶら（と）歩く」
- h. 「り」で終る非反復形で、語中に促音や撥音を伴う。
(例)「ポッキリ（と）折れる」「ほんやり（と）見える」

【第三段階】

「と」が起こらず、「語形変化」をなす類である。代表的なのが「する」で、例えば、第三段階の「びっくりする」においては、「びっくり」と「する」の結合が極めて緊密であるために、その間に「と」が挿入されない。さらに、この「する」は、なんらかの「行為をする」といった動詞ではないが、「した」のように、時制を担う要素になっている。こうした第三段階のオノマトペは擬態語であり、その中でも、心的状況を述べる擬情語であることが多い。

【第四段階】

語源的にはオノマトペであったものが、語彙化の程度が進んで、一般語彙と区別されなくなつたものである。たとえば、「驚く」「注ぐ」「騒ぐ」「轟く」がある。(1b)は、「はっ」と「びっくりする」といった、第二段階と第三段階のオノマトペの共起がはばまれているのに対して、(1a)ではそうでない。というのは、「驚く」が一般の動詞のように、低段階のオノマトペと一緒に使われるのを許しているからである。こうした例は、日本語の母語話者はオノマトペであるという認識がなく、表記にも漢字が用いられる。

- (1) a. はっと驚いた。
b. *はっとびっくりした。

本研究で対象とする「オノマトペ+する」は、語彙化の第三段階に属するものになる。ただし、形態によっては、「と」が義務的に生起するものも含む。

1.5 アスペクトに関する先行研究の概観

1.5.1 アスペクトの違いによる動詞分類

アスペクトとは、話し手が動作の過程をどのような視点から考えているかを表す文法範疇である。アスペクト研究は、海外でも国内でも研究が盛んな領域である。日本語のアスペクト研究は、動詞をアスペクト的に分類することを軸に研究が進められた（金田一 1950, 藤井 1966, 奥田 1977, 森山 1988）。アスペクトの種類は個々の言語によって異なるが、主なものに完了・未完了・継続・瞬時・習慣・反復・起動・終止・結果などがある。

金田一（1950）は、シテイルを中心とする様々な要素を付加することによって変化するアスペクト的意味の違いを基に、動詞を表 1.3 のように分類した。

表 1.3 金田一（1950：9-12）による動詞の 4 分類

	種類	例
状態	状態動詞	値する、相当する、似合う、～れる、られる、～すぎる
	第四種の動詞	しばぬける、優れる、ひょろひょろする、ありふれる、富む
動作	継続動詞	食べる、降る、遊ぶ、描く、建てる、作る、拭く、歌う
作用	瞬間動詞	死ぬ、倒れる、完成する、閉まる、汚れる、曲がる、知る

表 1.3 のそれぞれの動詞の説明と、文中に用いられている例（BCCWJ から引用）を以下に示す。

＜状態動詞＞

スル形で、時間の観念を超越して本来的に状態を表す動詞で、シテイル形を持たない。

- (1) あと、右目のところに大きなほくろが ある/*あっていいる。
- (2) …ツバメ・サギなどの夏鳥の渡りを見ることが できる/*できていいる。

＜第四種の動詞＞

第四種の動詞は変化の過程は捨象され、結果状態に焦点が置かれている。叙述用法では必ずシテイル形となる。

- (3) 海際に 6 万トンの豪華客船をまねた巨大な船の科学館が そびえている。
- (4) 生物の進化のしくみを生存競争と環境への適応によって説明しようとした点で 優れている。

＜継続動詞＞

一定の期間続いて行われるような動作・作用を表し、シテイル形でその動作が進行中であることを意味する。スル形で習慣や未来を表す。

- (5) 隣の席のお父さんは、ヘッドホンで音楽を聞きながら本を 読んでいる。
- (6) …毎日やってきて、「どこまでできましたか」と、二、三枚できた四百字詰めの原稿を 読む。（習慣）
- (7) 今朝はあいにくの曇り空。お昼ぐらいから雨が 降るらしいです。（未来）

＜瞬間動詞＞

シテイル形で、既に変化が完了して結果状態が続いていることを意味する。

- (8) それに、美代治氏の乗った新幹線はとっくに 到着している。
- (9) まだ明りがついていた左手の宴会場の灯も、いまは 消えている。

工藤(1995:69-78)は、金田一(1950)の動詞分類に修正を加えた藤井(1966)の分類を基に、表1.4のような分類を示している。工藤(1995)によれば、動き動詞と状態述語は連続的であり、中間には、「思う、心配する、緊張する」のような心理的状態や「匂う、見える」のような知覚、「疲れる」のような生理的状態を表す動詞がある。また、状態動詞には、「ある」「いる」のように、シテイル形が存在しないもの、「存在する/存在している」のようにスル形・シテイル形の双方があっても、アスペクト的対立を形成しないもの、「優れている」「似ている」など、スル形が存在しないものに分かれる。

表 1.4 アスペクトの違いに基づく動詞分類 (工藤 1995 : 69-78) より作成

【1】動き動詞 ⁶ ：シティルとスルのアスペクト対立がある動詞
【1.1】主体動作動詞：スル（完成）とシティル（動作継続）の対立となる動詞 (例) 開ける、壊す、見る、飲む、歩く
【1.2】主体変化動詞：スル（完成）とシティル（結果継続）の対立となる動詞 (例) 開く、壊れる、切れる、死ぬ、入る、建つ、来る、座る、倒れる
【2】内的状態動詞：心理的状態や知覚、生理的状態を表す動詞 (例) 思う、心配する、緊張する、匂う、見える、疲れる
【3】状態動詞 ⁷ ：シティルとスルのアスペクト対立がない動詞
【3.1】シティル形式がない動詞 (例) ある、いる
【3.2】スル形式がない動詞 (例) 優れている、似ている、そびえている

以下は、工藤（1995 : 70）による、それぞれの動詞の説明である。

【1】動き動詞

時間のなかに成立（開始）・展開・消滅（終了）し、場合によっては、結果を残すものの動態的な運動をとらえている。現代日本語の動詞の圧倒的多数が、ここに属している。スルーシティルのアスペクト対立が、典型的な形で成立する。

【2】内的状態動詞

時間的展開性があるが、運動動詞=外的事象動詞と異なり、思考・感情・知覚・感覚という内的事象をとらえている。

【3】状態動詞

時間の中への現象を問題にしえない<関係・特性>をとらえているか、時間のなかに現象したとしても、時間的展開性のない<存在・空間的配置>をとらえている。

「オノマトペ+する」の多くは、動作性と状態性の両方の性質を有していること、意志性のない自動詞であることから、典型的な動き動詞とは言えない。典型的な動き動詞は、スル形で未来を表し、シティル形で継続を表すというアスペクト対立があるが、ほとんどの「オノマトペ+する」は、その対立がない。また、動作性を含んでいるものは、典型的な状態動詞ではない。すなわち、「オノマトペ+する」は、「動き動詞」と「状態動詞」の中間に位置しているが、これまでの動詞分類では、その中間に「内的状態動詞」以外の動

⁶ 工藤(1995:69-78)は、「動き動詞」を「運動動詞」としている。

⁷ 工藤(1995:69-78)は、「状態動詞」を「非運動動詞」としている。

詞を当てはめることはできない。したがって、動きか状態か、動作か変化かといった基準だけでは、「オノマトペ+する」の分類はできないため、新しい基準を設定する必要がある。「オノマトペ+する」の分類基準に関しては、第2章の「用語の定義」で詳しく述べる。

1.5.2 語彙的アスペクト

中村(2001:25-31)は、アスペクト素性を長さの観点から、時点(point)と期間(duration)に分け、pointの下位の素性に、始動点(inc-p)と終了点(ter-p)を、durationの下位の素性に、始動点の前の幅を表す準備期間(pre-dur)、動作・作用の長さを表す過程期間(pro-dur)、結果の残存の長さを表す結果期間(res-dur)を設けている。また、語彙的アスペクトは、プラス(+)またはマイナス(−)を値とするアスペクト素性の集合と考え、動詞の種類別の語彙的アスペクト(表1.5)および、形容詞、名詞、状態動詞の語彙的アスペクト(表1.6)を示している。動作・作用の動詞の下位分類である継続動詞と瞬間動詞については、過程期間を指定できる動詞(+pro-dur)が継続動詞、指定できない動詞(−pro-dur)が瞬間動詞である。

表1.5 動作・作用の動詞の語彙的アスペクト(中村2001:30)

動詞の種類	語彙的アスペクト	例
継続 結果動詞	{+inc-p, +pro-dur, +ter-p, +res-dur}	着る、かぶる、増える
継続 非結果動詞	{+inc-p, +pro-dur, ±ter-p, −res-dur}	読む、書く、聞く、話す
瞬間 結果動詞	{+inc-p, −pro-dur, +res-dur}	寝る、死ぬ、結婚する
瞬間 非結果動詞	{+inc-p, −pro-dur, −res-dur}	終わる、始まる

表1.6 形容詞、名詞、状態動詞の語彙的アスペクト(中村2001:31)

カテゴリー	語彙的アスペクト	例
形容詞	{−inc-p, +pro-dur, −ter-p, −res-dur}	熱い、うれしい、寂しい、静かだ
名詞+ダ		先生だ、学生だ、妊婦だ
状態動詞		ある、要する、曲がる、聳える

動詞と結びつく時間的局面を表す表現形式は複数ある。たとえば、「継続」を表す表現は「しつづける」「しつつある」「しているところだ」などがあり、それぞれの特徴や前接する動詞に求める条件が異なっている。したがって、本研究では、「オノマトペ+する」の語彙的アスペクトに関して、「開始」「継続」「終了」という大きな枠組みではなく、様々な時間的局面を表す個別のアスペクチュアリティーの表現形式と「オノマトペ+する」の結びつきについて論じる。

第2章

本研究の目的と方法

2.1 本研究の位置づけ

これまでの言語学的研究でオノマトペがとりあげられたのは、音声的・音韻的な性質と文体や表現力といった修辞的な側面に限られ（田守・スコウラップ 1999, Hamano 1986 など）、理論的な意味論および統語論においてオノマトペの構造を正面から論じた研究は非常に少ない。オノマトペに関する文法面の研究は、副詞用法の意味記述などが主流である。述語用法に関する研究は、影山（2005, 2006）や Akita(2006)があるが、それらは述語形式に焦点を当てた研究ではない。また、従来の動詞のアスペクト研究（岩本 2008, 金水 2000, 金田一 1950, 中村 2001）では、「オノマトペ+する」は、十分に分析の対象にされているとは言えない。

このような背景から、本研究では、オノマトペが「する」と結びついて動詞となった「オノマトペ+する」が、文に組み込まれた際に、どのような統語的振る舞いをするのかを実際の書き言葉における使用例と日本語母語話者に対するアンケート調査結果の分析によって、明らかにする。「オノマトペ+する」は、文中で、主文末においてはもちろん、従属節においても用いられ、実際の使用場面では、アスペクト、テンス、ヴォイス、ムードなどが結びつく。本研究では、「オノマトペ+する」の主文末におけるアスペクト性に焦点をあてて論じる。

2.2 本研究の目的

本研究の目的は大きく以下の 2 点である。

- I　どのような特徴を持った日本語のオノマトペが機能動詞「する」と結びつきやすいかを明らかにする。
- II 「オノマトペ+する」の主文末における語彙的アスペクト性⁸を体系的に示す。

⁸ 影山（2009：3-4）は、動詞や形容詞に備わっている継続性・瞬間性といった時間的性質を「語彙的アスペクト」（lexical aspect：ドイツ語で「Aktionsarten」）と呼んでいる。

2.3 本研究の方法

2.3.1 書き言葉コーパスによる調査

オノマトペと「する」の結びつきを調べるために、まず、オノマトペの意味に関する先行研究を参考に、480語のオノマトペを選定した。オノマトペの音韻形態は、最も多い形態である2モーラ反復形、CVQCVri、CVNCVriを中心に、2モーラ反復形の変種、CVNCVN、CVQCV、CVQ、CVCVQの形態も含めた。これらのオノマトペが、「する」と結びつきやすいかどうかを調べるために『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)⁹を用い、「オノマトペ¹⁰+『させ／され¹¹／する／し』」で検索した¹²。

本研究で、BCCWJを用いる理由は、新聞、国会議事録などのフォーマルな書き言葉からブログなどの話し言葉に近い書き言葉まで幅広い用例が閲覧できる上、データ量が多いため、内省では気付くことのできない言語事実を客観的、効率的に発見できるためである。2012年3月から検索対象となっているのは、以下の11種のデータ、合計約1億500万語である。サンプルは、それぞれ無作為抽出によって抜き出されている。（）内は、それぞれのデータの発行年、サンプル数、句読点・記号を除いた推定語数である。

書籍（1971～2005年、22,058件、約6,270万語）

雑誌（2001～2005年、1,996件、約440万語）

新聞（2001～2005年、1,473件、約140万語）

白書（1976～2005年、1,500件、約490万語）

教科書（2005～2007年、412件、約90万語）

広報紙（2008年、354件、約380万語）

Yahoo!知恵袋（2005年、91,445件、約1,030万語）

Yahoo!ブログ（2008年、52,680件、約1,020万語）

韻文（1980～2005年、252件、約20万語）

法律（1976～2005年、346件、約110万語）

国会議録（1976～2005年、159件、約510万語）

BCCWJの調査結果を「する」の活用形ごとに表にまとめた¹³。例文数が多い順に並べ、

⁹ 以下、「BCCWJ」と表記する。

¹⁰ 同じオノマトペをひらがな表記およびカタカナ表記を検索した。

¹¹ 「オノマトペ+され」の主文末における例は非常に少ないので、表は付録には付していない。7つの例を第3章に挙げている。

¹² 「する」の活用形である「せ」「すれ」は、従属節において用いられることが多いため、分析対象から外した。

¹³ これは、「オノマトペ+させ」「オノマトペ+し」「オノマトペ+する」で調べた結果である。調査結果は、付録2～4を参照されたい。

「『する』と結びつきやすいもの」と「『する』と結びつきにくいもの」に分けた。「『する』と結びつきにくいもの」に関しては、大きく「様態を表すもの」と「様態以外を表すもの」に分類し、第4章でそれらの特徴について詳しく述べる。「『する』と結びつきやすいオノマトペ」は、第3章で、内的状態を表すもの、動作・状態を表すもの、「させる」と結びつくもの、性質の4つに分け、継続性、動作性の程度、意志性の有無により、それらを11のカテゴリーに細分化する。BCCWJの例文¹⁴を挙げながら、その特徴について説明する。

また、「オノマトペ+する」が、「直線」「開始」「継続」「終了」などの動きの局面を表すかどうかを確かめるために、「オノマトペ+する」と表2.1のような14のアスペクチュアリティーの表現形式との結びつきについて、BCCWJで調査した。

表2.1 アスペクチュアリティーの表現形式（工藤1995：31-33より作成）

複合動詞	「しはじめる」「しだす」「しおわる」「しつづける」
テ形+補助動詞	「してしまう」「してある」「してくる」「していく」
形式名詞+「だ」	「するところだ」「しているところだ」「したところだ」「したばかりだ」
その他の形式	「しつつある」「しようとする」

2.3.2 アンケート調査

「オノマトペ+する」とアスペクチュアリティーの表現形式の結びつきをBCCWJで調べた結果と、実際の使用実態が一致するかを確かめるため、表2.2の日本語母語話者（20代から60代までの男女各1名、計10名）を対象に「オノマトペ+する」と表2.1にあるアスペクチュアリティーの表現形式との結びつきについてのアンケート調査を行った¹⁵。

表2.2 アンケート対象者の情報

年代・性別	出生地	成人まで育った場所	一番長く住んだ場所	他に特記すること
20代 男性	埼玉県 富士見市	埼玉県 (1993年～2013年)	埼玉県 (1993年～2015年)	特になし
20代 女性	長野県 上田市	埼玉県上田市 (1996年～2011年) 埼玉県さいたま市 (2011年～2014年)	埼玉県上田市 (1996年～2011年)	特になし

¹⁴ 本論文の例文は、特に出典の表記がない場合は、BCCWJからの引用である。

¹⁵ アンケート結果は付録7と付録8を参照されたい。

30 代 男性	神奈川県 秦野市	神奈川県秦野市 (1976 年～1989 年) 神奈川県鎌倉市 (1989 年～1995 年)	神奈川県秦野市 (1976 年～1989 年) (1995 年～1999 年)	特になし
30 代 女性	埼玉県 川越市	埼玉県川越市 (1978 年～1998 年)	埼玉県川越市 (1978 年～2009 年)	特になし
40 代 男性	広島県 三次市	大阪 (1979 年～1994 年)	大阪 (1979 年～2001 年)	特になし
40 代 女性	長崎県 島原市	福岡 (6 歳～19 歳)	福岡	熊本 4 年 大阪 7 年半 横浜 7 年 在住していた。
50 代 男性	島根県 大田市	島根県大田市 (1960 年～1978 年) 東京都 (1978 年～1980 年)	島根県大田市 (1987 年～2015 年)	特になし
50 代 女性	島根県 松江市	島根県松江市 (1960 年～1978 年) 滋賀県大津市 (1978 年～1980 年)	島根県大田市 (1987 年～2015 年)	特になし
60 代 男性	広島県 三原市	広島県三原市 (1947 年～1965 年) 愛媛県松山市 (1965 年～1967 年)	大阪府 吹田市 (1979 年～2015 年)	特になし
60 代 女性	広島県 三次市	広島県三次市 (1948 年～1966 年) 東京都武藏野市 (1966 年～1968 年)	大阪府 吹田市 (1979 年～2015 年)	特になし

(2015 年 1 月実施)

2.4 用語の定義

2.4.1 語彙的意味

語彙的意味とは、オノマトペ自身の持つ個別の意味的特徴である。本研究では、語彙的意味は、{直接感覚、継続性、動作性、意志性} という 4 つの素性の有無あるいは程度によって構成される集合とみなす。それぞれを以下に詳しく述べる。

① 直接感覚

感情・感覚を表すオノマトペは、経験主が1人称の場合、スル形で直接的な感情・感覚表出表現が可能である。3人称の場合は、シテイル形で客観的な事象描写となる。直接的な感情表出表現ができる場合は{+直接感覚}とする。客観的な事象描写の場合は{-直接感覚}とする。触覚で感じたことを表すオノマトペは、シテイル形で性質を表すが、スル形では「手がべたべたする」のように{+直接感覚}となる場合がある。

② 繙続性

オノマトペは、音韻形態的特徴によって、継続的な動きか瞬間的な動きかが決まる場合がある。2モーラ反復形の「いらいら」「そわそわ」などは、継続的な動きや状態を表すが、「ほっ」「がっかり」「びっくり」は、シタ形およびシテイル形で感情の変化の結果が続いていることを表すため、{+変化結果の継続性}とする。それに対して、「いらっしゃる」「むかつく」「ずきつ」は、通常は瞬時の感情や感覚の変化を表し、シテイル形とは結びつかない。動き・状態の継続の場合は、{+継続性}、瞬間的な動きの場合は、{-継続性}とする。性格や容姿などの属性は恒常的なものであり、動きの継続ではないため、{-継続性}とする。

③ 動作性と状態性

動作性のある動詞は、シテイル形で一定の期間続いて行われるような動作を表す「歩く」「食べる」「読む」といった動作動詞と、シテイル形で瞬間的な動きの結果の状態を表す「立つ」「座る」「壊れる」などである。スルとシテイルのアスペクト対立があるものが、動き動詞の特徴であるが、動き・状態を表す「オノマトペ+する」の多くは、動作性と状態性の両方の性質を有していること、意志性のない自動詞であることから、スル形で恒常的表現となり、スルとシテイルのアスペクト対立はない。しかし、「ある」「いる」のようなスルとシテイルのアスペクト対立がないような典型的な状態動詞ではなく、動作動詞と状態動詞の中間に位置している。

オノマトペの意味に加え、BCCWJによる用例を分析し、述語用法が多いか、名詞修飾用法で使用されているかという点も、動作性の程度を決める判断基準にした。

動作性が高いものは{動作性(高)}、中程度のものは{動作性(中)}、低いものは{動作性(低)}とする。動作性がないものは{-動作性}とする。

④ 意志性

「する」の意志形と結びつくオノマトペは、「(家で) のんびり／ごろごろしよう」「(街を) ぶらぶらしよう」などに限られている。このようなオノマトペは、スル形で未来の動きを表す。感情や感覚は自然に発生するものであるという理由から、それらを表すオノマ

トペに意志性はない。また、マイナスのイメージを持つオノマトペは、意志的にそのような状態になることはないため、意志性はないものとする。意志性がある場合は、{+意志性}、ない場合は{-意志性} とする。「おろおろ」「まごまご」のように、オノマトペ動詞とは別の、動作主の意図を表す何らかの動きや事象に伴って、付隨的に発生する人の様子を表すオノマトペに関しては、意志性は関わらないものとする。

以上のような語彙的意味素性の違いによって、語彙的アスペクト性が異なっていることを示す。

2.4.2 語彙的アスペクト性

本研究では、「オノマトペ+する」の語彙的アスペクト性を「形態論的アスペクト」と「語彙的アスペクト」とから成り立つアスペクト性と定義する。

「形態論的アスペクト」とは、アスペクトで表し分けられる動きの取り上げ方の違いとして、もっとも一般的なスル形とシテイル形の対立である。すなわち、スル形で、動きをそのまま動きとしてとらえ、シテイル形で状態としてとらえるという対立である。

本研究では、オノマトペが、表 2.3 のように「する、している、した、していた」と結びついた場合のアスペクトを形態論的アスペクトとする。分類した 11 のカテゴリーごとに、オノマトペが「する、している、した、していた」と結びついたときのアスペクト性（完成か継続、非過去形か過去形、動きか状態）を記述する。

表 2.3 アスペクト・テンス体系 (工藤 1995:8)

アスペクト テンス	完成相	継続相
非過去形	スル	シテイル
過去形	シタ	シティタ

ただし、スル形とシテイル形には、上記のようなアスペクト対立がない場合がある。一つ目は、小説や物語文などにおいて、(1)のように過去の出来事を意図的にスル形で書くことである。スル形 ((1)では「ニコニコする」「きょろきょろする」) は、その場面での様子を表すのに使われ、シタ形 ((1)では「はさんだ」「やった」) は出来事を順番に述べていくのに使われる。

- (1) a. 「どうせ勉強なんかしておりませんのよ」と、浅井夫人はニコニコする。「訊いてみたら、僕の後輩だったんですよ」と、工藤が口をはさんだ。
- b. 「えっ、なに？」 悠由はきょろきょろする。「これだよ、これ。」リュウは鏡の前のレッスンバーに手をやった。

二つ目は、従属節における条件などを設定した場合、スル形で、ある条件のもとでは、必ずそうなることを表す表現である。(2)は、従属節が条件、主文末が「オノマトペ+する」のスル形の例である。このような描写的な表現は、スル形でも非文にはならない。

- (2) a. 死んだとなれば、葬式や何やで、一週間かそこいらは、バタバタする。
b. あなたたって、病気になりそうなほど心配なことがあったら、かりかりするわよ。
c. 火がついているタバコから火の粉が飛んでくると、火事にでもならないかとひやひやする。
d. 茄でると味や脂が抜けてあっさりする。

主文末において、動作動詞はシティル形で(3a)のように動きの継続を、変化動詞は、(3b)のように結果の継続を表す。(3c)の場合は、恒常的な性質を表しており、通常は変化しないため、時間の局面を持たず、形容詞に近いと言える。

- (3) a. …訪問客が、開催前の時間を持て余してそこら中をうろうろしている。
b. テレビのニュースで死んでいたと知って、びっくりしているんです。
c. いつもにこやかで、おっとりしている。

このようなシティル形の基本的な用法の他にも、(4a)と(4b)のように「いつも」「よく」といった副詞を伴う習慣を表す用法や、(4c)のように、通常はシティル形と結びつかない瞬間的な動きを表すオノマトペが、動きの繰り返しを表す用法がある。

- (4) a. 同じ新宿と思えないほど、そこだけはいつもひっそりしている。
b. 近いことなので、よく天満宮の境内を散歩がてらうろうろしている。
c. インターフォンのチャイムが鳴る度に、からだをびくっとさせていたそうです。

本研究では、このようにアスペクト対立のないスル形やシティル形を「恒常的表現」と呼ぶ。

「語彙的アスペクト」とは、「オノマトペ+する」が、「直前」、「開始」、「状態の出現」、「継続」、「直後」、「終了」、「完了」といった時間的局面を表現できるかということである。「オノマトペ+する」の語彙的アスペクトを表2.1のアスペクチュアリティーの表現形式との結びつきにより判断する。それぞれの局面を表す表現形式の中には、「開始」(しはじめる、しだす)、「継続」(しつづける、しつつある、しているところだ)など、複数あるものがあり、それぞれの特徴や前接する動詞の条件が異なるため、

「直前」、「開始」、「状態の出現」、「継続」、「直後」、「終了」、「完了」といった大きな枠組みで、その結びつきの有無を判断するのではなく、個別のアスペクチュアリティーの表現形式ごとに結びつきを示す。

第3章で、「『する』と結びつきやすいオノマトペ」を大きく4つ（「感情・感覚表現」、「動き・状態」、「『させる』と結びつくもの」、「性質」）に分け、さらにそれらを動作性の程度、継続性か瞬間性、意志性の有無によって11の語彙的意味別のカテゴリーに分ける。

第3章

オノマトペの語彙的意味 による分類

3.1 対象とするオノマトペの選定

本研究では、オノマトペと「する」との結びつきを調査するにあたり、下記の4つの辞書に共通に載っているオノマトペ、また、玉村（1989:8-11）、三上（2006:38-29）の日本語教育上、初級・中級段階で教えるべきオノマトペを参考にし、480語のオノマトペを選別した。

- ① 『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』山口伸美編著（2003）講談社
見出し語 1385語（総収録語数約2,000語）
- ② 『現代擬音語擬態語用法辞典』飛田良文・浅田秀子（2002）東京堂出版
見出し語 1064語（総収録語数約2,200語）
- ③ 『擬音語擬態語使い方辞典－正しい意味と用法がすぐわかる』阿刀田稔子・星野和子（1993）創拓社
見出し語 738語（総収録語数約1,700語）
- ④ 『日本語オノマトペ辞典』小野正利（2007）小学館
見出し語 2470語（総収録語数4500語）

480語のオノマトペの形態には、CVQ（ほつ、かつ）、CVCVQ（いらっしゃ、むかつく）、CVQCV（かつか）、CVN-CVN（ばんばん、どんどん）、2モーラ反復形（いらっしゃ、むかむか）、CVQCVri（がっかり、びっくり）、CVNCVri（ほんのり、しなり）、2モーラ反復形の変種（ぎくしゃく、がさごそ）などが含まれている。BCCWJを用い、「オノマトペ（ひらがな及びカタカナ）+（と）『させ』『され』『し』『する』¹⁶」で検索した¹⁷。オノマトペ（ひらがな及びカタカナ）のみの総数と、「（と）させ」「（と）され」「（と）し」「（と）する」と結びついている用例数を表にまとめた。用例を調べたところ、オノマトペが「する」と結びつく際

¹⁶ 「する」の活用形である「すれ」および「せ」は、文末において、ほぼ使用されないため、検索の対象から外した。

¹⁷ 検索にあたっての注意点（検索結果とセッションの関係の項目）に、「1回の接続中に同じ文字列を検索した場合には同じ検索結果が返ってくるが、一旦セッションを打ち切り、その後再度接続した場合には、異なる検索結果が表示される」と書かれている。

は、随意的に「と」を伴うことができる形態（2モーラ反復形、CVQCVri、CVNCVri、2モーラ反復形の変種）のオノマトペであっても、「と」を伴っている例は非常に少ないことがわかった。オノマトペは、副詞としての用法では「と」を伴って動詞を修飾するが、語彙化が進み、動詞化する過程で「と」を伴わなくなったと考えられる。

3.2 BCCWJ による調査結果

表 3.1 は、BCCWJ で、オノマトペと「させ」「され」「し」「する」の例文を検索し、それぞれの例文数を合計した上位 15 のオノマトペである。分析対象とした 480 語のうち、半数以上の 286 語に少なくとも 1 つは、主文末において「する」と結びついている例がある。例文数の多いオノマトペの特徴は、「はっきり」「すっきり」「しっかり」など、「動詞との共起制限が弱いもの」が多いことである。また、「感情」を表すものが多いことも特徴的である。「感情」を表すオノマトペは、擬音語から拡張したものではなく、意味が限定されているものが多くある。また、「いらいらと感じる」「どきどきと感じる」といったように動詞を修飾するのではなく、「する」との結びつきが圧倒的に強いと言える。

日本語では、感情・感覚を直接的に表現する語は、形容詞の「うれしい」「悲しい」「さびしい」「痛い」などである。それらに加えて、オノマトペは「する」と結びつき、動詞となり、様々な感情や感覚を直接表現する手段となっている。感情表出表現は、ブログや小説などにおいて使用される頻度が高くなっていることも、例文数が多い理由の一つである。

表 3.1 「オノマトペ+する（全ての活用形）」の例文数が多いもの

	オノマトペ	総数	「オノマトペ+する」の例文数
1	ほつ	2511	618
2	はっきり	10440	399
3	いらいら	1554	256
4	どきどき	1188	249
5	がっかり	967	226
6	すっきり	1953	223
7	わくわく	897	134
8	にっこり	914	114
9	うんざり	723	100
10	うろうろ	596	94
11	しっかり	9824	88
12	ごろごろ	687	86

13	くらくら	477	79
14	にこにこ	978	79
15	にやにや	442	68

表3.2は、「オノマトペ+させ」の用例数が多い順に並べたものである。調査した480語のうち、1つでも「オノマトペ+させ」の例があったのは、65語である。例文数が多いものは、「(目を) ぱちくりさせる」「(手を) ひらひらさせる」「(口を) ぱくぱくさせる」「(足を) ぶらぶらさせる」など、主体が自身の身体部分を動かす再帰用法¹⁸である。この他、「はつきりさせる」「すつきりさせる」「がっかりさせる」「いらいらさせる」などのように、対象に働きかける他動詞的な用法がある。これらは、対象が主体になる場合、「がっかりさせられた」というように使役受身形となる。

表3.2 「オノマトペ+させ」の例文数が多いもの

	オノマトペ	総数	「オノマトペ+させ」の例文数
1	ぱちくり	76	29
2	はつきり	10440	23
3	すつきり	1953	20
4	がっかり	967	20
5	いらいら	1554	20
6	ほっ	2511	18
7	ぱちぱち	324	18
8	ひらひら	288	15
9	どきどき	1188	12
10	ぱくぱく	288	12
11	ぶらぶら	593	11
12	ひくひく	112	9
13	はらはら	338	8
14	うつとり	495	7
15	しんなり	200	7

¹⁸ 村木（1991：184）は、動詞の意味する運動・作用が動作主体におよぶという＜再帰性＞をもつ動詞を「再帰動詞」と呼んでいる。

(1) と (2) は、「オノマトペ+『され』」の例である。用例は非常に少ない。(1) は、「尊敬」の意味で、(2) は、「受身」の意味で使用されている。

- (1) a. 何でこんなところでウロウロされてるのですか？
 b. わりあいそのへんは、畠山さんはあっさりされているわけですね。
 c. もう少し辛抱されれば次第に頭痛は消えてスッキリされることでしょう。
 d. …個性的な方で、ギターを弾いたり、マテ茶をのんだりフォースを構ったりと
のんびりされていました。
- (2) a. 「ぜんぜんおもしろくないなあ」とガッカリされてしまう。
 b. ほかに候補みたいな人がいて。お互いに候補みたいなノリで。後ろついてきて。
無言でウロウロされるの！
 c. お互いに素顔ではないので、ガッカリするし、ガッカリされます。

表 3.3 は、「オノマトペ+し」の用例数が多い順（15 位まで）を並べたものである。480 語中、279 語に最低でも 1 つは、オノマトペと結びついている例がある。「感情・感覚」を表すオノマトペ、「動詞との共起制限が弱いオノマトペ」が多いのが特徴である。

表 3.3 「オノマトペ+し」の例文数が多いもの

	オノマトペ	総数	「オノマトペ+し」の例文数
1	ほつ	2511	456
2	はつきり	10440	326
3	どきどき	1188	207
4	いらいら	1554	193
5	すっきり	1953	169
6	がっかり	967	166
7	にっこり	914	112
8	わくわく	897	107
9	うろうろ	596	87
10	ごろごろ	687	80
11	うんざり	723	77
12	にこにこ	978	76
13	しつかり	9824	72

14	にやにや	442	62
15	くらくら	477	59

表3.4は、「オノマトペ+する」の用例数が多い順（15位まで）を並べた表である。480語中、「する」と結びついている例は、114語である。「感情・感覚」を表すオノマトペ、「動詞との共起制限が弱いオノマトペ」が多いのが特徴である。

表3.4 「オノマトペ+する」の例文数が多いもの

	オノマトペ	総数	「オノマトペ+する」の例文数
1	ほっ	2511	144
2	はっきり	10440	50
3	いらいら	1554	43
4	がっかり	967	38
5	すっきり	1953	33
6	どきどき	1188	30
7	ぞくぞく	247	22
8	わくわく	897	21
9	くらくら	477	20
10	うんざり	723	17
11	ふらふら	612	17
12	むかむか	111	13
13	ぐずぐず	338	12
14	くよくよ	197	12
15	しつかり	9824	11

3.3 オノマトペの意味に関する先行研究

「オノマトペ+する」の主文末における語彙的アスペクト性は、オノマトペの語彙的意味によって異なっていると考えられる。語彙的アスペクト性を解明するために、オノマトペの語彙的意味を分類し、それぞれの特徴を把握する必要がある。まず、オノマトペの意味に関する先行研究を概観し、本研究での意味分類を示す。

大坪（2006：124-129）は、知覚の過程によるものを7つ、知覚の対象によるものを次の19に分類している。このうち、(2)が最も多く、(1)がこれに次ぎ、(4)と(5)は極めて少ない。

1. 知覚の過程によるもの

- (1) ある状態を耳で聞いて、これを表現するもの。
(例) カタカタ・ゴロゴロ・ピューッ・グーン・ガタピシ・チントンシャン
- (2) ある状態を目で見て、これを表現するもの。
(例) キラキラ・ムクムク・ドンヨリ・ピヨコン・パチクリ
- (3) ある状態を手や肌で触れて、表現するもの。
(例) ヌルヌル・ツルツル・ザラザラ・ヤンワリ・ホカホカ・サラッ (手ざわり)
- (4) ある状態を鼻で嗅いで、表現するもの。
(例) プンプン・ツン
- (5) ある状態を舌で味わって、表現するもの。
(例) トロリ、ピリリ
- (6) ある状態を、身体の内部で感じて、表現するもの。
(例) ガンガン・ズキンズキン・ヒリヒリ・ドキドキ・シクシク
- (7) 感情・情緒のような心の状態を、心理的に表現するもの。
(例) ハラハラ・ワクワク・ゾクゾク・ルンルン

「知覚の対象によるもの」は、把握される「事物の状態」の事物そのものを基準として分類している。現代小説では、(1) から (7) の人間を対象とするものが最も多く、(16) から (18) の事物に関するものがこれに次ぐ。

2. 知覚の対象によるもの

- (1) 人間の音声を表現するもの。
(例) ハツハツハ、ゴホンゴホン、グウグウ (鼾)
- (2) 人間の容貌・表情を表現するもの。
(例) ウットリ、ニコニコ、ニヤニヤ
- (3) 人間の体つきを表現するもの。
(例) デップリ、フックラ、ヒヨロリ
- (4) 人間の服装を表現するもの。
(例) ダブダブ、ピッチリ、ツンツルテン
- (5) 人間の行動を表現するもの。
(例) ノロノロ、イソイソ、オドオド、アタフタ
- (6) 人間の性情を表現するもの。
(例) シッカリ、チャッカリ、オットリ、ボンヤリ
- (7) 人間の内部感覚・感情・情緒などを表現するもの。
(例) ドキドキ、ムシャクシャ、サッパリなど

- (8) 自然界の音響を表現するもの。
(例) ビュービュー、ゴロゴロ、ザーザー
- (9) 自然界の様子を表現するもの。
(例) キラキラ、ウラウラ、ドンヨリ
- (10) 植物の立てる音響を表現するもの。
(例) ザワザワ、サヤサヤ、ガサガサ
- (11) 植物の様子を表現するもの。
(例) ゴツゴツ、ツヤツヤ、ユラユラ
- (12) 動物の鳴き声を表現するもの。
(例) ヒンヒン、モーモー、ワンワン
- (13) 動物の立てる音響を表現するもの。
(例) パカパカ(馬)、バタバタ(羽ばたき)、ガリガリ(鼠)
- (14) 動物の様子を表現するもの。
(例) フサフサ(毛)、ボサボサ(毛)、ツヤツヤ(毛)
- (15) 動物の動きを表現するもの。
(例) ピヨンピヨン、ヨチヨチ、ニヨロニヨロ
- (16) 事物の立てる音響を表現するもの。
(例) ブルンブルン、ブーブー、リンリン
- (17) 事物の様子を表現するもの。
(例) ピカピカ、ザラザラ、ヌルヌル
- (18) 事物の動きを表現するもの。
(例) クルクル、ゴロゴロ、バラバラ
- (19) 事物の分量・程度・確実さ・進行などを表現するもの。
(例) スッカリ、チョッピリ、タップリ、ドンドン、ズンズン

小野(2007:33-64)は、意味分別で「天気」「湿度」「水・液体」「火・土」「動作・状態」「感情・感覚」「性格・性質」「体格・姿」「動き・変化」「形・状態」「音・道具・金銭」「程度」に分けている。

森田(2008:255-258)は、2モーラ反復形のオノマトペを意味の面から次のように分類している。

- (1) 人間の行為を表す
(例) 泣く、笑う、言葉を発する、飲食する、見る、眠る、移動、浪費、対人関係、
その他の動作、非意志の減少、感情・態度
- (2) 身体感覚・精神状態を形容する
(例) 心、体、頭、腹、肌、目、鼻、症状

(3) 物の動きや現象を表す

(例) 気象現象、自然状態、光・輝き、主体の動き

(4) 事物の様子を形容する

(例) 視覚印象 (外見、形、光沢)、表面の手触り、内面の性質、外面の様態 (濡れ、湿度・温度、状態・状態変化)

本研究では、「オノマトペ+する」のアスペクト性を調べるという観点から、辞書的な意味分類ではなく、内的状態を表すもの、シテイル形で動き・状態を表すもの、「させる」と結びつくもの、シテイル形で性質を表すものに分けた¹⁹。

3.4 「する」と結びつきやすいオノマトペ

BCCWJ で、480 語のオノマトペと「する」および「する」の活用形との結びつきを調べた結果、結びついている例が、1 例でもあるオノマトペは、286 語であった。「『する』と結びつきやすいオノマトペ」は、その意味によって (1) 感情・感覚表現、(2) 動き・状態、(3) 「させる」と結びつくもの、(4) 性質の 4 つに分けた。さらに、動作性と状態性の程度、継続性か瞬間性、意志性の有無の違いによって、細かく分類する。

3.4.1 感情・感覚表現

感情・感覚を表すオノマトペは、スル形あるいはシタ形で、一人称の直接的な感情・感覚表出表現が可能である。「感じる」「痛む」といった動詞を修飾するよりは、「する」との結びつきが強固である。感情・感覚を表すオノマトペには、次のようなものがある。

〔感情・感覚表現（継続性があるもの）〕

継続性のある感情・感覚を表すオノマトペは、2 モーラ反復形のオノマトペが多い。スル形で、現在の感情・感覚を表出できる。スル形で現在の状態を表すという点では、「ある」「いる」といった状態動詞の性質を有している。

(例) いらいら、どきどき、わくわく、ぞくぞく、うずうず、じりじり、はらはら
ひやひや、うきうき、くさくさ、むしゃくしゃ、やきもき、もやもや、ほっこり
げんなり、うんざり、くらくら、ぐらぐら、ぴりぴり、むかむか、ひりひり
むずむず、ちくちく、ずきずき、ひんやり、むんむん、がくがく、がんがん
すうすう、じめじめ、じんじん、ちかちか、きりきり、びりびり、むしむし

¹⁹ 1 つのオノマトペが、必ずしも 1 つのカテゴリーだけに属するわけではなく、多義語のオノマトペは、複数のカテゴリーに跨っている。(例:「どんどん」は「破裂音」と「勢いのよさ」、「かさかさ」は「摩擦音」と「乾いて潤いのないさま」)

[感情・感覚表現（変化結果の継続性があるもの）]

CVQCVri、CVQ という形態の瞬間的な感情の変化を表すオノマトペは、シタ形で現在の感情を表出できる。シテイル形では、変化結果の継続を表す。

（例）がっかり、がっくり、びっくり、すっきり、さっぱり、ほつ

[感情・感覚表現（変化結果の継続性がないもの）]

瞬時の感情の変化である「むかっ」「かつ」は、変化結果の状態が続かないため、通常はシテイルとは結びつかない。

（例）いらっしゃ、どきっ、むかっ、ずきっ、ひやっ、くらっ、ちくっ、かつ

3.4.2 動き・状態

人や無情物の動きや状態を表すオノマトペは、動作性と状態性の程度、継続性・瞬間性、意志性の有無の違いによって、5つに分かれる。

[動作性が高いもの（意志性があるもの）]

意志性があり、動作性の高いオノマトペは、「（街を）ぶらぶらする」「（辺りを）うろうろする」といった移動動詞に限られている。

（例）ぶらぶら、うろうろ、うろちょろ

[動作性が高いもの（意志性が関わらないもの）]

これらのオノマトペは、うろたえる様子、落ち着かない様子などを表すものが多い。視覚的に動きを捉えることができること、述語用法で使用されることが多いことから、動作性が高いものと判断した。オノマトペ動詞とは別の、動作主の意図を表す、何らかの動きや事象に付随して自然に発生する様子を表すため、意志性は関わらないものとする。

（例）まごまご、よろよろ、そわそわ、おろおろ、ペコペコ、きょろきょろ、どぎまぎ
いちゃいちゃ、じたばた、あたふた、もじもじ、うとうと、うつらうつら

[動作性が中程度のもの（継続性があるもの）]

動作性が中程度のものは、動きというよりは、状態に傾いているものである。たとえば、表情を表す「にこにこ」「にやにや」や、主体が「関係」や「雰囲気」といった抽象的なものである「ごたごた」「ぎくしゃく」「がやがや」などが含まれている。具体的な動きではないが、平常時からの変化が明確に捉えられるものである。

（例）にこにこ、にやにや、がたがた、ごたごた、ぎすぎす、がやがや、ざわざわ
きらきら、ぎらぎら、ちらちら、かつか、ぎくしゃく、どたばた

[動作性が低いもの（意志性があるもの）]

意志性があり、動作性が低いものは、「（家で） ごろごろ／ゆっくり／のんびり過ごす」といったような具体的な動きではなく、平常時からの変化、すなわち開始点が明確に捉えられないものである。

（例） ごろごろ、ゆっくり、のんびり

[動作性が低いもの（意志性がないもの）]

意志性がなく、動作性が低いオノマトペは、述語用法でのシタ形の例は少なく、主に、名詞修飾用法でシタ形になる。これらのオノマトペは、具体的な動きではなく、人や無情物の様子を表すものである。

（例） こそこそ、ぐずぐず、おどおど、だらだら、くよくよ、めそめそ、びくびく
うかうか、へらへら、うだうだ、もたもた、つんつん、ぬくぬく、ぴんぴん
いそいそ、がつがつ、でれでれ、きびきび、うようよ、あくせく、ちやほや
うっかり、ぐったり、うつとり、ひっそり、しんみり、にんまり、しょんぼり
ぼんやり

3.4.3 「させる」と結びつくもの

[再帰用法]

「させる」を伴い、身体部分の動きを表すオノマトペである。動作性が高く、一部を除いては、意志性もある。

（例） ぱちぱち、ひらひら、ぱくぱく、ぶらぶら、ひくひく、ぴくぴく、ばたばた
くんくん

[他動詞的な用法]

「させる」を伴い、主体が対象の感情などを変化させる他動詞的な用法である。使役受身形の用例も多い。

（例） はっきり、すっきり、がっかり、いらいら、どきどき、しんなり

3.4.4 性質

性質を表すオノマトペは、性格、容姿、味覚で感じたことや食感を表すものである。通常は、変化しないものであるが、性格や容姿など、長期的には変化する場合もある。文末では、常にシテイル形となることから、スルとシテイルの対立という基本的なアスペクト対立はない。動作性が低いオノマトペとの違いは、性質を表すものは、属性であり、変化性が少ないとあることである。

(性格)

(例) おっとり、きっちり、しっかり、はきはき、ねちねち、さばさば、こせこせ

(容姿・様態)

(例) がっしり、がっしり、ふっくら、ほっそり、ころころ、ぽっちやり、ぼさぼさ
ひょろひょろ、ぽってり、むちむち、すんなり、どっしり、まるまる、ぴちぴち
ずんぐり、ずっしり、のっぺり、ぶよぶよ、むっちり、ずんぐりむっくり
ぼちゃぼちゃ、ぼてぼて、ぱっちり、くりくり、ぎょろぎょろ、くつきり
げっそり、くねくね、もじやもじや

(味)

(例) あっさり、こってり

(食感)

(例) こりこり、しこしこ、ぷりぷり、もちもち、しゃきしゃき、もさもさ、もつさり
ほくほく、じやりじやり、かりかり

(触覚・視覚)

(例) ねっとり、ぬるぬる、ねばねば、べたべた、べとべと、べつとり、ぬらぬら
すべすべ、かさかさ、ばさばさ、ぱさぱさ、がさがさ、ぼそぼそ、ふわふわ
つるつる、ふんわり、ごつごつ、ごわごわ、さらさら、つやつや、しっとり
てかてか、どろどろ、ざらざら、ごわごわ

(その他)

(例) どんより、ぽかぽか

3.5 「する」と結びつきにくいオノマトペ

「する」と結びつきにくいオノマトペは、「様態を表すもの」と、「様態以外を表すもの」に大きく分かれる。

3.5.1 様態を表すもの

＜動詞との共起制限が強いもの＞

このカテゴリーのオノマトペは、括弧の動詞を限定的に修飾するオノマトペである。このような動詞は、主体動作動詞であり、オノマトペはその動詞の表す動きの様子を具体化する。

「鳴る」「音がする」「はがす」「振り回す」「叩く」

(例) かさこそ、かたかた、がしゃがしゃ、かちやかちや、がたごと、がんがん
ぎしぎし、ごとごと、ごりごり、ぱりぱり、めりめり、みしみし、みりみり

ごほごほ、ペりペり、べりべり、ばちゃばちゃ、しゃんしゃん、ばんばん
どんどん、びゅんびゅん、がちがち、ぎんぎん、こんこん、ぶんぶん

「言う」「話す」「しゃべる」

(例) ずばずば、ずけずけ、ぶつくさ、つべこべ、がみがみ、ぺちゃくちや、ぶうぶう
ぶつぶつ、べらべら、ペらペら、ひそひそ、ごによごによ、ぬけぬけ、くどくど
つけつけ

「降る」(例) しとしと、ぼたぼた、ぽつりぽつり

「吹く」(例) さやさや、そよそよ

「震える」(例) わなわな、ぶるぶる

「歩く」「動く」

(例) しゃなりしゃなり、のそのそ、てくてく、とことこ、よたよた、よちよち、
とぼとぼ、すたすた、つかつか、せかせか、そろそろ、もぞもぞ、ぞろぞろ

「入る」(例) すかすか、どかどか

「座る」「倒れる」(例) どっかり、へたへた、へなへな

「切る／切れる」(例) ちよきちよき、ぱつぱつ、ぶちぶち、ざっくり、ぱっさり

「折る／折れる」(例) ぱきぱき、ぽきぽき、ばきばき、ぱっきり

「搔く」(例) ぱりぱり、ぱりぱり

「寝る」(例) ぐうすか、すやすや、ぐっすり、ぐうぐう

「垂れる」「流れる」「落ちる」

(例) だくだく、たらたら、どさどさ、ばらばら、ぼたぼた、ぼろぼろ、ぼろぼろ

「くっつく」「ひっつく」(例) べつとり

「見る」(例) まじまじ、しげしげ、じろじろ

「跳ぶ」(例) ぴょんぴょん

「煮る」(例) ぐつぐつ

「飲む」(例) ごくごく、がぶがぶ

「食べる」(例) むしやむしや、もしやもしや、もりもり

「育つ」(例) すくすく

「現われる」(例) ひょっこり

「帰る」(例) そそくさ、すたこら、すごすご、おめおめ、しおしお

「吸う」(例) すばすば

「燃える」(例) めらめら

「揺らす」(例) ゆさゆさ

「貼る」(例) ぺたぺた

「注ぐ」(例) なみなみ (程度も)

「泣く」(例) しくしく

動詞との共起制限が強く、修飾する動詞の様子を具体化するオノマトペの中にも、「ぐるぐる」「ごしごし」「むしゃむしゃ」のような「する」と結びついている用例があるオノマトペもあるが、一般語彙の動詞を修飾する用例のほうが圧倒的に多い。

＜動詞との共起制限が弱いもの＞

例に挙げている「きっぱり」「しっかりと」「はっきり」「ゆっくり」は、それぞれ多義語であるが、「明瞭に」「堅実に」「明確に」「急がないで」といった意味では、様々な動詞を修飾する副詞的に使用される。

(例) きっぱり、しっかりと、はっきり、ゆっくり

3.5.2 様態以外を表すもの

様態以外を表す副詞的用法には、表 3.5 のとおり、頻度を表すもの、量を表すもの、程度を表すもの、結果の状態を表すものがある。

表 3.5 「する」と結びつきにくいオノマトペ (様態以外を表すもの)

副詞的用法の種類	例
頻度を表すもの	ちょいちょい、ちよくちよく、ころころ
量を表すもの	たっぷり、たんまり、ちょっぴり、どっさり、ぎっしり、わんさか
程度を表すもの	ぐんぐん、どしどし、どんどん、じゃんじゃん、ずんずん、ばんばん
結果の状態を表すもの	びしょびしょ、ばらばら、からから、くしゃくしゃ、くたくた

第 4 章では、「『する』と結びつきにくいオノマトペ」を「様態を表すもの」と「様態以外を表すもの」に分けて詳しく分析し、「『する』と結びつきやすいオノマトペ」との違いを考察する。

第4章

「する」と結びつきにくい オノマトペ

4.1 様態を表すもの

「する」と結びつきにくいオノマトペを「様態を表すもの」と「様態以外を表すもの」に分け、「様態を表すもの」を「動詞との共起制限が強いもの」と「動詞との共起制限が弱いもの」に分けて論じる。

4.1.1 動詞との共起制限が強いもの

「動詞との共起制限が強いオノマトペ」は、「音を表すもの」や、「人間の基本的な動作を表すもの」が多くみられる。

「音を表すオノマトペ²⁰」は、様々な形態を持ち、特に漫画や絵本などにおいて臨時形で用いられている。文中では、(1) のように「音を立てる」「音がする」「鳴る」「聞こえる」「吹く」「降る」「流れる」「騒ぐ」「笑う」「泣く」「きしむ」「打つ」「たたく」のような音が関わっている一般語彙の動詞を修飾する副詞として使用されることが多い。

- (1) a. 吹きっさらしの風に、長屋の赤錆びたトタン屋根がいまにもめくれそうにビュウビュウと音を立てている。
b. 雨がざあざあ降っている。

音を表す一般語彙の動詞に関して、仁田（2002：113-119）は、動きの実現・成立によつて、何らかの音が発生し存在することを表しており、副詞は発生・存在する音がどのようなものであるかを示すことで、音を発生させ、存在させる動きの質・様を表しているとしている。

また、音に関係する副詞が動きの質・様に関わる副詞として広範に存在することの一つの要因として、(2) と (3) のように、これらが動きの勢い・強さや早さをも含意するとして、次の例を挙げている。(2) は勢いのある強い動きを含意し、(3) は弱い軽い動きを含意している。

²⁰ BCCWJ で調べた結果、音を表すオノマトペは、カタカナで表記されているものも多い。

- (2) 彼は…ウォッカのコップを、きずだらけの頑丈なテーブルにドンと置いて、…
 (草野唯雄「トルストイ爺さん」)
- (3) コトン、と初老のバーテンが、…グラスをカウンターに起き、…
 (筒井康隆「その情報は暗号」)

オノマトペが「する」と結びつきにくいのは、文中での焦点が動詞にあり、オノマトペはその様や程度を表す随意的成分であるためだと考えられる。

「音を表すオノマトペ」も例外的に「する」と結びつく例もある。文化庁による平成25年度「国語に関する世論調査」の概要によると、「電子レンジで加熱する」という意味で「チンする」という言い方を使うことがあると答えた人は90.4%であった。したがって、電子レンジの加熱の終了を知らせる音と「する」が結びついた「チンする」という動詞は定着しているといってよい。また、(4)のように、静電気が発生するときの音や様子を表す「バチバチ」も「する」と結びつく。

- (4) この時期、静電気がすごいんですが、皆さんちはどうですか？耳や鼻、髪の先でバチバチします。

このような例外的な場合もあるが、幼児語を除くと、「音を表すオノマトペ」が「する」と結びつく例は少ない。

「人間の基本的な動作を表すもの」は、それが修飾する動詞が表す様態を具体化したものと見なせることが多い。たとえば、「じろじろ」や「まじまじ」は典型的に「見る」を修飾することで、「目を離さずに無遠慮に」や「じっと」といった詳細情報を付け加える。このようなオノマトペの意味は鮮明で具体的であるため、その生起環境・コロケーションは高度に制限されている。

表4.1は、BCCWJで調査した結果のうち、「動詞との共起制限が強いもの」をオノマトペが修飾する動詞ごとにまとめた表である。「総数」は、何も付いていないオノマトペだけを入力して得られた数である。表4.1のとおり、動詞との共起制限が強いオノマトペと「する」が結びついている例はない。

表4.1 主文末における「オノマトペ+（と）する」（動詞との共起制限が強いもの）

動詞	オノマトペ	総数	させ	され	する	し
見る 見える	まじまじ	249	0	0	0	0
	じろじろ	232	0	0	0	0
	しげしげ	159	0	0	0	0

寝る	ぐっすり	366	0	0	0	0
	すやすや	81	0	0	0	0
	ぐうぐう	25	0	0	0	0
	ぐうすか	2	0	0	0	0
歩く	すたすた	111	0	0	0	0
	つかつか	104	0	0	0	0
	よちよち	92	0	0	0	0
	とことこ	88	0	0	0	0
	てくてく	74	0	0	0	0
話す・言う	ぶつぶつ	575	0	0	0	0
	すらすら	168	0	0	0	0
	べらべら	91	0	0	0	0
	ペちゃくちゃ	34	0	0	0	0
	ずばずば	22	0	0	0	0
食べる	もりもり	93	0	0	0	0
	むしやむしや	59	0	0	0	0
	もしやもしや	18	0	0	0	0
飲む	ごくごく	216	0	0	0	0
	がぶがぶ	44	0	0	0	0

表4.1の「動詞との共起制限が強いオノマトペ」は、「『する』と結びつきやすいオノマトペ」とどのような違いがあるのかを確かめるために、同義的なオノマトペと比較し、違いを検討する。例えば、「てくてく」は、(5a)のとおり、「ひたすら歩いていくさま」を表す。すなわち、「歩く」という動作を表す意味に限定されている。それに対して、「うろうろ」は(5b)のように、副詞として「歩く」様子を修飾することもあるが、(5c)のように「する」と結びつき、「あてもなくあちこち歩きるさま」を表す。あっちに行ったりこっちに行ったりするという、「歩く」だけでは表せない動きを表している。

(6a)の「まじまじ」は、「じっと見るさま」を表し、「見る」と「見つめる」を修飾する用法に限定されているが、(6b)の「きょろきょろ」は、「落ち着きなくあたりを見回すさま」という「見る」だけではない動きが含まれている。

- (5) a. その遠い道を、てくてく歩いて通ったりした。
 b. かれは、三日月形にのびた春良町をうろうろ歩きました。

- c. ほんの一瞬だったが、手に懐中電灯を持った柳さんと奥さんが庭の中をうろうろしていた。
- (6) a. 私は、啓輔の顔をまじまじとみつめた。
- b. ハナミズキの赤い実を食べにヒヨドリがきて枝にとまってはキヨロキヨロしている。

上記の例の分析から、オノマトペが、修飾する動詞以外の意味を持つ場合は、オノマトペ自体が「する」と結びつき、一般語彙の動詞とは異なる意味を持つ動詞となる。オノマトペの意味が複合的か限定的かという点が、「する」との結びつきに関係していると思われる。すなわち、オノマトペが表す動きや状態が、少しでも修飾する動詞と異なる場合や、心理状態が含まれているものが「する」と結びつきやすく、一つの動詞しか修飾しない限定的な意味を持つオノマトペは、その動詞の表す動きの仕方を特定する副詞的な用法となる。

4.1.2 動詞との共起制限が弱いもの

動詞との共起制限が弱いオノマトペは、下記のような CVQCVri の形態を持つものである。

「あっさり」「しっかり」「きっぱり」「はっきり」「ゆっくり」「ぴったり」「さっぱり」「すっきり」「こっそり」「きっちり」「じっくり」

これらのオノマトペは多義語が多く、意味によって、統語的特徴が異なる。例えば、「あっさり」は、「時間や手間をかけずに物事が行われるさま」という意味では、(1a)のように副詞として用いられるが、「人の性質や事物の状態などがしつこくないさま」という意味では、(1b)のように「する」のシテイル形が結びつく。(1c)は、尊敬の助動詞「れる」が結びついている例である。

- (1) a. 大幅な事業費増額と異例の事業計画変更が、第三者機関あっさり了承された。
- b. ウナギの稚魚をニンニクとか唐辛子を入れ、オリーブで炒めたもので割合あっさりしている。
- c. わりあいそのへんは、畠山さんはあっさりされているわけですね。

「しっかり」は、(2a)のように「確かにゆるがないさま」という意味では、副詞となるが、「人柄が堅実で信用できるさま」という意味では、(2b)のように動詞「する」のシテイル形と結びつく。

- (2) a. 任意のサイズにカットしたドライ用フローラルフォームをガラスの器にグレーで接着してしっかりと固定します。
- b. 少女趣味なところがなく、どちらかといえば男の子のような性格で、世間知らずだが妙にしっかりとしている。

「動詞との共起制限が弱いオノマトペ」として挙げた上記のうち、(1)「あっさり」と(2)「しっかりと」以外が、次のような例で使用されている場合は、様々な動詞を修飾する副詞となり、「する」とは結びつかない。

- (3) 「知りません」彼女はきっぱり否定した。
- (4) 「おかしいな」と思ったら、はっきりと断りましょう。
- (5) ひと組の老夫婦が、やはり、そこをゆっくり歩いてまわっていた。
- (6) ことに外交政策についてはこの方程式がぴったり当てはまる。
- (7) …どのような趣味をもった人物なのかが、さっぱりわからない。
- (8) 昨日の不安が嘘のようすっきりと起きられました。
- (9) …そういうことをこっそりと教えてくれました。
- (10) 送ってもらった同人誌なども、全部きっちり読んでます。
- (11) 何があればそれは実現できるのか、ということを、じっくりと考えてみます。

(1)から(11)のようなオノマトペは、具体的な動きを表す動詞を修飾する。焦点は動詞に置かれるため、オノマトペが「する」と結びついて動詞化することはない。

「動詞との共起制限が弱いオノマトペ」は、一般にはオノマトペとは認識されていない。しかし、CVQCVri という音韻形態的特徴に加え、一部のオノマトペには、「はきはき」「こそそそ」「きちきち」などの CVCV の等しい 2 モーラ反復形のオノマトペがあることから、本論文では、このような語彙もオノマトペとして研究対象に含める。

4.2 様態以外を表すもの

4.2.1 頻度を表すもの

「頻度を表すオノマトペ」は、「ちょいちょい」「ちょくちょく」「ころころ」である。(1)は、副詞として使用されている場合である。

- (1) a. 気分次第で言うことがころころと変わる。
- b. 最近、ちょいちょい道に迷うのよ。

BCCWJ で検索した結果、「ちょくちょく」が、「する」と「する」の活用形と結びつく主文末の述語用法はない。「ちょいちょい」が「する」と「する」の活用形と結びつく主文末の述語用法は、(2)のとおり、1 例あるが、これは触る様子を表しており、頻度を表すものではない。

- (2) 帰ると、「ニヤ～ニヤ～」言いながら奥の部屋へ私を誘い、机と壁の間に腕を入れ、チヨイチヨイします。

「ころころ」は変化の頻度を表す。変化の頻度を表す意味で、「する」と結びつく主文末の述語用法はない。「ころころ」は、多義語であるため、(3)のように、頻度とは異なって意味で、「する」と結びついている。(3a) は転がすようすを、(3b) は丸くて太っているようすを、(3c) は目に違和感があるようすを表す。

- (3) a. 気がついたときにマッサージ用の棒を使ってコロコロするようにしています。
 b. まるで芋虫みたいにコロコロしています。
 c. 朝からコンタクトレンズの調子が悪くて、目がコロコロします。

このようなオノマトペが頻度を表す意味で使用されている場合は、「しばしば」「たびたび」「ときどき」「よく」などの頻度副詞と同様、動詞との共起制限が弱く、様々な動詞を修飾する副詞として機能する。

4.2.2 量を表すもの

「量を表すオノマトペ」の典型的な用法は、(1)のように量を限定することである。

- (1) a. あまりむずかしく考えず、まず野菜たっぷりの食事をとりましょう。
 b. …誕生日にはプレゼントをどっさり買っていましたね。

表 4.2 は、BCCWJ で「オノマトペ+『させ／され／し／する』」で検索した結果である²¹。

表 4.2 主文末における「オノマトペ+（と）する」(量を表すもの)

オノマトペ	総数	させ	され	し	する
たっぷり	3567	0	0	2	0

²¹ 総数が 500 以上あるものあるが、検索結果の文は、500 までしか表示されないため、「する」と結びついている例は、500 内での数字である。

ちょっぴり	604	0	0	0	0
ぎっしり	377	0	0	0	0
どっさり	151	0	0	0	0
わんさか	70	0	0	0	0
たんまり	36	0	0	0	0

BCCWJ で検索した結果、「たっぷりする」は 3 例あるが、すべて、量を表す意味ではない。
(2) の「たっぷりする」は、それぞれ「寄り道をする」「礼をする」の目的語と「する」の間に挿入されているため、「たっぷりする」という一語とはみなせない。

- (2) a. もちろん、帰りの寄り道もたっぷりする。
 b. これ終わらせたら、札はたっぷりするからな。
 c. もし将来、無事に婆婆に出られたら、お札はもっとたっぷりするつもりだ。

「量を表すオノマトペ」は、副詞的に使用されることが多い。しかし、例外的に(3)のように、量が多い、広い、余裕のあるという意味で、シテイル形と結びつき、主文末で用いられることがある。

- (3) a. 今日のランチはたっぷりしていたね。
 b. それを思うとこのホテルのロビーはたっぷりしていた。

(4) は、それぞれ「入浴をする」「お礼をする」という動詞の間に「たっぷり」が副詞として挿入されているため、「たっぷりする」という一語とはみなせない。量を表しているのではなく、動きの程度を表している。

- (4) a. 入浴をタップリしましたわい。
 b. このお札はたっぷりしてあげるわ。

このようなオノマトペが量を表す意味で使用されている場合は、「たくさん」「いっぱい」「少し」などの程度副詞と同様、動詞との共起制限が弱く、様々な動詞を修飾する副詞として機能する。

4.2.3 程度を表すもの

「程度を表すオノマトペ」は、動詞の表す動きや状態の程度を表す副詞的用法となる。

(1)は、様々な動詞を修飾し、勢いよく行うさまを表している。

- (1) a. 時間がありませんから、一つ一つどんどん進めています。
b. 腕立て、腹筋、背筋、スクワット、懸垂などをガンガンこなしましょう。

BCCWJで調べた結果、程度を表すオノマトペが「する」と「する」の活用形と結びつく主文末の述語用法は、(2)のように、痛みを表す4例以外はない。

- (2) 二日酔いで頭ががんがんしました。

表4.3 主文末における「オノマトペ+ (と) する」(程度を表すもの)

オノマトペ	総数	させ	され	し	する
どんどん	5302	0	0	0	0
うっすら	474	0	0	0	0
がんがん	471	0	0	0	4
ほんのり	349	0	0	0	0
ばんばん	290	0	0	0	0
ぐんぐん	282	0	0	0	0
ぐいぐい	184	0	0	0	0
すくすく	181	0	0	0	0
めつきり	180	0	0	0	0
ずんずん	144	0	0	0	0
ちびちび	109	0	0	0	0
どしどし	107	0	0	0	0
じゃんじゃん	105	0	0	0	0
みっちり	96	0	0	0	0
めきめき	54	0	0	0	0

一部の程度を表すオノマトペは、音から拡張したと考えられる。破裂音から音が発生する際の激しさ、勢いのよさを表すようになったオノマトペには「かんかん」「がんがん」「どんどん」「ぼんぼん」「ぼんぼん」「ばんばん」「じゃんじゃん」などがある。

伊東(2009:27-28)によれば、これらのオノマトペに共通していることは、C1が破裂音、もしくは破擦音+[a/o]+[N]であること、プロトタイプ的意味が、(3)のように金属や木などがぶつかることによって発生する音であることである。拡張した意味に共通しているこ

とは、「激しさ、勢いのよさ」である。

- (3) a. アルミ鍋を叩く音が、カンカンと聞こえてきた。
b. 子供の飛んだり跳ねたりする音がドンドンと響いてきます。

このような音が発生するときの激しいイメージから「勢いのよさ」へ意味が拡張したと考えられる。プロトタイプ的意味では副詞として、音を表すが、拡張した意味では様々な品詞として使用される。(4)のように、「操作をする」、「質問をする」、「改正をする」の間に「どんどん」が挿入されている。

- (4) a. ビデオの操作はどんどんてしまっているのです。
b. 思い切りストレートな質問をどんどんしてくる。
c. 商法はまさに改正をどんどんしていっている。

仁田（2002：152-153）によれば、程度副詞は、程度性という抽象度の高い側面への言及であるのに対し、様態の副詞は、程度副詞に比べて、はるかにその共起を述語の有する語彙的意味のあり方に規定されている。したがって、共起可能な動詞、あるいは形容詞の語彙的意味によって制限されている副詞は、様態の副詞へ傾いていると述べている。「ほんのり」は、「非常に、とても、少し」といった典型的な程度副詞と比べると、共起する形容詞に極めて明確な制限があるという点で、様態の副詞へと大きく傾いているとしている。例えば、(5a)の「少し」は形容詞述語の程度限定を行うが、(5b)の「ほんのり」は不自然で座りが悪いとしている。

- (5) a. 「少し {古い／新しい}」「少し {長い／短い}」「少し {易しい／難しい}」
b. 「?ほんのり {古い／新しい}」「?ほんのり {長い／短い}」
「?ほんのり {易しい／難しい}」

(6a)の「すくすく」は、勢いのよいさまを表すが、修飾する動詞は主に「育つ」「成長する」「伸びる」である。(6b)の「ちびちび」は、「少しづつ」という意味で、「飲む」「舐める」との共起が圧倒的に多い。これらのオノマトペは程度性を有しているが、共起制限があるという点で、様態副詞に傾いていると言える。典型的な様態副詞である「てくてく」「まじまじ」は、程度性を有していない。

- (6) a. 子どもそんなお母さんの背中を見てすぐすぐ育っていますよ。
b. …清涼飲料やビールをちびちびと飲んでいる。

以上から、「量・程度を表すオノマトペ」は、修飾される名詞や動詞に焦点が置かれていること、動詞との共起制限が弱いため、意味が限定されておらず、「する」と結びつくと意味が曖昧になってしまうことから、「する」とは結びつきにくいと考えられる。

4.2.4 結果の状態を表すもの

結果の状態を表すオノマトペは、(1)のように、「に」を伴い、動詞を修飾する。(1a)と(1b)は具体的な内容を持たない動詞「なる」と接続しており、「オノマトペ+『に』」は必須成分となっている。(1c)は、それ以外の動詞と結びついており、随意成分である。

- (1) a. 川祭りを見に行きましたが、見物の人がおみこしをかつぐ人に、水をかけ
るので、みんなビショビショっていました。
b. ウェーランドとよばれていた原書の辞書が、ぼろぼろになるまで熟生によって用い
られていた。
c. プリンタを全部ばらばらに分解し、水洗いし、乾かして、組み立てました。

同一のオノマトペが結果副詞としても様態副詞としても機能することがある。(2a)の「びりびりに」は、細かく破られた結果の状態に焦点が当てられているのに対して、(2b)の「びりびりと」は、破る過程で出る音や様子を表している。この二つではアクセントも異なっている²²。

- (2) a. お金を子供がびりびりに破いてしました。
b. 女はテスト用紙を受け取るなり、少年の鼻先でびりびりと破り捨ててしまった。

(3)の「オノマトペ+『に』+する」は他動詞、(4)の「オノマトペ+『に』+なる」は、自動詞となる。

- (3) a. そしてジェシーは、自分の髪の中に指を突っ込み、くしゃくしゃにした。
b. 革やエナメルの靴はこまめに手入れしてピカピカにしましょう。

²² 様態副詞として機能するオノマトペのアクセントは「高低低低」であるのに対し、結果副詞は「低高高高」である（田守・スコウラップ 1999: 60）。

- (4) a. 彼の顔はほてり、髪はくしゃくしゃになっている。
 b. 暮れのガラス磨きも新聞紙だけでピカピカになりますよ。

分析対象の 480 語のオノマトペのうち、「に」を伴うオノマトペは 139 語である。表 4.4 は、BCCWJ で、「オノマトペ+『に』」の数が多い順に 20 のオノマトペを並べ、これらのオノマトペが修飾する動詞を調べた結果である。

表 4.4 「オノマトペ+『に』」と共に起する動詞

オノマトペ	総数	オノマトペ+「に」が修飾する動詞
ばらばら	615	なる、分解される、分かれる、分裂する、碎ける、散らばる
ぼろぼろ	299	なる、破れる、壊れる
たっぷり ²³	167	自信～、皮肉～、余裕～、ユーモア～、愛情～
ぴかぴか	144	磨く、磨きあげる、なる、光る、する、
ずたずた	140	なる、する、切り裂く、刻む、される
ぎりぎり	133	なる、着く、決まる、行く
くしゃくしゃ	124	する、なる、丸める、握りつぶす
くたくた	102	なる、疲れる
からから	98	乾く、なる、渴く、乾涸びる、干上がる
すれすれ	77	飛ぶ、なる、寄せる、出社する
どろどろ	76	なる、溶ける、する
へとへと	72	なる、疲れる
かんかん	68	なる、怒る、腹を立てる、晴れた
ジグザグ ²⁴	54	走る、進む、登る、曲がる
つるつる	54	なる、剃りあげる、光る
ひたひた	45	なる、注ぐ、かぶる、入れる、加える
ぐしゃぐしゃ	44	なる、する、潰れ、丸める
びしょびしょ	43	なる、濡れる、濡らす、する
びっしょり	39	なる
ゆっくり	26	なる、する

²³ 「たっぷり」は、「自信たっぷり」「皮肉たっぷり」などの慣用句的な表現が多くを占めた。

²⁴ 「ジグザグ」は、英語 (zigzag) からの借用語であり、圧倒的にカタカナ表記が多いため、カタカナで記した。総数は、ひらがな表記の「じぐざぐ」(1 件) も含む。

(5)の「かさかさしている」「ベタベタしている」はシテイル形で状態を表しているが、変化の結果に焦点が当てられているときは、(6)のように「に」を伴い、結果副詞となる。

- (5) a. 子供は今のところ症状は出でていないのですが、少し胸や足がかさかさしています。
b. 半年位前から樹液で葉っぱがベタベタしています。

- (6) a. 今からの季節になると子供のほっぺが、赤くかさかさになります。
b. 洋平の体は冷や汗で、べたべたになっていました。

「かさかさ」と「べたべた」のように、「する」を伴って動詞になることも、「に」を伴って結果副詞になることもあるオノマトペがある一方で、(7)「びしょびしょ」と(8)「くたくた」のように、「する」とは結びつかないオノマトペもある。「かさかさ」「べたべた」は多義語で、肌や物質の表面の様子や、触れた感じを表す意味を持っており、その意味で使用される場合は、「する」と結びつく。

- (7) a. 届いた日は雨で、その郵便物は雨の為びしょびしょになりました。
b. *届いた日は雨で、その郵便物は雨の為びしょびしょしました。
- (8) a. 食事をして帰宅。3人ともクタクタになりました。
b. *食事をして帰宅。3人ともクタクタしました。

このようなオノマトペが現在の状態を表すときは、(9)のように「だ」を伴う。この形態は形容動詞あるいは名詞の述語形式と同じである。意味は、動きではなく状態であるため、形容動詞化したとも考えられる²⁵。

- (9) a. 書籍については本棚にかなり厳密なオーダーで並べるくせに、洋服ダンスの中はぐちゃぐちゃだ。
b. 一日外回りで、くたくただった。

仁田（2002：53-74）は、結果の副詞と結びつく動詞として、表4.5の動詞を挙げている。結果の副詞をとる他動詞はすべて、主体の働きかけによって対象に状態変化が引き起こされている、といった結果の局面を持つ対象変化他動詞と、状態の変化が引き起こされると

²⁵ このようなオノマトペが名詞修飾する際は、形容動詞の連体形である「な」より「の」を伴って名詞修飾することが多い。品詞については、今後の課題とする。

といった結果の局面を持つ主体変化自動詞であるとしている。

それに対して、表4.6のように、動きの展開過程の局面だけを持ち、主体の働きかけが対象の状態変化を引き起こす必要のない対象非変化他動詞、および、主体運動といった動きを表す主体非変化自動詞は、結果の副詞を取りえないとしている。

表4.5 結果の副詞と結びつく動詞(仁田 2002: 53-74)より作成

対象変化他動詞	固める、乾かす、刻む、冷やす、破る、煮る 曲げる、丸める、磨く、裂く、壊す、つぶす
主体変化自動詞	乾く、肥える、崩れる、裂ける、沸く、碎ける 冷える、太る、痩せる、濡れる、曲がる、乾燥する

表4.6 結果の副詞と結びつかない動詞(仁田 2002: 53-74)より作成

対象非変化他動詞	蹴る、回す、食べる、飲む、鳴らす、投げる 動かす、投げる、食べる、飲む、打つ
主体非変化自動詞	遊ぶ、走る、飛ぶ、泳ぐ、踊る、舞う、歩く 降る、動く、休む、吹く、泣く、笑う、暴れる

BCCWJで「オノマトペ+『に』」と共に起する動詞を調べた結果、「飛ぶ」「走る」「行く」といった主体非変化自動詞も含まれている。「すれすれ」「ぎりぎり」は、(10)のように、動詞を修飾しているというよりは、その前にある名詞を修飾していると考えられる。(10a)は、海面からの距離が、非常に近いということ、(10b)は、「午後4時」に限りなく近いことを表している。したがって、結果の副詞というよりは、名詞と結合して、場所や時間の情報を与えていると思われる。(10c)の「ジグザグ」は走る様子を表しているため、様態副詞である。「ジグザグ」は圧倒的に「に」と結びつく例が多いが、「縫う」「巻く」のような対象変化動詞だけでなく、「走る」、「登る」、「進む」、「歩く」のような主体非変化自動詞とも結びつく。通常、主体非変化自動詞を修飾する場合、様態副詞は、「に」ではなく「と」を伴う。しかし、「ジグザグと」は2例だけである。その他、「の」を伴い、「歩行、飛行、運転、模様、ミシン、道」のような名詞を修飾する例と、「の」を介さず、複合名詞を形成する例が多くみられる。「ジグザグ」は、英語(zigzag)からの借用語である。借用語は形容動詞として取り入れられることが多い(「スピードィーに」「ストレートに」など)ため、形容動詞の連用形とも考えられるが、連体形である「ジグザグな」は1例のみである。「に」を伴って、主体動作動詞を修飾するという点で、「ジグザグ」の統語的特徴は、例外的であると言える。

- (10) a. 特攻機が海面すれすれに飛び、…
b. 途中で渋滞にはまり、予定している午後4時ぎりぎりに着いた。
c. スクーターは包囲網をかいくぐってジグザグに走り、…

以上をまとめると、結果の副詞を取りうる動詞は、基本的に、動きが実現・終了した後に、他動詞であれば対象に、自動詞であれば主体に変化が生じるという結果の局面を有する動詞である。言い換えると、対象変化他動詞と主体変化自動詞の変化結果の状態を表すオノマトペは「する」と結びつきにくい。

第4章では、「『する』と結びつきにくいオノマトペ」の具体例を挙げて、それらの特徴を述べ、「する」と結びつきにくい理由を考察した。第5章では、大きく「感情・感覚」「動きや状態」「『させる』と結びつくもの」「性質」の4つに分けた「『する』と結びつきやすいオノマトペ」を語彙的意味により11のカテゴリーに分類し、それぞれのカテゴリーに属する「オノマトペ+する」の形態論的アспектに關して詳しく論じる。

第5章

形態論的アスペクト

第5章では、第3章で大まかに4つに分け、語彙的意味ごとに11のカテゴリーに細分化した「『する』と結びつきやすいオノマトペ」の形態論的アスペクトを明らかにする。語彙的意味とは、{直接感覚、継続性、動作性、意志性}という4つの素性の集合とする。{直接感覚、継続性、意志性}は「+」か「-」で、{動作性}は「低・中・高」で示す。

形態論的アスペクトは、「オノマトペ+する／している／した／していた」のテンス（過去・現在・未来）、動きか状態か、継続か完了かを記す。アスペクト的な用法はないが、恒常的表現の用法がある場合は、「恒常的表現」と記す。アスペクト的な用法も恒常的表現の用法もない場合は「-」を記す。

5.1 感情・感覚表現

5.1.1 継続性があるもの

継続的な感情や感覚を表すものには、感情（「いらいら」「どきどき」）、痛み（「ひりひり」「ずきずき」）などがある。感情・感覚を表す2モーラ反復形のオノマトペは、一定の期間その状態が続くことを表す。心情の変化や痛みの発生の発生は、本人しか感じられないため、経験者は1人称であり、文中には表出されない。心情や痛みは、時間の流れの中で変化する局面を持つことから動作性はあるが、視覚で捉えられるような明確な動きではないため、動作性は中程度とする。感情や感覚は自然発生的なものであるため、意志性はないものとする。

スル形では、(1a)のように直接的に現在の感情を表す用法がある。このような用法だけではなく、(1b)と(1c)のように、恒常的表現にもなる。(1b)は、「最近」という副詞を伴い、一定の期間その状態が続いていることを示しており、(1c)は、条件節を伴い、ある条件下では、常にこのような状態になるということを表している。

- (1) a. ああ、どうにもいらいらする。
b. 最近無性にイライラします。
c. 何か用があつて食事の仕度が遅れたりすると、すぐにいらいらする。

日本語のオノマトペの中には、触れて感じたことを表すオノマトペが多いが、このようなオノマトペは、直接的な感覚表出現現も描写的な表現も可能である。(2)は、経験者が1人称で、直接的に感じたことを表している。

(2) 口の中がネバネバする。

(3a)は、シテイル形で現在の状態を、(3b)はシティタ形で過去の状態を表している。(3c)は「いつも」という副詞を伴っており、シテイル形で恒常的表現となっている。

- (3) a. まだ心臓がどきどきしている。
b. 説明のとりとめのなさに彼女はいらいらしていた。
c. …子どもが自立できるように育てることができないお母さんがほとんどで、そのためにいつもイライラしているのです。

(4)は、シタ形で過去の動き・状態の完了を表している。

(4) 何度も言葉が通じなくてイライラした。

以上をまとめると、継続性のある感情・感覚表現のオノマトペの語彙的意味と形態論的アスペクトは、表5.1のとおりである。

表5.1 感情・感覚表現（継続性があるもの）

音韻形態	2モーラ反復形
語彙的意味	+直接感覚、+継続性、動作性（中）、-意志性
例	いらいら、わくわく、ひりひり、ずきずき、べたべた
スル	現在の状態（直接的な感情・感覚表出表現 ²⁶⁾
シテイル	現在の動き・状態の継続
シタ	過去の動き・状態の完了
シティタ	過去の動き・状態の継続

5.1.2 変化結果の継続性のあるもの

変化結果の継続性のある感情・感覚表出表現が可能なオノマトペは「ほっ」「びっくり」「がっかり」「すっきり」などである。このようなオノマトペは、瞬時の変化を表すが、視覚で捉えられる変化ではないため、動作性は中程度とする。また、感情や感覚は通常は自然に発生するものであるため、意志性はないものとする。

(1)は、条件節を伴い、スル形で恒常的な表現となっている例である。

²⁶ 「うんざりだ」「くたくただ」のように、「だ」を伴って、直接的な心身の状態を表現するオノマトペもある。

(1) 「お元気ですか」とだけでも、ママの字で書かれているとほっとする。

(2a)は、シテイル形で現在の瞬間的な感情の変化が持続していることを、(2b)は、シティタ形で、過去の感情の変化が持続していたことを表している。

(2) a. 一回も穴を空けずに一年間書き通せたことだけでほっとしている。

b. 首になったことを告げると、先輩や仲間はびっくりしていた。

(3)は、シタ形で、瞬時の心情の変化が現在まで続いていることを表す直接的な感情表出表現である。

(3) a. 思ったより元気そうね。ホッとしたわ。

b. …路面が冷えていたのとアクセルワークミスなんだろうな～。あ～びっくりした。

c. ともかく、冷たいシャワーを浴びてさっぱりした。

(4a)は、経験者が三人称であるため、(4b)は、経験者は一人称であるが、直近の過去ではなく、回想して、過去のことを述べているため、直接的な感情の表出表現ではない。

(4) a. 私が言うと、崔はホッとしたようだった。

b. 恒子さんが結婚したときには、ぼくはずいぶんとがっかりしたものですよ。

以上をまとめると、変化結果の継続性がある感情・感覚を表すオノマトペの語彙的意味と形態論的アスペクトは、表5.2のとおりである。

表5.2 感情・感覚表現(変化結果の継続性があるもの)

音韻形態	CVQCVri、CVQ
語彙的意味	+直接感覚、+変化結果の継続性、動作性(中)、-意志性
例	びっくり、がっかり、すっきり、ほつ
スル	恒常的表現
シテイル	現在の変化結果の継続
シタ	変化結果の継続(直接的な感情・感覚表出表現)
シティタ	過去の変化結果の継続

5.1.3 繼続性がないもの

継続性がない感情・感覚を表すオノマトペは、「いらっしゃ」「むかつく」「ずきつ」「ちくつ」などである。変化結果の継続性のある「ほつ」「びっくり」などが、シタ形で瞬間的な感情の変化の継続を表し、直接的な感情表出表現が可能なのに対して、「かつ」「むかつく」は、瞬時の感情の変化を表すが、変化の状態が持続しない。シタ形で(1)のように感情・感覚の変化を過去の事態として捉えている。経験者が1人称であっても、シタ形で直接的な感情表出表現にはならないため、直接感覚はないものとする。内的状態の瞬間的な変化を表すため、動作性は中程度とする。

(1) a. その不遜な態度に思わずカツとした。(作例)

b. その光景を見たとき、正直、私の頭はクラツとした。

スル形では、恒常的表現となる。(2)は、条件節を伴っている例である。

(2) 自分のイメージとちょっとでもずれがあると、ただイラツとするだけ。

このようなオノマトペは、瞬時の感情・感覚、動きを表すが、変化の状態が持続しないため、シテイル形とは結びつきにくい。継続を表す場合は、「かつか」「むかむか」のような2モーラ反復形が用いられる。

以上をまとめると、継続性がない感情・感覚表現のオノマトペの語彙的意味と形態論的アスペクトは、表5.3のようになる。

表5.3 感情・感覚表現(継続性がないもの)

音韻形態	CVCVQ, CVQ
語彙的意味	一直接感覚、一継続性、動作性(中)、一意志性
例	いらっしゃ、むかつく、ずきつ、くらつ、ふらつ、ちくつ かつ
スル	恒常的表現
シテイル	—
シタ	過去の動きの完了
シティタ	—

5.2 動き・状態

5.2.1 動作性が高いもの

5.2.1.1 意志性があるもの

意志性があり、動作性が高いオノマトペは、移動動詞である「うろうろ」「ぶらぶら」などである。「うろうろ」は「あてもなく歩くさま」、「ぶらぶら」は、「特別な目的もなく歩くさま」を表し、「する」を伴い、歩くという動きを含んだ動作性が高い動詞となる。(1)は、「する」の意志形と結びついている例である。

(1) 有楽町・銀座辺りをぶらぶらしよっと。

BCCWJ で調べた結果、これらのオノマトペは、(2)のように、主文末において、スル形に「つもり」や「わ」「か」「ぞ」などが結びついて、意志を表す例が多くある。

(2) 時間がくるまで、そのあたりでもうろうろするわ。

シテイル形、シティタ形では、(3)のように現在と過去の動き・状態の継続を表している。

(3) a. 買い物客が派手な包装紙に包まれた箱を抱えてうろうろしている。
b. …奥さんが庭の中をうろうろしていた。

(4) は、シタ形で過去の動き・状態の完了を表している。

(4) …マンションの周りをウロウロしたり。。。

以上をまとめると、動作性が高く、意志性のあるオノマトペの語彙的意味と形態論的アスペクトは、表 5.4 のようになる。

表 5.4 動作性が高いもの（意志性があるもの）

音韻形態	2 モーラ反復形
語彙的意味	一直接感覚、+継続性、動作性（高）、+意志性
例	ぶらぶら、うろうろ、うろちょろ
スル	未来の動き
シテイル	現在の動き・状態の継続
シタ	過去の動き・状態の完了
シティタ	過去の動き・状態の継続

5.2.1.2 意志性が関わらないもの

動作性の高いオノマトペは、「きょろきょろ」「あたふた」「どぎまぎ」など慌てたり、焦ったりする様子を表すものが多い。これらのオノマトペは、動きと状態を含んでいるが、視覚で捉えられる動きとなって頗れるため、動作性は高いものとする。このようなオノマトペ動詞は、その動詞とは別の、動作主の意図を表す何らかの動きや事象に伴って、自然に発生する様子を表すため、意志性とは無関係なものとする。このようなオノマトペの多くには、不安や恐怖などの感情も含まれているが、直接的な感情表出表現にはならない。

スル形が単独で文末に現われる例はなく、(1)のように「ばかり」や「だけ」といった副助詞と共に起する例が多い。

- (1) a. 出口のない袋小路の中で、おろおろするばかりであった。
b. ユリはまごまごするだけだろう。

このようなオノマトペのもう一つの特徴は、マイナスの評価性を持った動きや状態を表すため、(2)のように、禁止の終助詞「な」との共起が多いことである。

- (2) a. 「えい。やかましい。じたばたするな。」
b. 警護は今まで通りつけるから、びくびくするな。

シテイル形、シティタ形では、(3)のように、1人称または3人称が主体となり、現在や過去の動き・状態の継続を表す。

- (3) a. …母は、子猫のことが気になって、映画が始まっても、妙にそわそわしていた。
b. ミミは泣きそうな顔でオロオロしていた。

シタ形では、過去の動き・状態の完了を表す。

- (4) 初孫を待ちわびながら家中がそわそわした。

以上をまとめると、継続性があり、動作性が高いオノマトペの語彙的意味と形態論的アスペクトは、表5.5のとおりである。

表 5.5 動作性が高いもの（意志性が関わらないもの）

音韻形態	2 モーラ反復形、2 モーラ反復形の変種
語彙的意味	－直接感覚、+継続性、動作性（高）
例	よろよろ、きょろきょろ、ぺこぺこ、あたふた、どぎまぎ
スル	恒常的表現
シテイル	現在の動き・状態の継続
シタ	過去の動き・状態の完了
シティタ	過去の動き・状態の継続

5.2.2 動作性が中程度のもの

このカテゴリーのオノマトペは、「にこにこ」「きらきら」「ぎくしゃく」などである。動きの幅が小さいもの、関係性や雰囲気などの抽象的なものの変化を表すため、動作性は中程度とする。

(1) は、主語が無情物で、その状態を表す「オノマトペ+する」のスル形が、文末に現わされている例である。(1a) は、描写的な表現、(1b) は、条件節を伴った恒常的表現である。

- (1) a. ここでスタンド 1 階あたりから男の叫び声、会場ざわざわする。
- b. 言えば家族の関係がぎくしゃくするだろう。

シテイル形、シティタ形は、(2) のように、現在や過去の動き・状態の継続を表す。

- (2) a. …峠の上ではともしびがきらきらしています。
- b. 長女の大学受験から一ヶ月ほどは家庭内がぎくしゃくしていた。

(3) は、シタ形の例で、過去の動き・状態の完了を表している。

- (3) 美里がからかうように、にやにやした。

以上をまとめると、動作性が中程度の動き・状態を表すオノマトペの語彙的意味と形態論的アスペクトは、表 5.6 のようになる。

表 5.6 動作性が中程度のもの

音韻形態	2 モーラ反復形、2 モーラ反復形の変種
語彙的意味	－直接感覚、+継続性、動作性（中）、－意志性
例	にこにこ、にやにや、きらきら、ざわざわ、ぎくしゃく
スル	恒常的表現
シテイル	現在の動き・状態の継続
シタ	過去の動き・状態の完了
シティタ	過去の動き・状態の継続

5.2.3 動作性が低いもの

5.2.3.1 意志性があるもの

このカテゴリーのオノマトペは、「のんびり」「ゆっくり」「ごろごろ」である。(1)のようにスル形で未来、(2)のようにシテイル形で継続を表すという対立があるが、それぞれ具体的な動きを表さないことから、動作性は低いものとする。

- (1) a. 今日は1日雨かな。せっかくの休みなのにね。のんびりするか。
b. あと3日何とか頑張って休みを迎えると思います。のんびりするぞ。
- (2) a. 午前中は雨。。。午後から晴れて来ましたが。家でのんびりしています。
b. …個性的な方で、ギターを弾いたり、マテ茶をのんだりフォースを構ったりとのんびりされていました。
- (3)のように、「する」の意志形と結びつくことから、意志性はあるものとする。
- (3) a. ああ、緊張した～あとはテレビ見ながらのんびりしよう。
b. 仕事が一段落したし、入院の準備をしたら、あとは病院でゆっくりしよう。
c. …夕飯に自分の好きなもの食べて、テレビを独り占めして、ごろごろしよっと！
- (4)は、シタ形で、過去の事態の完了を表している。
- (4) ランチに付く美味しいコーヒーでしばしのんびりしたのでした。

以上をまとめると、意志性がある動作性の低いオノマトペの語彙的意味と形態論的アспектは、表 5.7 のようになる。

表 5.7 動作性が低いもの（意志性があるもの）

音韻形態	2 モーラ反復形、CVNCVri、CVQCVri
語彙的意味	一直接感覚、+継続性、動作性（低）、+意志性
例	ごろごろ、のんびり、ゆっくり
スル	未来の状態
シテイル	現在の状態
シタ	過去の状態の完了
シティタ	過去の状態

5.2.3.2 意志性がないもの

このカテゴリーのオノマトペは、「おどおど」「だらだら」「めそめそ」など、人の様子を表すものである。シテイル形やシタ形で、名詞修飾をする用法が多い。このようなオノマトペは、ほぼマイナスのイメージの言葉であり、通常は意志的にそのような状態になることはないため、意志性はないものとする。

スル形では、(1)のように恒常的表現となる。

(1) トモコはいつも朝ぐずぐずする。

シテイル形では、(2)のように現在または過去の状態を表す。

- (2) a. ワンコのハルのお散歩も早朝、朝ご飯後どちらも手短に済ませてコタツでぬくぬくしています。
b. わたしは家に戻り、すぐにベッドに飛び込んで、一晩中めそめそしていました。

(3) は、シタ形で過去の状態の完了を表している。

(3) 生まれて初めての遠距離遠足で足が痛くなり、宿に着くとぐったりした。

以上から、意志性がなく、動作性の低いオノマトペの語彙的意味と形態論的アスペクトは、表 5.8 のようになる。

表 5.8 動作性が低いもの(意志性がないもの)

音韻形態	2 モーラ反復形、CVQCVri
語彙的意味	−直接感覚、+継続性、動作性(低)、−意志性
例	めそめそ、くよくよ、ぐずぐず、おどおど、ぐったり
スル	恒常的表現
シテイル	現在の状態
シタ	過去の状態の完了 ²⁷
シティタ	過去の状態

5.3 「させる」と結びつくもの

5.3.1 再帰用法

オノマトペには、「(足を)ばたばた」、「(手・紙を)ひらひら」、「(目を)ぱちくり」など、使役形「させる」と結びつき、自分の身体の部分や所有物に対する働きかけを行う再帰用法がある。これらの動作は動作主体自身の具体的な動きを表しているため、動作性は高いものとする。オノマトペの再帰用法がスル形で使用される場面は、(1)のように手順を説明する場合や動きの描写である。自分の身体の部分を意志的に動かすため、意志性はあるものとする。

(1) 寝転がって両足を高く上げ、足に力を入れないでぶらぶらさせる。

(2a) と (2b) はそれぞれ、シテイル形で現在と過去の動きの継続を表している。

(2) a. ようこは、目をパチパチさせている。

b. 小学校高学年の弟は退屈そうに足をぶらぶらさせていた。

(3) の「ひらひらさせた」は、シタ形で過去の動きを表している。

(3) 相原は、手に持っている紙をひらひらさせた。

以上をまとめると、再帰用法のオノマトペの語彙的意味と形態論的アスペクトは、表 5.9 のようになる。

²⁷ このカテゴリーの主文末におけるシタ形は非常に少ない。

表 5.9 再帰用法

音韻形態	2 モーラ反復形、2 モーラ反復形の変種
語彙的意味	一直接感覚、+継続性、動作性(高)、+意志性
例	(足を) ばたばた、(手を) ひらひら、(目を) ぱちくり (口を) ぱくぱく、(頭を) すっきり、
サセル	恒常的表現
サセティル	現在の動きの継続
サセタ	過去の動きの完了
サセティタ	過去の動きの継続

5.3.2 他動詞的な用法

「オノマトペ+させる」の形態ではあるが、再帰用法とは異なり、(1)のように対象が身体の一部ではないものがある。これらは、対応する他動詞がない自動詞を、使役形にして他動詞と同じように使う用法である。たとえば、「びっくりさせる」「がっかりさせる」は、それぞれ「驚かす」「落胆させる」に相当する動詞として、対象に働きかけて変化を引き起こすことから、動作性は高いものとする。「すっきりさせる」「しんなりさせる」など、意志性があるものもある。シティル形と結びついている例は非常に少ないが、シティル形と結びついた場合は、1回の動きの結果の状態を表す。

(1)は、スル形と結びつき、恒常的表現となっている。

- (1) a. 大根を拍子切りにし、塩を振ってしんなりさせます。
b. 霧にすることで雑味を落とし、酒をさっぱりさせる。

(2)はシティル形と結びついている例で、「立場を明確にしている」という変化結果の継続を表している。シティル形と結びついている例は、「はっきり」だけである。

- (2) 「当局の命令だから起こしたんですよ」と、立場をはっきりさせている。

BCCWJ の用例を観察した結果、(3)のように「させておく」「させないで」「させられる」のような形と結びつくことが多いことがわかった。すなわち、シティル形よりは、慣用的に定着した表現が使用されている。

- (3) a. いろいろな誤解と混乱があるので、少しすっきりさせておきたい。
b. あんまりがっかりさせないでよ。

- c. 話がまわりくどくて、なかなか結論をいわないので、聞いているほうはいらいらさせられる。

(4) はシタ形で過去の事態の完了を表す。出来事が主語になる、書き言葉的な表現である。

- (4) a. 実体のつかめぬもどかしさが、伸子の心をイライラさせた。
 b. 期待していただけに、二人の報告は少からず検査陣をがっかりさせた。

以上をまとめると、他動詞的な用法の「オノマトペ+させる」の語彙的意味と形態論的アスペクトは、表 5.10 のようになる。

表 5.10 他動詞的な用法

音韻形態	2 モーラ反復形、CVQCVri、CVNCVri
語彙的意味	−直接感覚、+変化結果の継続、動作性(高)、±意志性
例	いらいら、がっかり、さっぱり、はつきり、しんなり
サセル	恒常的表現
サセティル	現在の変化結果の継続
サセタ	過去の事態の完了
サセティタ	過去の変化結果の継続

5.4 性質

性質を表すオノマトペは、(1)のように人の性格、容姿、味、手触りなどを表すものである。性質は、通常変化しない属性であると考え、継続性と動作性はないものとする。

- (1) a. いつもにこやかで、おっとりとしている。(性格)
 b. こちらも長身の方だが、体格は多少がっしりしている。(容姿)
 c. ウナギの稚魚をニンニクとか唐辛子を入れ、オリーブで炒めたもので割合あっさりしている。(味)
 d. 片面がざらざらして、もう片面がつるつるしています。(触覚)

BCCWJ で調べた結果、このようなオノマトペが「する」と結びつく場合、(1)のような主文末のシティル形による述語用法より、(2)のようなシタ形による名詞修飾用法のほうが多くみられた。

(2) 10ヶ月の長男。一姫二太郎のせいか、おっとりした性格。

下記のオノマトペも性質を表すが、BCCWJで調べた結果、主文末で「する」と結びついている例はない。ただし、(3)のように、シタ形、「の」、「な」を伴い、名詞修飾をしている例が多くある。

「でっぷり」「ふっくり」「しんねりむつり」「むくむく」「ぬめぬめ」「ぼそぼそ」「ねとねと」「うらうら」「だぶだぶ」「ほやはや」「むきむき」「ちぐはぐ」

- (3) a. 小ちやなむくむくした小犬でね、大きな毛糸玉のような感じでしたよ。
b. 父はだぶだぶのシャツ姿で、玄関に立っていた。
c. 管理人兼寮長の石田貴子は、苑子のちぐはぐなスリッパに早くも目を止めた。

このようなオノマトペは、スル形で(4)のような恒常的表現となる²⁸。

(4) 茄でると味や脂が抜けてあっさりする。

(5) は、CVCVQの形態のオノマトペがシテイル形で性質を表している例である。この形態のオノマトペは、語末に促音を伴い、瞬間的な動きを表すものが多いが、中には(5)のように性質を表すものもある。

- (5) a. 豚足もコラーゲンたっぷりのゼラチン質。皮がパリパリで中はトロッとしています。
b. …普通にいちごを煮た感じ。全体にサラッとしている。

シタ形は、(6)のように「ものだ」という感慨・詠嘆を表すモダリティー表現と結びつく例はあるが、(7)のように、名詞修飾用法で現われるほうが一般的である。

(6) 「じゃ、またね」と母親の方はあっさりしたものだ。

(7) すっきりとしたミルクジェラートにとろつとしたキャラメルソースがありおいしかったそうです。

性質を表すオノマトペは、通常変化をしないが、容姿や性格など、長期的に変化する場

²⁸ 「べたべた」「ねばねば」などの触覚で感じたことを表すオノマトペの中には、スル形で直接的な感覚表出表現となるものがある。

合がある。(8)は、「すっきり」というオノマトペが「してくる」を伴い、変化が進展しつつあることを表す。

(8) 12月上旬から毎日ジムに通って、やっと最近ウエスト周りがすっきりしてきたようです。

以上をまとめると、「性質」を表すオノマトペの語彙的意味と形態論的アスペクトは、表5.11のようになる。

表 5.11 性質

音韻形態	2モーラ反復形、CVQCVri、CVCVQ
語彙的意味	一直接感覚、一継続性、一動作性、一意志性
例	さばさば、ねばねば、おっとり、がっしり、ぼっちやり あっさり、とろつ、さらつ
スル	恒常的表現
シテイル	現在の状態
シタ	—
シティタ	過去の状態

以上、語彙的意味の違いによって分けた11のカテゴリーに属するそれぞれのオノマトペの語彙的意味と形態論的アスペクトを記述した。第6章では、「オノマトペ+する」とアスペクチュアリティーの表現形式との結びつきの分析により、語彙的アスペクトについて論じる。

第6章

語彙的アスペクト

6.1 語彙的アスペクトの分析方法

本章では、時間的な展開を表す様々なアスペクチュアリティの表現形式にどのようなオノマトペが前接しやすいかを明らかにすることを目的とする。

まず、オノマトペと次のようなアスペクチュアリティの表現形式との結びつきについて、BCCWJで調査した。表6.1は、その結果をまとめたものである。たとえば、「はじめる」の場合、ひらがな（「はじめる。／はじめている。／はじめた。／はじめていた。」）と漢字（「し始める。／し始めている。／し始めた。／し始めていた。」）、それぞれの丁寧形を入力し、用例の総数と、オノマトペが前接している用例数を調査した。

表6.1 「オノマトペ+する²⁹」とアスペクチュアリティの表現形式との結びつき

アスペクチュアリティの表現形式	総数	オノマトペ
するところだ	93	1
しようとする	1176	5
はじめる	1985	46
しだす	1821	10
てくる	7211	125
していく	665	3
しつづける	668	3
しつつある	527	0
しているところだ	169	6
したところだ	74	0
したばかりだ	84	0
しおわる	10	0
してしまう	6054	139
してある	1295	0

²⁹ 「させる」も含む。

この調査結果によると、「してしまう」が最も多く、「てくる」「はじめる」「しだす」が続く。一方、主文末において、オノマトペが「しつつある」「したばかりだ」「しおわる」「してある」と結びついている用例はない。残りの形式に関しては、用例が数例あるのみである。

この調査結果と、実際の使用実態が一致するかを確かめるため、日本語母語話者（20代から60代までの男女各1名、計10名）を対象にアンケート調査を行った。具体的には、第3章で11に分けた意味カテゴリーの中の典型的なオノマトペが、アスペクチュアリティーの表現形式と結びついている例文を読み、「違和感がない」と感じた場合は「○」、「あまり言わないと、言えなくはない」と判断した場合は「△」、「言えない」は「×」を書いてもらい、「○」は2点、「△」は1点、「×」は0点で10名の合計を計算した。

表6.2は、アンケートの対象語である。大きく4つに分けた意味カテゴリーのうち、同じ語彙的意味を持つものでも、アスペクチュアリティーの表現形式との結びつきに差異が現れるかどうかを確認する。

表6.2 アンケートの対象語

	意味カテゴリー	オノマトペ	語彙的意味
①	感情・ 感覚表現	いらいら	+直接感覚、+継続性、動作性（中）、-意志性
②		がっかり	+直接感覚、+変化結果の継続性、動作性（中）、-意志性
③		ひりひり	+直接感覚、+継続性、動作性（中）、-意志性
④	性質	かさかさ	-直接感覚、-継続性、-動作性、-意志性
⑤		おっとり	-直接感覚、-継続性、-動作性、-意志性
⑥		がっしり	-直接感覚、-継続性、-動作性、-意志性
⑦	動き・状態	にこにこ	-直接感覚、+継続性、動作性（中）、-意志性
⑧		うとうと	-直接感覚、+継続性、動作性（高）
⑨		のんびり	-直接感覚、+継続性、動作性（低）、+意志性
⑩		ぎくしゃく	-直接感覚、+継続性、動作性（中）、-意志性
⑪	「させる」と 結びつくもの	（目を） ぱちぱち	-直接感覚、+継続性、動作性（高）、+意志性

感情・感覚表現の2モーラ反復形のオノマトペは、感情を表す「いらいら」と感覚を表す「ひりひり」である。この二つは、語彙的意味は等しいが、感情はある程度、その発生を抑制できるのに対して、痛みはコントロールできないという点で異なっている。「がっかり」は、変化結果の継続性を表すという点で、上記の二つとは、語彙的意味が異なっている。

る。性質を表すオノマトペは、「かさかさ」、「おっとり」、「がっしり」である。語彙的意味は同じだが、それぞれ、触覚、性格、容姿を表すという点で異なっている。人や無情物の動き・状態を表すものは「にこにこ」「うとうと」「のんびり」「ぎくしゃく」である。「にこにこ」「ぎくしゃく」は、同じ語彙的意味をもつが、「ぎくしゃく」は、主語が無情物であるという点で、「にこにこ」と異なっている。「のんびり」は意志性があり、動作性が低い。「させる」と結びつくものは「(目を)ぱちぱち」である。体の一部分を動かす再帰用法となる。

次に、それぞれのアスペクチュアリティーの表現形式と「オノマトペ+する」との結びつきについて分析する。

6.2 アスペクチュアリティーの表現形式との結びつき

6.2.1 直前

6.2.1.1 するところだ

「するところだ」は、「今から意志的に何かをするところだ」という意味で、動作や変化がその直前の段階にあることを表す。次の段階が予測できる、場面の変化性が明確な動詞が前接する。(1a)は動作動詞に、(1b)は変化動詞に「ところだ」が結びついている例である。

- (1) a. これからワードで契約書を書くところです。
b. いま空港を出るところです。

「オノマトペ+するところだ」の主文末における用法はなく、「するところだった」が1例だけである。(2)は、人の動き・状態を表す意志性のないオノマトペであるが、実際はそうならなかつたことを表している。

- (2) 少し前だったら、今度こそクビだ、とよくよするところだったろうが…。

アンケート調査の結果、⑧の「うとうとするところだ」の適切性が比較的高いが、BCCWJに例文はない。「うとうと」は意志性が関わらないため、話し手のコントロールが及ばない現象が起こる直前の状況になるという意味の「しそうになる」との結びつきのほうが自然である。⑨「のんびり」は意志性はあるが、「本を読む」「ご飯を食べる」などのような具体的な動作ではなく、動作性が低いことから、適切性が低いと考えられる。

＜アンケート調査の結果「オノマトペ+するところだ」＞

- ① 私は、いらいらするところだ。 (2)³⁰
- ② 私は、がっかりするところだ。 (3)
- ③ 傷口が、ひりひりするところだ。 (感じているのは「私」) (3)
- ④ 彼女（の性格）は、おっとりするところだ。 (0)
- ⑤ 彼（の体）は、がっしりするところだ。 (3)
- ⑥ (私の) 肌は、かさかさするところだ。 (1)
- ⑦ 祖母は孫を抱いて、にこにこするところだ。 (5)
- ⑧ 彼は、うとうとするところだ。 (13)
- ⑨ 私は家で、のんびりするところだ。 (10)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくするところだ。 (6)
- ⑪ 彼は、目をぱちぱちさせるところだ。 (7)

以上から、典型的には、動作性が高く、意志性のあるオノマトペが「するところだ」と結びつく。

6.2.1.2 しようとする

動詞の意志形に「とする」がついた形式である。主語が無情物の場合は(1)のように、主文末でシテイル形が用いられ、直後の変化に向かって状況が推移していることを客観的に表している。

(1) a. はるかかなたに横たわる山脈に夕日が沈もうとしている。

b. そうしたなかで、日本人が観光に求めるものも変わろうとしている。

c. 私の講演が、まもなく始まろうとしていた。

(2) は、意志性がある動き動詞の例である。その動作を実現しようと試みることを表す。

(2) お母さんは、赤ちゃんに、絵本の読み聞かせをしようとしている。

BCCWJ で調べた結果、オノマトペが「しようとする」に結びついている例は、次の 2 例である。(3a) の「ホッとする」は、通常は自然に発生する感情であるが、この例の場合は、意図的な感情の操作を表している。「安心しようとする」という意味で使用されている。(3b)

³⁰ () の数字は、アンケート調査の結果、「○」を 2 点、「△」を 1 点、「×」を 0 点で計算した 10 名の合計点である。

は、「しっかりと振る舞う」という意味である。

- (3) a. 裏があると、「ほら、やっぱりね」とホッとしようとします。
b. あいつは一人でしっかりとしようとしていた。

オノマトペが、「させようとする」に結びついているのは、次の3例である。(4a)は、「明確にする」という意味で、(4b)と(4c)は、ともに再帰用法である。

- (4) a. チャーリーは状況をもう少しはっきりさせようとした。
b. リナは必死に頭をしっかりとさせようとした。
c. マローンは考えを中断し、あくびをし、頭をふってすっきりさせようとした。

アンケート調査の結果では、⑦「にこにこ」⑨「のんびり」⑪「(足を)ばたばた」の適切性が高くなっている。⑦は「笑顔を作ろうとした」、⑨は「休もうとした」、⑪は「(足を)動かそうとした」という具体的な動きを表す意味に解釈される。⑦の表情は、感情の変化に伴い、自然に変化することが多いが、意図的に作ることができるために、例文のような状況では、「にこにこしようとした」という表現も適切だと判断されたと考えられる。

<アンケート調査の結果「オノマトペ+しようとする」>

- ① 私は、いらいらしようとした。(2)
- ② 私は、がっかりしようとした。(1)
- ③ 傷口が、ひりひりしようとした。(感じているのは「私」)(0)
- ④ 彼女(の性格)は、おっとりしようとした。(2)
- ⑤ 彼(の体)は、がっしりしようとした。(2)
- ⑥ (私の)肌は、かさかさしようとした。(1)
- ⑦ 上司が来たので、彼女は、にこにこしようとした。(18)
- ⑧ 彼は、うとうしようとした。(4)
- ⑨ 彼は家で、のんびりしようとした。(19)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくしようとした。(0)
- ⑪ 電車の中で、子供が足をばたばたさせようとした。(17)

以上をまとめると、「しようとする」と結びつくオノマトペは、具体的な一般語彙に相当する意味に解釈されるものか、動作性が高く、意志性のあるものであると考えられるが、典型的には、具体的な動きを表すものが結びつくため、オノマトペとの結びつきは、一般的ではないと言える。

6.2.2 開始

6.2.2.1 しはじめる

「しはじめる」は、動きや状態が始まる段階を表す。前にくる動詞は、継続期間のあるものに限られる。(1a)は、動作動詞に接続している例である。(1b)は、変化動詞に接続している例である。この場合、「次々と」という副詞をともない、繰り返し動作の始まりを表している。

- (1) a. リクライニング・チェアの背もたれを倒し、手足を伸ばして寝転がり、本を読みはじめた。
b. 終業時間になると、社員たちが次々と帰り始めた。

BCCWJ で調べた結果、「オノマトペ+しはじめる」の用例は、46 ある。主文末における「させはじめる」の例はない³¹。

<感情・感覚>

いらいら、むずむず、どきどき、ぞくぞく、ずきずき、ぴりぴり、うずうず

<動き・状態>

うとうと、うつらうつら、こくりこくり、(目が)とろん、もじもじ、ふらふら、そわそわ
うろうろ、うろちょろ、べたべた、にこにこ、(目が)ぎらぎら、がたがた、がやがや
ざわざわ、ぎくしゃく、(音が)はつきり、(気持ちが)ゆったり

2 モーラ反復形が多くを占める。その他は、CVQCVri (ゆったり、はつきり)、2 モーラ反復形の変種 (うろちょろ、ぎくしゃく)、CVCVN (とろん) である。これらのオノマトペの中に、瞬間的な動きを表すものはない。「とろん」は、2 モーラ反復形ではないが、「している」が結びついた「(目が)とろんとしている」は、目がぼんやりしている状態を表す。すなわち、開始の局面を表す「しはじめる」と結びつくオノマトペは、継続性 (動きと状態の継続) のあるものである。

(2)は、経験者が1人称の感覚を表すオノマトペと「しはじめる」が結びついている例である。

- (2) a. そして、翌年の“魔の季節”がやってきた。いつも二月半ばごろから、鼻の奥がムズムズしはじめる。
b. 頬が熱くなり、こめかみがズキズキし始めた。

³¹ 従属節における用法は1例ある。(「相手をイライラさせはじめる時間…」)

(3) は、動作性が比較的高いオノマトペである。すなわち、静的な状態からの変化がはつきりわかるような動きを表す。

- (3) a. 耳の感度が良いのか、雷鳴が聞こえ始める前からソワソワし始めます。
- b. ハムスターには「ハムハム」という名前もついて、つぎの日からは、あにきの部屋を元気にうろちょろしはじめた。
- c. いつもの他愛ない話をしているうちに、やがて千恵子は夫の手を握ったままうつらうつらしはじめた。
- d. 何か飲むかという問い合わせにあたしはうとうとしはじめている。
- e. 居ても立ってもいられず、狭い書斎の中でウロウロし始める。
- f. 私がこう言うと、その男は急にニコニコしはじめた。

(4) は、無情物の動き・状態を表している例である。無情物の動きを表すオノマトペに関しては、(4a)から(4c)の「がたがた」「がやがや」「ざわざわ」など、音が関わっているものがある。無音の状態から、音が発生するという変化が明確にわかる。(4d)は、主語が「夫婦生活」という抽象的なものである。

- (4) a. 窓がガタガタしはじめた。
- b. ブローカーや、労働者や、エジプトの農民などがどこからともなく集まってきて、ガヤガヤしはじめた。
- c. それで教室は一瞬静かになるのですが、しばらくするとまたざわざわし始めます。
- d. 夫婦生活がギクシャクし始めています。

山岡（2000：182-183）によると、「はじめる」は、過程性を有する動作動詞にのみ付加し得るアスペクト形式であり、これらが付加しうる動詞は、状態動詞とは言えないとしている。例えば、(5)の「腹が立つ」には、「はじめる」が結びつくため、状態動詞ではなく、時間的推移、つまり変化量を含み持つ動作動詞ということになる。

- (5) 正夫は腹が立ちはじめた。

アンケート調査の結果から、直接感覚表現である①「いらいら」と③「ひりひり」の適切性が高い。これは、BCCWJの結果と整合性がある。①「いらいら」と②「がっかり」では、適切性に差異がみられる。この差異は、形態的特徴からくる継続性の違いによるものである。「しはじめる」に前接する動詞は、継続性があるものでなければならないが、「がっか

り」は、瞬間的な心情の変化を表すため、「しはじめる」とは結びつきにくい。④の性格と⑤の容姿は性質であり、通常、時間的な幅があるものとして捉えられないことから、違和感を覚える人が多いようである。⑦から⑩は人や無情物の動きや状態を表す。この中で、⑨「のんびり」の適切性が低いのは、「のんびり」が具体的な動きではないためであると考えられる。

＜アンケート調査の結果「オノマトペ+しはじめる」＞

- ① 彼女がなかなか来なくて、私は、いいらいらしはじめた。(18)
- ② 彼女が来ないと聞いて、私は、がっかりしはじめた。(5)
- ③ 傷口が、ひりひりしはじめた。(感じているのは「私」)(19)
- ④ 彼女（の性格）は、おっとりしはじめた。(1)
- ⑤ 彼（の体）は、がっしりしはじめた。(4)
- ⑥ (私の) 肌は、かさかさしはじめた。(16)
- ⑦ 祖母は孫を抱いて、にこにこしはじめた。(15)
- ⑧ 彼は、うとうとしはじめた。(20)
- ⑨ 私は家で、のんびりしはじめた。(9)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくしはじめた。(18)
- ⑪ 目にゴミが入って、彼は目をぱちぱちさせはじめた。(11)

以上をまとめると、開始の局面を表す「しはじめる」と結びつくオノマトペは、継続性があり、動作性が比較的高いものである。

6.2.2.2 したす

「したす」は、動作に取りかかった段階を表す。「しはじめる」と「したす」の基本的な用法には、違いがない。しかし、意志的行為には「しはじめる」が、(1)のような自然現象などの非意志的な動きには「したす」のほうが自然である。また、「突然」というニュアンスで使われることが多い。

- (1) 「また雨が降りだした。」

山梨（1995：106-108）は、次の例を挙げて、命令、勧誘、使役のような意図性がかかわる行為の文脈では、「～し出す」は「～し始める」に比べて適切性が下がるとしている。

- (2) a. ?すぐにその本を読み出しなさい。
 b. すぐにその本を読み始めなさい。
- (3) a. ?早く食べ出そう。
 b. 早く食べ始めよう。
- (4) a. ?先生が生徒に本を読み出させた。
 b. 先生が生徒に日本を読み始めさせた。

BCCWJ による調査の結果、「オノマトペ+したす」の例は、次の 10 例である。

うとうと、ざわざわ、そわそわ、ぶりぶり、ぺこぺこ、どぎまぎ、ぎくしゃく、ごそごそ
 よろよろ、もじもじ

無情物の動き・状態を表す「ぎくしゃく」「ざわざわ」を除くと、全て人の動き・状態を
 表す比較的動作性が高いオノマトペである。(5)は、主文末において、オノマトペが「した
 す」と結びついている例である。

- (5) a. 「もう歩けない」と男はすぐ道にうずくまり、ウイスキーを飲みウトウトし出す。
 b. ところが彼女が数歩進むと、あたりの騒音はだんだん高くなり、ますますザワザワ
しだした。
 c. …私と彼も将来について話をするようになり、ギクシャクしだしました。
 d. おタエは、マンサクじいさんにわたされた古い地図が、さっぱり役に立たないわと、
ぶりぶりしだしていた。
 e. それまでは館長として威張ってたのが、手のひらを返したようにぺこぺこし出した
 んだって。
 f. 理絵子は急にどぎまぎしだした。
 g. 「ああ…」ミスター・オーヴァーホルトはそわそわしだした。

アンケート調査の結果から、①「いらいら」と②「がっかり」では、適切性に差異がみ
 られる。「がっかり」は、瞬間的な心情の変化を表すため、前接する動詞に継続性を求める
 「したす」とは適合性が低いためである。痛みの発生を表す③「ひりひり」は、適切性が
 比較的高い。④「おっとり」と⑤「がっしり」が表す性格や体格は、長期的に変化するも
 のであり、明確な開始点が表しにくいことから、違和感を覚える人が多いようである。⑨
 「のんびり」の適切性が低いのは、「のんびり」の動作性が低いためである。⑪「(目を)
 ぱちぱち」も適切性がやや低い。その理由は、対象に働きかけるという意志的な動きを表

す「させる」と、自然発生的な開始の局面を表す「しだす」との適合性が低いためであると考えられる。

アンケート調査の結果では、「はじめる」と「しだす」が結びつくオノマトペで適切性が高いのは、「いらいら」「ひりひり」「にこにこ」「うとうと」「ぎくしゃく」である。アンケートの①の文の「いらいらした」は、経験者が1人称であるため、通常は、自然発生的な「しだす」とは結びつかないが、小説などの場合は、自分の感情も客観的に描写することがあるため、不適切ではないと判断されたと考えられる。

＜アンケート調査の結果「オノマトペ+しだす」＞

- ① 彼女がなかなか来なくて、私は、いらいらした。 (17)
- ② 彼女が来ないと聞いて、私は、がっかりした。 (6)
- ③ 傷口が、ひりひりした。(感じているのは「私」) (17)
- ④ 彼女（の性格）は、おっとりした。 (1)
- ⑤ 彼（の体）は、がっしりした。 (6)
- ⑥ (私の) 肌は、かさかさした。 (12)
- ⑦ 祖母は孫を抱いて、にこにこした。 (14)
- ⑧ 彼は、うとうとした。 (18)
- ⑨ 私は家で、のんびりした。 (7)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくした。 (17)
- ⑪ 目にゴミが入って、彼は目をぱちぱちさせだした。 (6)

以上をまとめると、「しだす」と結びつくオノマトペは、継続性のある比較的動作性が高く、非意志的な動きを表すものである。

6.2.3 状態の出現・変化の進展（してくる）

「してくる」は、話し手の発話時の位置の方へ向かって来る方向性を持つ動作・出来事に対して使われる。BCCWJによる調査によると、「オノマトペ+してくる」の用例は、125ある。

＜感情・感覚＞

いらいら³²、どきどき、わくわく、むずむず、くらくら、ちかちか、ずきずき
(頭が)ぼーつ、かつ、かつか、ひりひり、むかむか、むしゃくしゃ、(舌が)びりびり
うんざり、ぐらぐら、うきうき³³

32 「苛々」も含む。

33 「浮き浮き」も含む。

＜動き・状態＞

ぼんやり、きりっと、もぞもぞ、とろん、ゆっくり、のんびり、ぶらぶら、まつたり、ざわざわ、ぎくしゃく、すっきり、はつきり、しつかり、きっちり、きらきら、しんみり

＜性質＞

しっとり、ざらざら、べたべた、ぬらぬら、ぬるぬる、でこぼこ、ごわごわ、(顔が)てかてか、ぱさぱさ、くつきり、(お腹が)ぽよーん、どろっ、さらっ、ぽかぽか

(1)は、知覚した情報が到達することを表している。感情・感覚を表す「オノマトペ+する」が「してくる」と結びついたときは、感情や感覚が発生してきたことを表す。

- (1) a. 台所からおいしそうなにおいがしてきた。
b. 私が駅のホームで電車を待っていると、アナウンスが聞こえました。

「はじめる」「だす」に前接するオノマトペには、「しっとり」「ざらざら」のような触覚で感じた様子や容姿を表すオノマトペはない。「はじめる」「だす」と比べると、「してくる」は、感情や知覚したことを直接的に表現する手段となっている。言い換えると、「はじめる」「だす」のほうが客観的な表現となる。

「してくる」には、感情などが沸き上がってくることを表現する用法のほか、「(肌が)かさかさしてきた」のような短期的な変化や、「(最近)ぱっちょりしてきた」のような長期的な変化を表す用法、「郵便局に寄ってきた」のような、継起を表す用法などがある。

(2)は、オノマトペが「してくる」と結びついている例である。短期間のうちに徐々に感情あるいは痛みなどが出現して、現在に至っていることを示している。(2a)から(2f)は、直接的な感情・感覚表現である。(2g)は、水面の状態の変化を視覚で捉えた表現である。

- (2) a. つまんないもの見せられて、なんか、くさくさしてきちゃったよ。
b. 和子はむしゃくしゃしてきた。
c. しゃべっているうちに、フトシはかっかしてきた。
d. たけのこを食べると、舌がびりびりしてきます。
e. 初夏の陽光をたっぷりあびた新緑がもえるように目に映えて、なんとなくむずむずしてくる。
f. 舗道から湿った熱気が立ち上り、すぐに体がべたべたしてきた。
g. どんどん水面がキラキラしてきました。

「する」と結びつくオノマトペの中でも、(3a)のように、移動動詞が「してくる」と結びつくと、状態の発生や時間的推移に伴う変化を表すのではなく、主体の移動を表す空間的移動の用法となる。(3b)と(3c)は、動作性が低いオノマトペであるが、どちらも「くつろぐ」「休む」という一般語彙に相当する意味で使用されているため、「してくる」と結びつき、継起の意味を表していると考えられる。

- (3) a. 美容院まで時間があったので、ちょっとぶらぶらしてきました。
b. こんな景色を見ながらのんびりしてきました。
c. 今日はかなり空いていたのでゆっくりしてきました。

(4)の「さらつ」は、形態的には、瞬間性を表すようにみえるが、「さらつとしている」では、性質を表すため、「してくる」が結びつき、状態の変化の表現となっている。

- (4) 陽に当ててよく乾かしたり、フライパンなどで煎ると、さらつとしてくる。

(5)は、「させてくる」と結びついている例である。徐々に状態あるいは感情が変化する様子を表している。

- (5) a. わたしの基本的な問題意識となった考え方は、この小説を書いているうちに形をはっきりさせてきたのだった。
b. そのすさまじい蟬の声は、熊吾の神経にさわって、ふいに彼を苛々させてきた。

アンケート調査の結果から、継続性のある①「いらいら」より、瞬間的な心の変化を表す②「がっかり」は、適切性が低いことから、継続性のあるオノマトペに結びつくと言える。④「おっとり」と⑤「ぽっちやり」は、性格や容姿を表しており、長期的には変化をすることがあるため、適切性が高くなっていると考えられる。④の「おっとり」、⑤の「ぽっちやり」、⑥の「かさかさ」などの性質を表すオノマトペは、「はじめる」「しだす」とは結びつきにくいが、「してくる」とは適切性が高い。

<アンケート調査の結果（「オノマトペ+してくる」）>

- ①「彼女がなかなか来なくて、いらいらしてきた。」（感じているのは「私」）（20）
②「彼女が来ないと聞いて、がっかりしてきた。」（感じているのは「私」）（14）
③「傷口が、ひりひりしてきた。」（感じているのは「私」）（20）
④「彼女（の性格）は、おっとりしてきた。」（17）

- ⑤ 最近、彼女はぼっちやりしてきた。 (20)
- ⑥ 「肌が、かさかさしてきた。」(感じているのは「私」) (20)
- ⑦ 祖母は孫を抱いて、徐々に、にこにこしてきた。 (19)
- ⑧ 彼は、徐々にうとうとしてきた。 (16)
- ⑨ 私は家で、徐々にのんびりしてきた。 (9)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくしてきた。 (20)
- ⑪ 彼は、目をぱちぱちさせてきた。 (9)

以上をまとめると、継続性があり、動作性の比較的低いオノマトペで、感情や感覚などの発生や、徐々にそのような状態になることを表す動詞が「状態の出現」、意志性のあるオノマトペは、「継起関係」、容姿や性格など、長期的に変化するものは、「状態の変化」を表す。

6.2.4 状態の変化（していく）

「していく」は、長期的な幅がある、未来に向かう状態の変化を表している。変化後に視点を置く場合は「てくる」、変化前に視点を置く場合は「していく」を用いる。(1a)は継続性のある主体変化動詞、(1b)は対象変化動詞、(2)は主体動作動詞と結びついている例である。

- (1) a. 年数がたつにつれて預金金額が増えていく。
b. そのようにしてお客様を増やしていった。
- (2) …今後も日記を書き続けていきたい。

BCCWJ で調べた結果、「オノマトペ+して（させて）いく」の用例は、4つある。(3)は、動作性の低いオノマトペが「していく」と結びついている例である。すべての文において、「段々」「ますます」「徐々に」といった次第に変化することを表す副詞が使用されている。

- (3) a. 魚も暴れていますが、段々とグッタリしていくようです。
b. 先の JPG 版は3回ほど保存しているので徐々に色がぼんやりとしていきました。
c. 「ミッキー、どうしたの！？」 呼んでも反応は鈍く、どんよりした目をますますどんよりさせていきます。
d. レンズの中の景色は、しだいに輪郭をはっきりさせていく。

アンケート調査の結果、適切性が比較的高かったのは、⑩「ぎくしゃく」である。それは、徐々に変化する過程が把握できるためであると考えられる。

＜アンケート調査の結果（「オノマトペ+していく」）＞

- ① 彼女がなかなか来なくて、私は、徐々にいらいらしていった。 (9)
- ② 彼女が来ないと聞いて、私は、徐々にがっかりしていった。 (8)
- ③ 傷口が、ひりひりしていった。（感じているのは「私」） (6)
- ④ 彼女（の性格）は、おっとりしていった。 (5)
- ⑤ 彼（の体）は、がっしりしていった。 (8)
- ⑥ (私の) 肌は、かさかさしていった。 (10)
- ⑦ 祖母は孫を抱いて、徐々に、にこにこしていった。 (8)
- ⑧ 彼は徐々に、うとうとしていった。 (6)
- ⑨ 私は家で、徐々にのんびりしていった。 (4)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくしていった。 (14)
- ⑪ 彼は徐々に、目をぱちぱちさせていった。 (6)

以上をまとめると、「していく」は、未来に向かう状態の変化を客観的に述べる表現であることから、オノマトペとの結びつきは弱いが、例外的に、動作性が低く、変化性のあるオノマトペと結びつく。

6.2.5 繼続

6.2.5.1 しつづける

「しつづける」は、動作の進行過程を表す。(1a)は、意志性のある動作動詞に結びついている例である。(1b)は、変化動詞と結びつき、動作の結果の継続を表す。さらに、(1c)と(1d)のように状態動詞と結びつき、状態の継続を表す。

- (1) a. 気づまりな沈黙が流れ、ショウタはポテトチップスをやたらにむしゃむしゃ食べづけた。
- b. ただ、一番手前に吊されていたスーツをたまたま手にとって、それをずっと着づけていただけだ。
- c. 大晦日から正月の二日まで、久木は珍しく家にいつづけた。
- d. 私の座右の書のひとつでありつづけています。

BCCWJによると、「オノマトペ+しつづける」の用例は、「どぎまぎ」「そわそわ」「うろうろ」の3つである。(2)は、これらのオノマトペが「しつづける」と結びついている例である。全て、継続性があり、動作性の高いオノマトペである。

- (2) a. 母は、さっさと乗り込んでいました。あなたもわたしもびっくりして、どぎまぎし
続けでした。
b. 西門慶はやしきにひき返しはしたものの『簾の女』が脳裡に定着していて、そわそ
わしつづけるばかりであった。
c. 昨日タイから帰国。今日と明日は大阪。相変わらずうろうろし続けている。

アンケート調査結果から、継続性があり、動きが感じられるものは、適切な文だと判断されたと考えられる。「しつづける」は、動きの継続を強調する形式であるため、前接する典型的な動詞は具体的な動きを表すものである。したがって、抽象的な意味が多いオノマトペは、全体的に結びつきにくいと考えられる。

<アンケート調査の結果「オノマトペ+しつづける」>

- ① 彼女がなかなか来なくて、私は、いらいらしつづけた。 (14)
- ② 彼女が来ないと聞いて、私は、がっかりしつづけた。 (8)
- ③ 傷口が、ひりひりしつづけた。 (感じているのは「私」) (13)
- ④ 彼女（の性格）は、おっとりしつづけた。 (0)
- ⑤ 彼（の体）は、がっしりしつづけた。 (0)
- ⑥ (私の) 肌は、かさかさしつづけた。 (7)
- ⑦ 祖母は孫を抱いて、にこにこしつづけた。 (13)
- ⑧ 彼は、うとうとしつづけた。 (14)
- ⑨ 私は家で、のんびりしつづけた。 (13)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくしつづけた。 (13)
- ⑪ 目にゴミが入って、彼は目をぱちぱちさせつづけた。 (12)

以上をまとめると、「しつづける」と結びつくオノマトペは、継続性のある動作性の高いものである。

6.2.5.2 しつつある

「しつつある」は、具体的な動きの進行の局面を取り立てて述べる表現である。進行中を表す「している」と比べると、途中段階が強調されている。文體的にかたい表現であり、

書き言葉的であるため、日常会話ではあまり用いられない。「食べる」「飲む」のような動作動詞とは結びつきにくく、(1a)および(1b)のように、動きが徐々に変化していることを表す動詞や、(1c)のように抽象的な変化を表す動詞と結びつきやすい。

- (1) a. 現在、また新しい技術革新が進展しつつある。
b. 2月があつと言う間に終わりつつあります。
c. その分析結果で副作用の症状が薬物別に明らかになりつつあります。

BCCWJ で「オノマトペ+しつつある」を調べた結果、結びついている例はない。アンケート調査の結果では、⑩の「ぎくしゃく」の適切性が比較的高い。⑩の文は、関係性の変化が、動きの進行段階を客観的に表現する「しつつある」で、表されている。一般的には、変化を自ら感じて、状態の変化と捉える表現である「してくる」と結びつく。

<アンケート調査の結果「オノマトペ+しつつある」>

- ① 私は、いらいらしつつある。(12)
- ② 私は、がっかりしつつある。(8)
- ③ 傷口が、ひりひりしつつある。(感じているのは「私」) (11)
- ④ 彼女（の性格）は、おっとりしつつある。(7)
- ⑤ 彼（の体）は、がっしりしつつある。(8)
- ⑥ (私の) 肌は、かさかさしつつある。(9)
- ⑦ 祖母は孫を抱いて、にこにこしつつある。(7)
- ⑧ 彼は、うとうとしつつある。(9)
- ⑨ 私は家で、のんびりしつつある。(5)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくしつつある。(16)
- ⑪ 彼は、目をぱちぱちさせつつある。(6)

「しつつある」は他の継続を表す表現と比べると、適切性が低くなっている。変化動詞である「座る」と継続を表すアスペクチュアリティーの表現が結びついた場合を比較すると、(2a)と(2b)は、椅子に座った後の状態を表せるのに対して、(2c)は、椅子に座るまでの過程を表している。すなわち、動きの局面を表す表現であるため、変化動詞や状態性の高い動詞とは結びつきにくいと考えられる。

- (2) a. 椅子に座りつづける。
b. 椅子に座っているところだ。
c. 椅子に座りつつある。

以上をまとめると、典型的には、具体的な動きの段階を取りあげる動作性の高い動詞が「しつつある」と結びつく。オノマトペは日常会話で頻繁に用いられる、どちらかと言えば、くだけた表現であることから、かたい表現である「しつつある」とは結びつきにくいと考えられる。

6.2.5.3 しているところだ

「しているところだ」は、進行中であることを場面として表す形式なので、今どのような場面なのかを説明するような文脈で用いられることが多い。(1a)は、意志性のある主体動作動詞、(1b)は、対象変化動詞、(1c)は、意志性のない主体変化動詞に接続している例である。

- (1) a. いま中国語の勉強をしているところです。
b. ETC 用のアンテナはまだ、全部の料金所に付いていません。いまはアンテナを増や
しているところです。
c. 高速道路網の整備等を反映して自家用車については年々輸送人員が増えていると
ころだ。

BCCWJ で調べた結果、オノマトペが継続を表す「しているところだ」と結びついている用例は、「うきうき」「うずうず」「にやにや」「べたべた」「(目を)ぱちぱち」「ほっ」の 6 例である。(2)は、オノマトペに「しているところだ」が結びついている例である。(2a)と(2b)は、経験者が 1 人称の感情を表すオノマトペである。(2c)と(2d)は、現在の状態、(2e)は、再帰用法で目の動きを、(2f)は、瞬間的な感情の変化結果が持続していることを表している。

- (2) a. 来月、念願のイタリア旅行にいきます。ホテルも決まり、ウキウキしているところ
です。
b. あたし出かけたくて、うずうずしているところなのよ。
c. モミジの下で、真っ赤な紅葉を見上げて、ほっとため息をついている自分を想像
して、ニヤニヤしているところ。
d. 愛人とベタベタしているところだ。
e. あさはら先生が、小さなパンツを手にとり、目をパチパチさせているところだった。
f. できていたシミが薄くなったので、ホッしているところです。

アンケート調査の結果は、性質を表す④「おっとり」⑤「がっしり」⑥「かさかさ」以外は高い数値となっている。「しているところだ」は、動きの最中を表すため、性質を表す

オノマトペとは結びつかない。⑨の「のんびりする」という動作性が低いものから、⑪の「(目を)ぱちぱちさせる」という動作性の高いものまで結びつく。

＜アンケート調査の結果「オノマトペ+しているところだ」＞

- ① 私は、いらいらしているところだ。 (19)
- ② 私は、がっかりしているところだ。 (19)
- ③ 傷口が、ひりひりしているところだ。 (感じているのは「私」) (16)
- ④ 彼女(の性格)は、おっとりしているところだ。 (3)
- ⑤ 彼(の体)は、がっしりしているところだ。 (3)
- ⑥ (私の)肌は、かさかさしているところだ。 (8)
- ⑦ 祖母は孫を抱いて、にこにこしているところだ。 (18)
- ⑧ 彼は、うとうとしているところだ。 (20)
- ⑨ 私は家で、のんびりしているところだ。 (20)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくしているところだ。 (19)
- ⑪ 彼は、目をぱちぱちさせているところだ。 (18)

以上をまとめると、「しているところだ」には、継続性があれば、動作性の低いものから高いものまで幅広く結びつく。

6.2.6 直後

6.2.6.1 したところだ

「したところだ」は、具体的な動きのすぐ後の場面を表すので、具体的な動きの成立・完了の細かい時点を問題にする場面でなければ、用いにくい。(1a)と(1b)は、変化動詞が、(1c)は動作動詞が「したところだ」と結びつき、動作が完了したことを表している。「今、ちょうど、さっき」などの副詞とともに用いられることが多い。変化を明確に示すことができる動詞が結びつくため、状態性の高いものは結びつきにくい。

- (1) a. 現在、下絵描きが終了したところです。
- b. 今アパートに着いたところだ。
- c. 今、帰ってメールを読んだところだ。

BCCWJで、「オノマトペ+したところだ」の主文末における例はない³⁴。

³⁴ 従属節においては3例ある。(「ホッとしたところだったので…」「レタスをちぎって軽く塩をし、しんなりしたところで…」「こちらも、ついむつとしたここに…」)

アンケート調査の結果を見ると、内的状態動詞は、2モーラ反復形の①「いらいら」③「ひりひり」よりもCVQCVriの②「がっかり」のほうが、適切性が高い。これは、変化動詞の場合、変化の時点を明確に表すためであると考えられる。④「おっとり」⑤「がっしり」⑥「かさかさ」のような性質を表すオノマトペは、終了点を示しにくいため、低い数値となっている。「オノマトペ+する」は、具体的な動作を表すものではないため、明確な終了点が設定しにくい。そのため、変化の時点を問題にする「したところだ」とは結びつきにくいと考えられる。

＜アンケート調査の結果「オノマトペ+したところだ」＞

- ① 私は、いらいらしたところだ。(8)
- ② 私は、がっかりしたところだ。(12)
- ③ 傷口が、ひりひりしたところだ。(感じているのは「私」)(8)
- ④ 彼女（の性格）は、おっとりしたところだ。(1)
- ⑤ 彼（の体）は、がっしりしたところだ。(4)
- ⑥ (私の) 肌は、かさかさしたところだ。(5)
- ⑦ 祖母は孫を抱いて、にこにこしたところだ。(15)
- ⑧ 彼は、うとうとしたところだ。(16)
- ⑨ 私は家で、のんびりしたところだ。(16)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくしたところだ。(13)
- ⑪ 彼は、目をぱちぱちさせたところだ。(12)

以上をまとめると、「したところだ」に前接するオノマトペは、瞬間的な変化結果が持続する、動作性が比較的高いものである。

6.2.6.2 したばかりだ

「したばかりだ」の形で、動作が完了してまだ間もないということを表す。「したところだ」が動作の完了時点を問題にするのに対して、「したばかりだ」は完了時点から発話時点まで、若干幅があっても可能な表現である。BCCWJの例文を観察した結果、具体的な動きを表す動詞が前接している。

(1a)と(1b)のように、比較的近い過去のことに対して使用される。ただし、(1c)のように、話者があまり時間が経っていないと捉えていることであれば、かなり前のことに対しても使用される。(1a)は意志性のある動作動詞である。(1b)の「使える」は可能動詞であり、シテイル形にならない状態動詞である。(1c)は、主体変化自動詞で、意志性はない。

- (1) a. 私のお勧めは、イカの入ったハンバーグ。昨日食べたばかりだ。
b. キャッシュカードの暗証番号を忘れてカードが使えなくなったばかりだ。
c. 第二言語習得研究は 20 世紀半ば過ぎに始まったばかりです。

BCCWJ で調べた結果、オノマトペが「したばかりだ」と結びついている例はない。アンケートの調査の結果から、どのオノマトペも「したばかりだ」との適切性が高いとは言えない。

<アンケート調査の結果「オノマトペ+したばかりだ」>

- ① 私は、いらいらしたばかりだ。(10)
- ② 私は、がっかりしたばかりだ。(11)
- ③ 傷口が、ひりひりしたばかりだ。(感じているのは「私」) (7)
- ④ 彼女（の性格）は、おっとりしたばかりだ。(1)
- ⑤ 彼（の体）は、がっしりしたばかりだ。(1)
- ⑥ (私の) 肌は、かさかさしたばかりだ。(6)
- ⑦ 祖母は孫を抱いて、にこにこしたばかりだ。(8)
- ⑧ 彼は、うとうとしたばかりだ。(9)
- ⑨ 私は家で、のんびりしたばかりだ。(12)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくしたばかりだ。(7)
- ⑪ 彼は、目をぱちぱちさせたばかりだ。(4)

以上をまとめると、「したばかりだ」に前接する動詞の条件は、終結点が明らかで、具体的な動きを表すものである。

6.2.7 終了（しおわる）

「しおわる」は、動きの終結段階を表す。終結段階が存在するのは時間的な幅のある動きなので、「しおわる」の前にくる動詞は、(1)のように継続期間をもつ動きを表すものに限られる。また、明確な終結点が取り上げられる動詞と結びつく。

- (1) a. 先日、図書館で借りてきた 3 冊の本を読み終わりました。
b. 今日は寝坊してさっき朝ごはんを食べ終わりました。
c. 年賀状は書き終わりましたか？

BCCWJ で調べた結果、「オノマトペ+しおわる³⁵」の例はない。アンケート調査の結果では、「オノマトペ+しおわる」の文を読んで、「あまり言わないが、言えなくはない」と答えた人が数人いるが、「違和感がない」と答えた人はいない。

＜アンケート調査の結果「オノマトペ+しおわる」＞

- ① 私は、いらいらしおわった。(3)
- ② 私は、がっかりしおわった。(0)
- ③ 傷口が、ひりひりしおわった。(感じているのは「私」)(1)
- ④ 彼女（の性格）は、おっとりしおわった。(0)
- ⑤ 彼（の体）は、がっしりしおわった。(0)
- ⑥ (私の) 肌は、かさかさしおわった。(1)
- ⑦ 祖母は孫を抱いて、にこにこしおわった。(0)
- ⑧ 彼は、うとうとしおわった。(3)
- ⑨ 私は家で、のんびりしおわった。(2)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくしおわった。(1)
- ⑪ 彼は、目をぱちぱちさせおわった。(1)

以上をまとめると、「オノマトペ+する」は、具体的な動きの段階を持つ動詞ではなく、終了点が設定しにくいため、「しおわる」とは結びつきにくいと言える。

6.2.8 完遂・完了

6.2.8.1 してしまう

「してしまう」は、動作の過程が完了することを表す。(1)のように「全部」「最後まで」「終わりまで」のような、完遂を意味する副詞的成分が共起することも多い。

- (1) a. あまりにうまいので、全部平らげてしまった。
- b. 昨夜の野球（JAPAN-USA）最後までみてしました。

「してしまう」は、(2)のように望ましくないというニュアンスや予想外であるというニュアンスを伴うことがある。

³⁵ 「し終わる」も含む。

- (2) a. 子供が間違えて温泉玉子を冷凍庫に入れてしまいました。
b. 魚1匹釣れず、それどころか大事な釣り針を海中に落としてしまった。

「してしまう」は、動作動詞だけでなく、(3)のように、状態動詞の「いる」とも結びつく。

- (3) 夢中で本を読んでいて、3時間も喫茶店にいってしまった。(作例)

BCCWJ で、「オノマトペ+してしまう³⁶」を調べたところ、139 の用例があった。

＜感情・感覚＞

いらいら、びっくり、わくわく、どきどき、がっかり、げんなり、もやもや、がっくり
どきっ、(胸が)きゅん、ぞっ、ぞぞっ、ほっ、かつ、むっ、ひりひり、ひやひや
くさくさ

＜動き・状態＞

びくびく、おろおろ、うきうき、るんるん、くよくよ、しゅん、ぐったり、ぐずぐず
ごろごろ、のんびり、ふらふら、じたばた、べたべた、にっこり、にんまり、にやにや
にやり、にやつ、ぎよつ、むすつ、びくっ、ぼーつ、ぽかん、きょとん、ぼんやり
うつとり、すんなり、うっかり、(顔を)ぐりぐり、ぼちっ、しーん、しん、ぎくしゃく
(目が)きらつ

BCCWJ での調査結果では、「感情・感覚」、「動き・状態」を表すオノマトペが「してしまう」と結びついている。否定的な意味のオノマトペが多いが、中には、「わくわく」「うきうき」「るんるん」「にっこり」のようなプラスのイメージの言葉も含まれている。このようなオノマトペも、話者が意図しないのに、そのような状態になってしまったと感じている場合には、使用される。「どきっとする」「かつと/orする」は瞬間的な心情の変化であり、通常、「している」とは結びつかない。このようなオノマトペも「してしまう」と結びつくことから、「してしまう」には、継続性のある動きだけではなく、瞬間的な動きを表す動詞も前接すると言える。

(4) は、感情を表すオノマトペが「してしまう」と共起している例である。このような場合、完了というよりは、そういった感情を抱きたくないのに、抱いてしまったというニュアンスになる。

³⁶ 「しちゃう」も含む。

- (4) a. ほんの些細なことなんだけど、無性にイライラしてしまった。
b. 写真では綺麗でしたが行ってみたらかなり古い感じでがっかりしてしまいました。
c. マヨネーズで食べるひやしうどんがあると聞いて、吉沢は、げんなりしてしまった。
d. あれ、又笛かえ。笛々とほんとにくさくさしてしまう。
e. 髪の形が思うようにいかない日は、一日中、気分がムシャクシャしてしまう。
f. 手ではきれいに切れないし、ハサミで切るとハサミに粘着質がついてベタベタしてしまいます。

(5)は、動きや状態を表すオノマトペが「してしまう」と結びついている例である。

- (5) a. 別の出口を見つけられずに、うろちょろしてしまったので…。
b. 今日は若干うだうだしてしまった。
c. 極度の照れ屋で、すぐ、いつもの自分を見失って、へらへらしてしまう。
d. レンジャー読んで、嬉しくて、うるうるしちゃいました。

(6)は、再帰用法である。対象である人の気持ちを意図せずに変化させるという意味で使用されている。

- (6) a. 思いがけずこれが第一卓をびっくりさせてしまった。
b. 彼にはまだ言ってないのだけれど、やっぱりがっかりさせてしまうでしょうか？

アンケート調査の結果、③「ひりひり」と④「おっとり」の適切性が低いことがわかつた。感情・感覚表現である①「いらいら」と②「がっかり」が適切性が高いのに対し、③「ひりひり」が適切性が低い理由は、痛みは自分ではコントロールできないため、失敗したというニュアンスを持つ「してしまう」とは結びつきにくいためであると考えられる。⑤「ぽっちゃり」と⑥「かさかさ」の適切性は、やや低くなっている。性格や容姿といった属性を表す「オノマトペ+する」は、何らかの動きを表しているわけではなく、文末においてはシテイル形で形容詞的に使用される。したがって、⑤「ぽっちゃり」ではなく、「太る」という変化動詞が「してしまう」と結びつく(7a)の例や、⑥「かさかさ」であれば、(7b)のように、「になる」と結びつき、変化結果の状態を表す用法が自然である。すなわち、性質を表すオノマトペは、それ自体が変化を表す表現とは結びつきにくい。

- (7) a. 妊娠前より5キロも太ってしまいました。
b. 顔もかさかさになってしまいます。

以上から、④から⑥のように性質を表すオノマトペは、「してしまう」とは結びつきにくい。

＜アンケート調査の結果「オノマトペ+してしまう」＞

- ① 彼女がなかなか来なくて、私は、いらいらしてしまった。(19)
- ② 彼女が来ないと聞いて、私は、がっかりしてしまった。(19)
- ③ 傷口が、ひりひりしてしまった。(感じているのは「私」)(6)
- ④ 彼女（の性格）は、おっとりしてしまった。(4)
- ⑤ 彼女は、運動をやめたので、ぽっちやりしてしまった。(14)
- ⑥ (私の) 肌は、かさかさしてしまった。(13)
- ⑦ 私は、子供の写真を見て、にやにやしてしまった。(19)
- ⑧ 私は、授業中、うとうとしてしまった。(20)
- ⑨ 明日試験なのに、家で、のんびりしてしまった。(20)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくしてしまった。(19)
- ⑪ (私の) 子供が電車の中で、足をぶらぶらさせてしまった。(15)

以上をまとめると、「してしまう」とは、継続性の有無に関わりなく、動作性の高いものも状態性の高いものも結びつくが、性質を表すものは、結びつきにくい。「本を読んでしまった」「全部食べてしまった」のような完遂の意味ではなく、否定的なニュアンスを伴った完了を表す。

6.2.8.2 してある

シテイル形以外の「動作の結果」を表す形式に「してある」がある。「してある」は多くの場合、他動詞と一緒に使われる。ある動作が完了してその状態が残存しているという点では、シテイル形と同じであるが、シテイル形には、「動きの進行中」や「動作の結果」といった様々な意味があるのに対し、「してある」は、「動作の完了した状態の残存」に限られる。また、シテイル形は、ある出来事が自然に起こったように表現するのに対し、「してある」は、動作主が意図的に行った行為であることを表し、動作主は顕示されないが、動作主の存在は含意されている。(1)は、眼前の現象を描写する文(現象描写文)で、動作主は話者も含めてその人称は限定されていない。

- (1) 電気がつけてある。

「してある」には、話者が意図的に行行為を行い、その効果が今も残っているという意味を表す用法がある。(2)は、試験のために、たくさん勉強をし、その効果が今も持続していることを表している。この場合は現象描写ではなく、行為効果の持続であり、動作主は時に顕示されることがある。

(2) 試験の勉強は、十分にしてあります。

BCCWJ で調べた結果、「オノマトペ+してある」の例はない。アンケート調査の結果では、1名のみが、いくつかの用例に対して、「違和感を覚えない」あるいは「あまり言わないが、言えなくはない」と答えた。このアンケートの対象者は、さまざまな地域に住んだことがあり、多くの方言に触れたという理由から、多様な表現を受け入れやすいとみられる。

＜アンケートの調査結果「オノマトペ+してある」＞

- ① いらいらしてある。(感じているのは「私」) (0)
- ② がっかりしてある。(感じているのは「私」) (0)
- ③ 傷口が、ひりひりしてある。(感じているのは「私」) (0)
- ④ 彼女（の性格）は、おっとりしてある。(1)
- ⑤ 彼（の体）は、がっしりしてある。(2)
- ⑥ (私の) 肌は、かさかさしてある。(0)
- ⑦ 上司に、にこにこしてある。(動作をしているのは「私」) (0)
- ⑧ うとうとしてある。(動作をしているのは「私」) (0)
- ⑨ 家で、のんびりしてある。(動作をしているのは「私」) (0)
- ⑩ 夫婦の間が、ぎくしゃくしてある。(0)
- ⑪ 目をぱちぱちさせてある。(動作をしているのは「彼」) (0)

「してある」は、意図性が含意され、その行為に有用性があるというニュアンスになる。「オノマトペ+する」は基本的に自動詞であり、意図性があるものは限られていることから、この形式とは結びつきにくいと考えられる。

6.3 まとめ

「オノマトペ+する」と、アスペクチュアリティの表現形式との結びつきを BCCWJ とアンケート調査の結果を踏まえて分析した。その結果をまとめると、アスペクチュアリティの表現形式に前接する「オノマトペ+する」の条件は、表 6.3 のようになる。たとえば、「するところだ」には、継続性と意志性があり、動作性が高い「(街を)ぶらぶら」のよ

うなオノマトペが結びつきやすく、「はじめる」には、動作性が中程度以上で、継続性のある「いらいら」「うとうと」のようなオノマトペが結びつきやすい。

表 6.3 アスペクチュアリティーの表現形式に前接する「オノマトペ+する」の条件

アスペクチュアリティーの表現形式 ³⁷	例	前接する「オノマトペ+する」の条件
するところだ	(街を) ぶらぶら	{動作性 (高)、 +意志性}
しようとする	はつきり (させる) しつかり	{動作性 (高)、 +意志性}
はじめる	いらいら、 うとうと	{+継続性、 動作性 (中・高)}
しだす	うとうと、 ぎくしゃく	{+継続性、 動作性 (中・高)}
てくる (状態の出現)	くさくさ、 きらきら ごたごた、 ざわざわ	{+継続性、 動作性 (中)}
てくる (状態の変化) 変化後に視点を置く場合	ぱっちやり (ウエストが) すつきり	{+継続性、 -動作性} 長期的に変化するもの。
していく (状態の変化) 変化前に視点を置く場合	ぐったり、 ぼんやり どんより	{+継続性、 -動作性} 長期的に変化するもの。
しつづける	どぎまぎ、 そわそわ	{+継続性、 動作性 (高)} 具体的な動きを表すもの。
しつつある	なし	なし
しているところだ	ほつ、 うきうき (目を) ぱちぱちさせる	{+ (変化結果の) 継続性、 動作性 (低~高)}
したところだ	びっくり、 ほつ	{+ 変化結果の継続性、 動作性 (中)}
したばかりだ	なし	なし
しおわる	なし	なし
してしまう	どきどき、 にやにや どきつ、 ぎくしゃく	{±継続性、 動作性 (低~高)}
してある	なし	なし

終章では、オノマトペの語彙的意味とアスペクチュアリティーの表現形式に前接する「オノマトペ+する」の条件に整合性があるかどうかを示す。

³⁷ 表中の「する」「し」は、「させる」「させ」も含む。

終 章

結 論

本研究においては、以下の 2 つの点を明らかにすることを目的として、論を進めてきた。

- I どのような特徴を持った日本語のオノマトペが機能動詞「する」と結びつきやすいかを明らかにする。
- II 「オノマトペ+する」の主文末における語彙的アスペクト性を体系的に示す。

本章では、それぞれの結論を簡潔に記す。

7.1 「する」と結びつきやすいオノマトペ

「する」と結びつきやすいオノマトペは、表 7.1 のように、大きく「感情・感覚表現」「動き・状態」「『させる』と結びつくもの」「性質」に分けられる。「感情・感覚表現」は、「感じる」「痛む」といった一般語彙の動詞よりは、「する」との結びつきが強い。スル形あるいはシタ形で、直接的な感情・感覚表出表現が可能である。感情・感覚表現のオノマトペの数は非常に多く、意味が細分化されていることから、感情や痛みなどの感覚を直接的に、また、的確に伝える重要な手段となっている。「動き・状態」を表すものは、動作性に傾いているものから状態性に傾いているものまで幅がある。さらに、それぞれが継続性と意志性の有無によって細分化される。動作性に傾いているものは、動きを表す動詞として、状態性に傾いているものは、人の様子や状態を表す形容詞に近いものとなる。オノマトペが「させる」と結びついた場合、対象である身体の一部や所有物を動かす再帰用法と、対象である人の感情などに働きかける他動詞的な用法がある。再帰用法は、オノマトペに「させる」が結びつき、具体的にどのように動かすかを表す動詞として使用されている。他動詞的な用法では、「がっかりさせる」「ほっとさせる」が、それぞれ「落胆させる」「安心させる」に相当するような動詞として使用されている。「性質」を表すオノマトペは、「する」との結びつきが強く、名詞修飾ではシタ形で名詞を修飾し、文末ではシテイル形となり、形容詞的な役割を果たしている。

以上のとおり、「オノマトペ+する」は、具体的な動きを表す典型的な動き動詞と、「ある」「いる」などの典型的な状態動詞の中間に位置する。数が非常に多く、意味が細分化されており、一般語彙の動詞や形容詞を補完するものであると言える。

表 7.1 「する」と結びつきやすいオノマトペ

意味カテゴリ	例
感情・感覚表現	いらいら、どきどき、がっかり、すっきり、わくわく、うんざり くらくら、ぴりぴり、むかむか、ひやひや、ひりひり、むずむず
動き・状態	まごまご、よろよろ、びくびく、そわそわ、いそいそ うろうろ、ぶらぶら、ごろごろ、ゆっくり、のんびり むかっ、ずきっ、くらっ、びくっ、よろっ、にこっ、にやっ うとうと、にこにこ、にやにや、ごたごた、ぎくしゃく
「させる」と結びつくもの	はつきり、すっきり、がっかり、いらいら、どきどき、はらはら ぱちくり、ぱちぱち、ひらひら、ぱくぱく、ぶらぶら、ひくひく
性質	さばさば、おっとり、しっかり、はきはき、ねちねち がっしり、がっちり、ふっくら、ほっそり、ころころ あっさり、こってり、こりこり、ぷりぷり、もちもち ぬるぬる、ねばねば、べたべた、べつとり、かさかさ

7.2 「オノマトペ+する」の主文末における語彙的アスペクト性

「オノマトペ+する」を語彙的意味の違いから、11のカテゴリに分け、形態論的アスペクトと語彙的アスペクトについて論じた。その結論として、語彙的意味ごとに形態論的アスペクトと語彙的アスペクトを表7.2から表7.12にまとめた。

語彙的意味は、{直接感覚、(変化結果)の継続性、意志性}を「+」か「-」で、{動作性}は「低・中・高」のいずれかを記した。形態論的アスペクトは、オノマトペに「する、している、した、していた」が結びついたときのテンス(過去、現在、未来)、動作性(動き、状態)、アスペクト(完了、継続、変化結果の継続)、恒常的表現、結びつかない場合は「-」を記した。

語彙的意味に関しては、アスペクチュアリティの表現が前接する「オノマトペ+する」に求める条件を「(変化結果)の継続性」と「意志性」に関しては「+」か「-」で、「動作性」に関しては、「低・中・高」で記した。また、それ以外の条件がある場合は、その条件を記した。語彙的意味に含まれている素性の一つである「直接感覚」は、時間的局面を表す表現の結びつきには直接関わりがないため、条件を構成する素性には含めていない。「オノマトペ+する」の語彙的意味とアスペクチュアリティの表現が前接する動詞に求める条件に整合性があれば、その表現は可能ということで「○」、整合性がなければ「×」をした。「継続性」「意志性」「動作性」に整合性はあるが、それ以外の条件を満たしていない場合は「△」をした。

以下に、語彙的意味ごとに主文末における語彙的アスペクト性をまとめた表(表7.2から表7.12)を示す。

7.2.1 感情・感覚表現

7.2.1.1 繼続性のあるもの

継続性のある感情・感覚を表すオノマトペは、「動きの開始」を表す「しはじめる」「しだす」と結びつく。また、感情が発生することを表す「してくる」とも結びつく。このカテゴリのオノマトペは、動作性が中程度であるため、静的状態からの変化を「動きの変化」と「状態の出現」の両方の表現で表せる。客観的に表現される場合は「しはじめる」と、一人称の直接的な感情・感覚の出現の場合は「してくる」と結びつく。

表 7.2 感情・感覚表現(継続性があるもの)

音韻形態		2 モーラ反復形	
例		いらいら、わくわく、ひりひり、ずきずき、べたべた	
語彙的意味		+直接感覚、+継続性、動作性(中)、-意志性	
形態論的アスペクト	スル	現在の状態の継続(直接的な感情・感覚表出表現)	
	シティル	現在の動き・状態の継続	
	シタ	過去の動き・状態の完了	
	シティタ	過去の動き・状態の継続	
語彙的アスペクト	するところだ	{動作性(高)、+意志性}	×
	しようとする	{動作性(高)、+意志性}	×
	しはじめる	{+継続性、動作性(中・高)}	○
	しだす	{+継続性、動作性(中・高)}	○
	してくる(状態の出現)	{+継続性、動作性(中)} 変化性があるもの。	○
	してくる(状態の変化) 変化後に視点を置く場合	{+継続性、-動作性} 長期的に変化するもの。	×
	していく(状態の変化) 変化前に視点を置く場合	{+継続性、-動作性} 変化性があるもの。	×
	しつづける	{+継続性、動作性(高)} 具体的な動きを表すもの。	×
	しつつある	なし	×
	しているところだ	{+ (変化結果の) 継続性、動作性(低~高)}	○

	したところだ	{+変化結果の継続性、動作性（中）}	×
	したばかりだ	なし	×
	しあわる	なし	×
	してしまう	{±継続性、動作性（低～高）}	○
	してある	なし	×

7.2.1.2 変化結果の継続性があるもの

変化結果の継続性のある感情・感覚を表すオノマトペの特徴は、語中か語末に促音がつことで、瞬間的な感情・感覚の変化を表すことである。「びっくり」「がっかり」「すっきり」などは、シタ形で現在の感情の表出表現となり、シティル形と結びつき、瞬間的な感情の変化を表すため、継続性が求められる表現形式とは結びつかない。ただし、瞬間的な感情の変化結果の継続を表せる「しているところだ」と結びつく。また、瞬間的な変化は、動きの終了点を表すため、直後を表す「したところだ」とも結びつきやすい。

表 7.3 感情・感覚表現（変化結果の継続性があるもの）

	音韻形態	CVQCVri, CVQ
	例	びっくり、がっかり、すっきり、ほつ
	語彙的意味	+直接感覚、+変化結果の継続性、動作性（中） -意志性
形態論的アスペクト	スル	恒常的表現
	シティル	現在の変化結果の継続
	シタ	変化結果の継続（直接的な感情・感覚表出表現）
	シティタ	過去の変化結果の継続
語彙的アスペクト	するところだ	{動作性（高）、+意志性}
	しようとする	{動作性（高）、+意志性}
	しあわる	{+継続性、動作性（中・高）}
	しだす	{+継続性、動作性（中・高）}
	してくる（状態の出現）	{+継続性、動作性（中）} 変化性があるもの。

	てくる (状態の変化) 変化後に視点を置く場合	{+継続性、-動作性} 長期的に変化するもの。	×
	していく (状態の変化) 変化前に視点を置く場合	{+継続性、-動作性} 変化性があるもの。	×
	しつづける	{+継続性、動作性 (高)} 具体的な動きを表すもの。	×
	しつつある	なし	×
	しているところだ	{+ (変化結果の) 継続性、動作性 (低～高)}	○
	したところだ	{+変化結果の継続性、動作性 (中)}	○
	したばかりだ	なし	×
	しおわる	なし	×
	してしまう	{±継続性、動作性 (低～高)}	○
	してある	なし	×

7.2.1.3 継続性がないもの

継続性がない瞬間的な内的状態の変化を表すオノマトペは、意志性と継続性がないことから、結びつく表現形式が「してしまう」に限定されている。

表 7.4 感情・感覚表現 (継続性がないもの)

音韻形態	CVCVQ、CVQ		
例	いらっしゃる、むかつく、ずきつ、くらつ、ふらつ ちくつ、かつ		
語彙的意味	-直接感覚、-継続性、動作性 (高)、-意志性		
形態論的アスペクト	スル	恒常的表現	
	シテイル	-	
	シタ	過去の動きの完了	
	シティタ	-	
	するところだ	{動作性 (高)、+意志性}	×
	しようとする	{動作性 (高)、+意志性}	×

語彙的アスペクト	しはじめる	{+継続性、動作性（中・高）}	×
	しだす	{+継続性、動作性（中・高）}	×
	してくる（状態の出現）	{+継続性、動作性（中）} 変化性があるもの。	×
	してくる（状態の変化） 変化後に視点を置く場合	{+継続性、-動作性} 長期的に変化するもの。	×
	していく（状態の変化） 変化前に視点を置く場合	{+継続性、-動作性} 変化性があるもの。	×
	しつづける	{+継続性、動作性（高）} 具体的な動きを表すもの。	×
	しつつある	なし	×
	しているところだ	{+（変化結果の）継続性、動作性（低～高）}	×
	したところだ	{+変化結果の継続性、動作性（中）}	×
	したばかりだ	なし	×
	しおわる	なし	×
	してしまう	{±継続性、動作性（低～高）}	○
	してある	なし	×

7.2.2 動き・状態

7.2.2.1 動作性が高いもの（意志性があるもの）

「ぶらぶらする」「うろうろする」「うろちょろする」は、動作性が高く、意志性があることから、スルとシテイルの対立がある。動きの直前を表す「するところだ」「しようとする」や開始の局面である「しはじめる」「しだす」とも結びつく。具体的な動きを表す動詞が前接する「しつづける」との結びつきは、一般的であるとは言えない。

表 7.5 動作性が高いもの（意志性があるもの）

音韻形態	2モーラ反復形
例	ぶらぶら、うろうろ、うろちょろ
語彙的意味	一直接感覚、+継続性、動作性（高）、+意志性

形態論的アスペクト	スル	未来の動き	
	シテイル	現在の動き・状態の継続	
	シタ	過去の動き・状態の完了	
	シティタ	過去の動き・状態の継続	
語彙的アスペクト	するところだ	{動作性（高）、+意志性}	○
	しようとする	{動作性（高）、+意志性}	○
	はじめる	{+継続性、動作性（中・高）}	○
	しだす	{+継続性、動作性（中・高）}	○
	てくる（状態の出現）	{+継続性、動作性（中）}	×
	てくる（状態の変化）	{+継続性、-動作性}	×
	変化後に視点を置く場合	長期的に変化するもの。	
	していく（状態の変化）	{+継続性、-動作性}	×
	変化前に視点を置く場合	長期的に変化するもの。	
	しつづける	{+継続性、動作性（高）} 具体的な動きを表すもの。	△
	しつつある	なし	×
	しているところだ	{+（変化結果の）継続性、動作性（低～高）}	○
	したところだ	{+変化結果の継続性、動作性（中）}	×
	したばかりだ	なし	×
	しおわる	なし	×
	してしまう	{±継続性、動作性（低～高）}	○
	してある	なし	×

7.2.2.2 動作性が高いもの（意志性が関わらないもの）

このカテゴリーのオノマトペは、慌てる様子や落ち着かない様子を表すものが多く、動作性が高い。すべて、一般語彙を修飾する用法よりも、「する」との結びつきが強い。文に組み込まれた際は、動作性が高いものであることから、開始を表すアスペクト表現の他、「しつづける」

との結びつきも不自然ではない。スルとシテイルのアスペクト対立がないこと、終了や完了を表さないことから、典型的な動作動詞とは言えない。

表 7.6 動作性が高いもの（意志性が関わらないもの）

音韻形態		2モーラ反復形、2モーラ反復形の変種
例		よろよろ、きょろきょろ、あたふた、どぎまぎ
語彙的意味		一直接感覚、+継続性、動作性（高）
形態論的アスペクト	スル	恒常的表現
	シテイル	現在の動き・状態の継続
	シタ	過去の動き・状態の完了
	シティタ	過去の動き・状態の継続
語彙的アスペクト	するところだ	{動作性（高）、+意志性}
	しようとする	{動作性（高）、+意志性}
	はじめる	{+継続性、動作性（中・高）}
	だす	{+継続性、動作性（中・高）}
	てくる（状態の出現）	{+継続性、動作性（中）}
	てくる（状態の変化）	{+継続性、-動作性}
	変化後に視点を置く場合	長期的に変化するもの。
	していく（状態の変化）	{+継続性、-動作性}
	変化前に視点を置く場合	長期的に変化するもの。
	しつづける	{+継続性、動作性（高）} 具体的な動きを表すもの。
	しつつある	なし
	しているところだ	{+（変化結果の）継続性、動作性（低～高）}
	したところだ	{+変化結果の継続性、動作性（中）}
	したばかりだ	なし
	しおわる	なし
	してしまう	{±継続性、動作性（低～高）}

	してある	なし	×
--	------	----	---

7.2.2.3 動作性が中程度のもの

動作性が高いオノマトペとの違いは、動作性が中程度のものは、状態の出現を表す「してくる」が結びつくことである。

表 7.7 動作性が中程度のもの

	音韻形態	2 モーラ反復形、2 モーラ反復形の変種	
	例	にこにこ、きらきら、ざわざわ、ぎくしゃく	
	語彙的意味	一直接感覚、+継続性、動作性(中)、-意志性	
形態論的アスペクト	スル	恒常的表現	
	シテイル	現在の動き・状態の継続	
	シタ	過去の動き・状態の完了	
	シティタ	過去の動き・状態の継続	
	するところだ	{動作性(高)、+意志性}	×
	しようとする	{動作性(高)、+意志性}	×
	はじめる	{+継続性、動作性(中・高)}	○
	だす	{+継続性、動作性(中・高)}	○
	てくる(状態の出現)	{+継続性、動作性(中)}	○
	てくる(状態の変化)	{+継続性、-動作性}	×
語彙的アスペクト	変化後に視点を置く場合	長期的に変化するもの。	
	していく(状態の変化)	{+継続性、-動作性}	×
	変化前に視点を置く場合	長期的に変化するもの。	
	しつづける	{+継続性、動作性(高)}	×
		具体的な動きを表すもの。	
	しつつある	なし	×
	しているところだ	{+(変化結果の)継続性、動作性(低～高)}	○
	したところだ	{+変化結果の継続性、動作性(中)}	×
	したばかりだ	なし	×

	しおわる	なし	×
	してしまう	{土継続性、動作性（低～高）}	○
	してある	なし	×

7.2.2.4 動作性が低いもの（意志性があるもの）

「ごろごろ」「のんびり」「ゆっくり」は、意志性があり、スル形で未来の動きや状態を表す。スル形とシティル形の対立はあるが、動きを具体的に表す意味ではない。したがって、動作性が低い動詞の接続も許容される限られたアスペクチュアリティーの表現形式としか結びつかない。

表 7.8 動作性が低いもの（意志性があるもの）

	音韻形態	2モーラ反復形、CVNCVri、CVQCVri	
	例	ごろごろ、のんびり、ゆっくり	
	語彙的意味	－直接感覚、+継続性、動作性（低）、+意志性	
形態論的アスペクト	スル	未来の状態	
	シティル	現在の状態	
	シタ	過去の状態の完了	
	シティタ	過去の状態	
語彙的アスペクト	するところだ	{動作性（高）、+意志性}	×
	しようとする	{動作性（高）、+意志性}	×
	はじめる	{+継続性、動作性（中・高）}	×
	しだす	{+継続性、動作性（中・高）}	×
	てくる（状態の出現）	{+継続性、動作性（中）}	×
	てくる（状態の変化）	{+継続性、－動作性}	×
	変化後に視点を置く場合	長期的に変化するもの。	
	していく（状態の変化）	{+継続性、－動作性}	×
	変化前に視点を置く場合	長期的に変化するもの。	
	しつづける	{+継続性、動作性（高）} 具体的な動きを表すもの。	×

	しつつある	なし	×
	しているところだ	{+ (変化結果の) 繼続性、動作性 (低～高)}	○
	したところだ	{+変化結果の継続性、動作性 (中)}	×
	したばかりだ	なし	×
	しおわる	なし	×
	してしまう	{±継続性、動作性 (低～高)}	○
	してある	なし	×

7.2.2.5 動作性が低いもの(意志性がないもの)

動作性が低いものは、シティル形で使用されている用例が多い。属性ではないため、性質ではないが、動作性は低く、状態を表している。変化もしにくいため、状態の出現を表す「てくる」とも結びつきにくく。

表 7.9 動作性が低いもの(意志性がないもの)

	音韻形態	2 モーラ反復形、CVQCVri	
	例	めそめそ、くよくよ、ぐったり、ぼんやり	
	語彙的意味	－直接感覚、+継続性、動作性 (低)、－意志性	
形態論的アスペクト	スル	恒常的表現	
	シティル	現在の状態	
	シタ	過去の状態の完了	
	シティタ	過去の状態	
語彙的アスペクト	するところだ	{動作性 (高)、+意志性}	×
	しようとする	{動作性 (高)、+意志性}	×
	はじめる	{+継続性、動作性 (中・高)}	×
	だす	{+継続性、動作性 (中・高)}	×
	てくる (状態の出現)	{+継続性、動作性 (中)}	×
	てくる (状態の変化)	{+継続性、-動作性}	×
	変化後に視点を置く場合	長期的に変化するもの。	

していく (状態の変化) 変化前に視点を置く場合	{+継続性、-動作性} 長期的に変化するもの。	△
しつづける	{+継続性、動作性 (高)} 具体的な動きを表すもの。	×
しつつある	なし	×
しているところだ	{+ (変化結果の) 継続性、動作性 (低～高)}	○
したところだ	{+変化結果の継続性、動作性 (中)}	×
したばかりだ	なし	×
しおわる	なし	×
してしまう	{±継続性、動作性 (低～高)}	○
してある	なし	×

7.2.3 「させる」と結びつくもの

7.2.3.1 再帰用法

主体が自身の体の一部分を動かす再帰用法である。オノマトペと「させる」が結びつき、身体部分をどのように動かすかが具体的に表されている。

表 7.10 再帰用法

音韻形態	2モーラ反復形、2モーラ反復形の変種	
例	(足を) ばたばた、(手を) ひらひら、(口を) ばくばく (目を) ぱちぱち、(目を) ぱちくり	
語彙的意味	-直接感覚、+継続性、動作性 (高)、+意志性	
形態論的アスペクト	サセル	恒常的表現
	サセティル	現在の動きの継続
	シタ	過去の動きの完了
	サセティタ	過去の動きの継続
	させるところだ	{動作性 (高)、+意志性} ×
	させようとする	{動作性 (高)、+意志性} △
	させはじめる	{+継続性、動作性 (中・高)} △

語彙的アスペクト	させだす	{+継続性、動作性(中・高)}	×
	させてくる(状態の出現)	{+継続性、動作性(中)}	×
	させてくる(状態の変化) 変化後に視点を置く場合	{+継続性、-動作性} 長期的に変化するもの。	×
	させていく(状態の変化) 変化前に視点を置く場合	{+継続性、-動作性} 長期的に変化するもの。	×
	させつづける	{+継続性、動作性(高)} 具体的な動きを表すもの。	△
	させつつある	なし	×
	させているところだ	{+ (変化結果の)継続性、動作性(低～高)}	○
	させたところだ	{+変化結果の継続性、動作性(中)}	×
	させたばかりだ	なし	×
	させおわる	なし	×
	させてしまう	{±継続性、動作性(低～高)}	○
	させてある	なし	×

7.2.3.2 他動詞的な用法

人の感情に働きかけるような他動詞的な用法で、意志性はあるものとないものがある。「がっかりさせる」「びっくりさせる」が、それぞれ「落胆させる」「驚かす」などに相当するような動詞となっている。用例がシタ形や使役受身形などに限定されているため、アスペクチュアリティーの表現形式との結びつきは弱い。

表 7.11 他動詞的な用法

音韻形態	2モーラ反復形、CVQCVri、CVNCVri	
例	いらいら、どきどき、がっかり、さっぱり、はつきり びっくり、しんなり	
語彙的意味	-直接感覚、+変化結果の継続性、動作性(高)、 ±意志性	
形態論的	サセル	恒常的表現
	サセティル	現在の動きの継続

アスベクト	シタ	過去の動きの完了	
	サセティタ	過去の動きの継続	
語彙的アスベクト	させるところだ	{動作性（高）、+意志性}	×
	させようとする	{動作性（高）、+意志性}	△
	させはじめる	{+継続性、動作性（中・高）}	×
	させだす	{+継続性、動作性（中・高）}	×
	させてくる（状態の出現）	{+継続性、動作性（中）}	×
	させてくる（状態の変化） 変化後に視点を置く場合	{+継続性、-動作性} 長期的に変化するもの。	×
	させていく（状態の変化） 変化前に視点を置く場合	{+継続性、-動作性} 長期的に変化するもの。	×
	させつづける	{+継続性、動作性（高）} 具体的な動きを表すもの。	×
	させつつある	なし	×
	させているところだ	{+（変化結果の）継続性、動作性（低～高）}	×
	させたところだ	{+変化結果の継続性、動作性（中）}	×
	させたばかりだ	なし	×
	させおわる	なし	×
	させてしまう	{±継続性、動作性（低～高）}	○
	させてある	なし	×

7.2.4 性質

性格、容姿、味などの属性を表すもので、通常は変化しないが、容姿や性格など、長期的に変化する場合は、「てくる」と結びつく。用例としては、シタ形で名詞を修飾する用法と、文末ではシティル形になる用法が多い。これらは、動詞の形ではあるが、形容詞に近いものとなっている。

表 7.12 性質

音韻形態	2 モーラ反復形、CVQCVri、CVCVQ
------	------------------------

例		さばさば、ねばねば、おっとり、がっしり、あっさり、とろつ、さらつ	
語彙的意味		－直接感覚、－継続性、－動作性、－意志性	
形態論的アспект	スル	恒常的表現	
	シテイル	現在の状態	
	シタ	－	
	シティタ	過去の状態	
語彙的アспект	するところだ	{動作性（高）、+意志性}	×
	しようとする	{動作性（高）、+意志性}	×
	はじめる	{+継続性、動作性（中・高）}	×
	しだす	{+継続性、動作性（中・高）}	×
	てくる（状態の出現）	{+継続性、動作性（中）}	×
	てくる（状態の変化） 変化後に視点を置く場合	{+継続性、－動作性} 長期的に変化するもの。	○
	していく（状態の変化） 変化前に視点を置く場合	{+継続性、－動作性} 長期的に変化するもの。	×
	しつづける	{+継続性、動作性（高）} 具体的な動きを表すもの。	×
	しつつある	なし	×
	しているところだ	{+（変化結果の）継続性、動作性（低～高）}	×
	したところだ	{+変化結果の継続性、動作性（中）}	×
	したばかりだ	なし	×
	しおわる	なし	×
	してしまう	{±継続性、動作性（低～高）}	×
	してある	なし	×

7.3 オノマトペの語彙的意味と結びつきやすいアスペクチュアリティーの表現形式

各カテゴリーのオノマトペの語彙的意味と結びつきやすいアスペクチュアリティーの表現形式（表 7.2 から表 7.12 で「○」のものと「△」のもの）を以下に示す。

＜感情・感覚表現（継続性があるもの）＞

例：いらいら、わくわく、ひりひり、ずきずき

語彙的意味：{+直接感覚、+継続性、動作性（中）、-意志性}

表現形式：はじめる、だす、てくる、しているところだ、してしまう

＜感情・感覚表現（変化結果の継続性があるもの）＞

例：びっくり、がっかり、すっきり、ほつ

語彙的意味：{+直接感覚、+変化結果の継続性、動作性（中）、-意志性}

表現形式：しているところだ、したところだ、してしまう

＜感情・感覚表現（継続性がないもの）＞

例：いらっしゃる、むかっ、ずきっ、ちくっ、くらっ、ふらっ、かつ

語彙的意味：{-直接感覚、-継続性、動作性（高）、-意志性}

表現形式：してしまう

＜動作性が高いもの（意志性があるもの）＞

例：ぶらぶら、うろうろ、うろちょろ

語彙的意味：{-直接感覚、+継続性、動作性（高）、+意志性}

表現形式：するところだ、しようとする、はじめる、（しつづける）、しているところだ
してしまう

＜動作性が高いもの（意志性が関わらないもの）＞

例：おろおろ、きょろきょろ、まごまご、そわそわ、どぎまぎ

語彙的意味：{-直接感覚、+継続性、動作性（高）}

表現形式：はじめる、だす、（しつづける）、しているところだ、してしまう

＜動作性が中程度のもの（継続性があるもの）＞

例：にこにこ、ぎくしゃく、ざわざわ、きらきら

語彙的意味：{-直接感覚、+継続性、動作性（中）、-意志性}

表現形式：はじめる、だす、てくる、しているところだ、してしまう

＜動作性が低いもの（意志性があるもの）＞

例：ごろごろ、のんびり、ゆっくり

語彙的意味：{-直接感覚、+継続性、動作性（低）、+意志性}

表現形式：しているところだ、してしまう

＜動作性が低いもの（意志性がないもの）＞

例：めそめそ、だらだら、くよくよ、おどおど、ぼんやり、ぐったり、

語彙的意味：{−直接感覚、+継続性、動作性(低)、−意志性}

表現形式：(していく)、しているところだ、してしまう

＜「させる」と結びつくもの（再帰用法）＞

例：(足を) ばたばた、(手を) ひらひら、(口を) ぱくぱく、(目を) ぱちぱち

語彙的意味：{−直接感覚、+継続性、動作性(高)、+意志性}

表現形式：(させようとする)、(させはじめる)、(させつづける) させているところだ
させてしまう

＜「させる」と結びつくもの（他動詞的な用法）＞

例：いらいら、どきどき、がっかり、さっぱり、はつきり、しんなり

語彙的意味：{−直接感覚、+変化結果の継続性、動作性(高)、±意志性}

表現形式：(させようとする)、させてしまう

＜性質＞

例：さばさば、ねばねば、おつとり、がっしり、あつさり、とろつ、さらつ

語彙的意味：{−直接感覚、−継続性、−動作性、−意志性}

表現形式：してくる（長期的な状態の変化）

「オノマトペ+する」は、直後（したばかりだ）、終了（しおわる）を表すアスペクトチャラクターの表現形式と結びつきにくい。その理由は、オノマトペが動きを表す場合でも、動きの過程が明確に区切られているわけではなく、終了点をはつきり設定できないためである。

7.4 本研究の学問的意義

本研究では、書き言葉コーパスによる大規模なデータ調査によって、機能動詞「する」とオノマトペの結びつきについて、実証的データを提出した。そのデータによって明らかになった「する」と結びつきやすいオノマトペを{直接感覚、継続性、動作性、意志性}の有無や程度を基準に分類し、それぞれのオノマトペの語彙的意味を示した。

これまで、日本語の動詞は、アスペクト性の観点から大まかに「動き動詞」、「内的状態動詞」、「状態動詞」に分類されていたが、本研究では、オノマトペの動作性に幅を持たせたこと、意志性の有無を分類基準に加えたことで、一般語彙の動詞の分類の基準だけでは位置づけられない「オノマトペ+する」を独自の基準で分類した。さらに、その分類ごとに「語彙的アスペクト性」を「形態論的アスペクト」と時間的局面の性質である「語彙的アスペクト」に分けて論じた。

「形態論的アスペクト」に関しては、語彙的意味ごとに、主文末における「オノマトペ+する」のスル形とシテイル形のテ ns、完成か継続か、動きか状態かを記述した。「語彙的アスペクト」に関しては、時間的局面を表す表現形式が前接する動詞に求める条件をオノマトペの語彙的意味素性を基盤とした基準で設定し、その整合性によって、結びつきを判断した。結論部分では、「オノマトペ+する」の語彙的意味と語彙的アスペクト性の関連を表にまとめて体系的に示した。

7.5 今後の課題

本研究では、「オノマトペ+する」を 11 の語彙的意味カテゴリーに分けたが、意志性や動作性の程度、変化性などの基準をさらに細かく設定することで、カテゴリーを細分化することが可能である。そのために、主文末だけでなく、従属節における用法を観察する。たとえば、名詞修飾節において、オノマトペは、「する」「している」「した」「な」「の」を伴い、名詞を修飾する。主文末における「オノマトペ+する」の用例を調査する過程で、動作性が低いオノマトペと性質を表すオノマトペは、述語部分ではシタ形にならず、名詞修飾用法でシタ形になること、「に」を伴い、変化動詞と結びつくオノマトペは、「な」や「の」を伴い、名詞を修飾することが多いことがわかった。このような名詞修飾節における用法の分析結果と主文末の分析結果と合わせて考察すれば、オノマトペの動作性の程度や変化性などの語彙的意味に関して、より精緻な分析結果が提出できる。

この他、「オノマトペ+する」と「オノマトペ+『つく』・『めく』」の比較を試みること、漢語や洋語が「する」と結びついた用例の分析を行い、「オノマトペ+する」と同様のアスペクト的振る舞いを見せるかを確かめることも今後の課題とする。

参 考 文 献

【辞典】

- 秋本守英・山口明穂 (2001) 『日本語文法大辞典』 明治書院
浅野鶴子 (編) (1987) 『擬音語・擬態語辞典』 角川書店
阿刀田稔子・星野和子 (1993) 『擬音語擬態語使い方辞典—正しい意味と用法がすぐわかる』 創拓社
天沼寧 (1974) 『擬音語・擬態語辞典』 東京堂出版
今井新悟 (編著) (2011) 『日本語多義語学習辞典 形容詞・副詞編』 アルク
小野正弘 (編) (2007) 『日本語オノマトペ辞典』 小学館
小池清治・小林賢次・細川英雄・山口佳也 (2002) 『日本語表現・文型事典』 朝倉書店
国立国語研究所 (編) (2004) 『分類語彙表 増補改訂版』 大日本図書
田中春美 (1988) 『現代言語学辞典』 成美堂
辻幸夫 (2013) 『新編 認知言語学キーワード事典』 研究社
日本語文法学会 (編) (2014) 『日本語文法事典』 大修館書店
飛田良文・浅田秀子 『現代擬音語擬態語用法辞典』 東京堂出版
森田良行 (2008) 『動詞・形容詞・副詞の事典』 東京堂出版
山口仲美 (2003) 『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』 講談社
Makino, Seiichi and Tsutsui, Michio (1986) *A Dictionary of Basic Japanese Grammar*. The Japan Times

【コーパス】

現代日本語書き言葉均衡コーパス (Balanced Corpus of Contemporary Japanese). 2008.

【著書・論文】

- 秋田喜美 (2013) 「オノマトペ・音象徵の研究史」 篠原和子・宇野良子編 『オノマトペ研究の射程 近づく音と意味』 ひつじ書房
秋元美晴 (2007) 「日本語教育におけるオノマトペの位置づけ」 『日本語学』 vol. 26, 明治書院
庵功雄・高橋信乃・中西久実子・山田敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語ハンドブック』 スリーエーネットワーク
庵功雄・高橋信乃・中西久実子・山田敏弘 (2002) 『中級を教える人のための日本語ハンドブック』 スリーエーネットワーク

- 泉那寿 (1990) 「擬声語・擬態語の特質」 鈴木孝夫 (編) 『日本語の語彙と表現』 大修館書店
- 伊東真美 (2009) 「日本語の擬態語の音象徵について 認知言語学的視点から」 『芸術工学研究』 vol. 11, 九州大学大学院芸術工学研究院 紀要
- 岩本遠億 (2008) 『事象アスペクト論』 開拓社
- 江田すみれ (2013) 『「ている」「ていた」「ていない」のアスペクト』 くろしお出版
- 大曾美恵子 (2001) 「感情を表す動詞・形容詞に関する一考察」 『言語文化論集』 22 号 名古屋大学
- 大坪併治 (2006) 『擬聲語の研究』 風間書房
- 奥田靖雄 (1977) 「アスペクトの研究をめぐって—金田一段階—」 奥田靖雄 (1985) 『ことばの研究・序説』 むぎ書房に再録
- 苧阪直行 (1999) 『感性のことばを研究する』 新曜社
- 箕壽雄 (1993) 「一般語彙となったオノマトペ」 『言語』 6 月号, 第 22 卷, 大修館書店
- 箕壽雄 (2001) 「“変身”するオノマトペ」 『言語』 8 月号, 第 30 卷, 大修館書店
- 箕壽雄・田守育啓 (1993) 『オノマトピア・擬音・擬態語の楽園』 効草書房
- 影山太郎 (2004) 「概念構造と統語構造のインターフェイスとしての非対格性・非能格性— Challenges from Mimetic Verbs—」 関西言語学会第 29 回大会
- 影山太郎 (2005) 「擬態語動詞の語彙概念構造」 第 2 回 中日理論言語学研究会
- 影山太郎 (2006) 「擬態語動詞の統語構造」 『人文論究』 56 卷, 1 号, 関西学院大学紀要
- 影山太郎 (編) (2009) 『日英対照 形容詞・副詞の意味と構文』 大修館書店
- 加藤久雄・坂口昌子 (1996) 「後接成分とオノマトペの性質について」 『奈良教育大学紀要』 第 45 卷, 第 1 号, 奈良教育大学
- 金水敏 (2000) 「時の表現」 『日本語の文法 2 時・否定ととりたて』 岩波書店
- 金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」 [金田一春彦編 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』 むぎ書房所収]
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテクスト—現代日本語の時間の表現—』 ひつじ書房
- 国立国語研究所 (1985) 『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』 秀英出版
- 菅原崇・浜野祥子 (2013) 「コーパスに基づく日本語擬態語動詞の意味分析」 第 4 回コーパス日本語学ワークショップ予稿集
- 鈴木彩香 (2012) 「日本語オノマトペ述語の形式について」 『日本語文法』 12 卷, 2 号, 日本語文法学会
- 角岡賢一 (2007) 『日本語オノマトペ語彙における形態的・音韻的体系性について』 くろしお出版

- 高橋太郎 (2005) 『日本語の文法』 ひつじ書房
- 玉村文郎 (1989) 「日本語の音象微語の特徴とその教育」 『日本語教育』 68号, 日本語教育学会
- 田守育啓 (1993) 「日本語オノマトペの音韻・形態的特徴」 『言語』 6月号, 第22卷, 大修館書店
- 田守育啓 (2002) 『オノマトペ 擬音・擬態語をたのしむ』 岩波書店
- 田守育啓 (2011) 「宮沢賢治特有のオノマトペ：賢治独特の非慣習的用法」 『人文論集』 46, 兵庫県立大学
- 田守育啓・ローレンス・スコウラップ (1999) 『オノマトペー形態と意味ー』 くろしお出版
- 丹野真智俊 (2005) 『オノマトペ(擬音語・擬態語)を考える—日本語音韻の心理学的研究』 あいり出版
- 寺村秀夫 (1987) 『日本語のシンタクスと意味』 くろしお出版
- 原沢伊都夫 (2010) 「心の状態を表す動詞の再分類」 静岡大学国際交流センター紀要 第4号, 静岡大学
- 藤井正 (1966) 「『動詞+ている』の意味」 [金田一春彦編(1976) 『日本語動詞のアスペクト』 むぎ書房所収]
- 堀井令以知 (1986) 「擬音語・擬態語の言語学」 『日本語学』 5-7, 明治書院
- 文化庁「平成25年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」
- 益岡隆志・田窪行則 (2013) 『基礎日本語文法』 くろしお出版
- 中村ちどり (2001) 『日本語の時間表現』 くろしお出版
- 西尾寅弥 (1983) 「音象微語における意味・用法の展開の一類型」, 渡辺実(編) 『副用語の研究』 明治書院
- 仁田義雄 (1983) 「結果の副詞とその周辺」 渡辺実(編) 『副用語の研究』 明治書院
- 仁田義雄 (2002) 『副詞的表現の諸相』 くろしお出版
- 日本語記述文法学会 (2007) (編) 『現代日本語文法 第3卷』 くろしお出版
- 野間秀樹 (2001) 「オノマトペと音象微」 『言語』 8月号, 第30卷, 大修館書店
- 浜野祥子 (2014) 『日本語のオノマトペー音象微と構造』 くろしお出版
- 姫野昌子 (2005) 「音象微語の機能と用法」 『言語文化研究III 現代日本語の様相』 放送大学院紀要
- 深田智 (2013) 「絵本の中のオノマトペ」 篠原和子・宇野良子(編) 『オノマトペ研究の射程 近づく音と意味』 ひつじ書房
- 三上京子 (2003) 「上級教材に見られるオノマトペー統語的特徴の分析と指導の観点」 『早稲田大学日本語教育研究』 第2号, 早稲田大学

- 三上京子 (2006) 「日本語教育のための基本オノマトペの選定とその教材化」『ICU 日本語教育研究』第3巻, 国際基督教大学
- 三原健一 (1997) 「動詞のアスペクト構造」 鷺尾龍一・三原健一『日英語比較選書7 ヴォイスとアスペクト』研究者出版
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』 大修館書店
- 村上康子 (2013) 「日本語絵本における語の使用の特徴と伝達内容」『東アジア日本語教育・日本文化研究』16, 東アジア日本語教育・日本文化研究学会
- 村木新次郎 (1991) 『日本語動詞の諸相』 ひつじ書房
- 森山卓郎 (1988) 『日本語動詞述語文の研究』 明治書院
- 山岡政紀 (2000) 『日本語の述語と文機能』 くろしお出版
- 山口仲美 (2003) 『犬は「びよ」と鳴いていた』 光文社新書
- 湯澤質幸・松崎寛 (2004) 「オノマトペとは何か?」 『音声・音韻探究法 日本語音声へのいざない』 朝倉書店
- Akita, Kimi (2006) *Embodied Semantics of Japanese Psychomimes*. KLS (Kansai Linguistic Society) 26
- Akita, Kimi (2009) *Grammar of Sound-Symbolic Words in Japanese: Theoretical Approaches to Iconic and Lexical Properties of Mimetics*. Ph.D. dissertation, Kobe University
- Hamano, Shoko (1998) *The Sound-Symbolic System of Japanese*. Kuroshio
- Kageyama, Taro (2008) *Explorations in the conceptual semantics of mimetic verbs*. In B. Frellésvig, M. Shibatani, & J. C. Smith, eds., *Current Issues in the History and Structures of Japanese*. Kuroshio.
- Kita, Sotaro (1997) *Two-dimensional semantic analysis of Japanese mimetics*. *Linguistics*, 35(2)
- Tsujimura, Natsuko (2001) *Revisiting the Two-Dimensional Approach to Mimetics: A reply to Kita (1997)*. *Linguistics*, 39(2)
- Tsujimura, Natsuko (2005) *A constructional approach to mimetic verbs*, in Mirjam Fried and Hans Boas, eds., *Grammatical Construction*, John Benjamins.
- Uehara, Satoshi (1998) *Syntactic Categories in Japanese: A Cognitive and Typological Introduction*. Kuroshio.

付 錄

付録1. 分析対象としたオノマトペ一覧³⁷

	オノマトペ	総数	「オノマトペ+する」の例文数
1	ほっ ³⁸	2511	618
2	はっきり	10440	399
3	いらっしゃ	1554	256
4	どきどき	1188	249
5	がっかり	967	226
6	すっきり	1953	223
7	わくわく	897	134
8	にっこり	914	114
9	うんざり	723	100
10	うろうろ	596	94
11	しつかり	9824	88
12	ごろごろ	687	86
13	くらくら	477	79
14	にこにこ	978	79
15	にやにや	442	68
16	ぐずぐず	338	64
17	ぞくぞく	247	60
18	うずうず	119	60
19	ふらふら	612	59
20	ぴりぴり	214	51
21	ぼんやり	1684	50
22	はらはら	338	50
23	うとうと	311	47
24	ばたばた	616	47
25	のんびり	1739	45
26	びくびく	256	45
27	そわそわ	190	45
28	うつとり	495	44
29	さっぱり	1770	43
30	ぐつたり	503	43

37 「オノマトペ+する」の例文数の順に並べた。

38 「ほっ」で調べると、「ほっそり」「ほっぺた」など、様々な語が含まれるため、「ほっと」で検索した。

31	ぎくしゃく	180	42
32	おろおろ	171	40
33	ぱちくり	76	40
34	むかむか	111	40
35	ひやひや	109	39
36	ぶらぶら	593	38
37	うきうき	218	36
38	どぎまぎ	107	36
39	しつとり	655	34
40	きらきら	968	34
41	あっさり	1533	32
42	にんまり	144	32
43	ぴんぴん	101	32
44	もじもじ	136	31
45	ひりひり	139	29
46	がっくり	306	27
47	くよくよ	197	27
48	きょろきょろ	242	27
49	やきもき	86	26
50	むずむず	91	26
51	べたべた	224	25
52	かつか	147	24
53	ちくちく	155	21
54	ゆっくり	8184	20
55	ぴったり	2238	20
56	ひらひら	288	20
57	ぱちぱち	324	20
58	ちやほや	114	20
59	しょんぼり	117	19
60	げんなり	68	19
61	だらだら	521	18
62	おどおど	140	18
63	ずきずき	96	18
64	がっしり	252	16
65	もやもや	257	16
66	めそめそ	69	16
67	ひっそり	627	15
68	ぱくぱく	288	15

69	ぐらぐら	195	15
70	ひくひく	112	15
71	いちやいちや	62	15
72	ふつくら	394	14
73	ざわざわ	162	14
74	うかうか	62	14
75	うるうる	88	14
76	ふわふわ	510	13
77	ちらちら	336	13
78	うろちょろ	41	13
79	もたもた	106	12
80	うようよ	74	12
81	ぶりぶり	128	12
82	ぴくぴく	114	12
83	むしゃくしゃ	54	12
84	きっちり	965	11
85	ひんやり	278	11
86	つやつや	170	11
87	ぽかぽか	202	11
88	うつらうつら	74	11
89	ぱさぱさ	115	11
90	がっちり	377	10
91	どんより	263	10
92	ごたごた	209	10
93	ほっこり	67	10
94	むんむん	60	10
95	ぎすぎす	46	10
96	こそこそ	221	9
97	おっとり	156	9
98	ぎらぎら	213	9
99	がくがく	190	9
100	まごまご	40	9
101	すうすう	60	9
102	うつかり	808	8
103	じめじめ	517	8
104	じりじり	310	8
105	しんなり	200	8
106	こっくり	129	8

107	ごしごし	179	8
108	じたばた	110	8
109	げっそり	63	8
110	へらへら	67	8
111	くつきり	552	7
112	つるつる	348	7
113	しんみり	116	7
114	すべすべ	132	7
115	ぬるぬる	149	7
116	ぺこぺこ	136	7
117	しょぼしょぼ	60	7
118	うだうだ	49	7
119	てかてか	65	7
120	いらつ	29	7
121	ぐるぐる	796	6
122	ふんわり	363	6
123	さらさら	626	6
124	ほっそり	242	6
125	よろよろ	210	6
126	ころころ	375	6
127	どろどろ	330	6
128	くねくね	164	6
129	ざらざら	163	6
130	あくせく	67	6
131	ほくほく	123	6
132	かさかさ	175	6
133	むかつ	32	6
134	かりかり	311	6
135	ちりちり	77	6
136	どたばた	159	6
137	こせこせ	16	6
138	きっぱり	785	5
139	ゆらゆら	277	5
140	きびきび	178	5
141	ごつごつ	180	5
142	ぬくぬく	102	5
143	がんがん	471	5
144	がつがつ	128	5

145	ぐりぐり	116	5
146	じんじん	70	5
147	ぴちぴち	93	5
148	ちかちか	71	5
149	でれでれ	31	5
150	くさくさ	9	5
151	かつ	551	5
152	がたがた	401	4
153	ぱっちやり	140	4
154	きりきり	123	4
155	もちもち	125	4
156	もごもご	76	4
157	くりくり（目）	82	4
158	ごわごわ	76	4
159	くんくん	112	4
160	じやらじやら	56	4
161	つんつん	57	4
162	けちけち	57	4
163	ぼやぼや	25	4
164	じやりじやり	27	4
165	ずるずる	397	3
166	のろのろ	290	3
167	ねっとり	203	3
168	いそいそ	143	3
169	ぼそぼそ	168	3
170	ぱっちり	115	3
171	もじやもじや	71	3
172	がやがや	111	3
173	ねばねば	112	3
174	ひよろひよろ	56	3
175	ぶるぶる	103	3
176	べとべと	77	3
177	もっさり	36	3
178	じくじく	35	3
179	のうのう	53	3
180	くるくる	607	2
181	ぶるぶる	355	2
182	こんもり	138	2

183	ぴかぴか	410	2
184	むつり	186	2
185	ぱらぱら	338	2
186	ぽんぽん	307	2
187	よれよれ	122	2
188	もぐもぐ	113	2
189	ちよろちよろ	111	2
190	びりびり	120	2
191	ペラペラ	185	2
192	どくどく	87	2
193	ぱたぱた	135	2
194	のらりくらり	45	2
195	うねうね	44	2
196	さばさば	70	2
197	ぐにやぐにや	59	2
198	ぼってり	46	2
199	がさがさ	108	2
200	うじうじ	54	2
201	ふにやふにや	48	2
202	ぼこぼこ	153	2
203	おちおち	32	2
204	ぶかぶか	50	2
205	ちやらちやら	51	2
206	ちよこまか	29	2
207	なよなよ	26	2
208	しゃきしゃき	107	2
209	にたにた	44	2
210	もさもさ	15	2
211	がさごそ	33	2
212	きよときよと	13	2
213	ぬらぬら	14	2
214	むちむち	28	2
215	へどもど	10	2
216	くにやくにや	6	2
217	ぎとぎと	13	2
218	たっぷり	3567	2
219	かんかん	242	1
220	ぎりぎり	1437	1

221	すんなり	454	1
222	ばったり	353	1
223	じわじわ	334	1
224	どっしり	233	1
225	おずおず	227	1
226	まるまる	201	1
227	やんわり	180	1
228	するする	241	1
229	ずんぐり	155	1
230	こってり	155	1
231	とんとん	440	1
232	ずっしり	128	1
233	とろとろ	206	1
234	ぽつぽつ	191	1
235	むちやくちや	148	1
236	もうもう	100	1
237	ふかふか	113	1
238	がらがら	375	1
239	ごそごそ	140	1
240	じっとり	82	1
241	すっぱり	85	1
242	ぼつぼつ	91	1
243	ぴょんぴょん	118	1
244	ぐうたら	61	1
245	べっとり	74	1
246	ぎざぎざ	144	1
247	のっぺり	57	1
248	さくさく	264	1
249	はきはき	85	1
250	がりがり	252	1
251	よたよた	78	1
252	ぱんぱん	293	1
253	ぼさぼさ	90	1
254	ぶよぶよ	61	1
255	むっちり	52	1
256	くちやくちや	54	1
257	たじたじ	55	1
258	わなわな	43	1

259	しゃあしゃあ	39	1
260	ばさばさ	71	1
261	べろべろ	45	1
262	ぼんぼん	181	1
263	むにやむにや	36	1
264	ねちねち	47	1
265	ペろペろ	75	1
266	こりこり	48	1
267	ふかふか	111	1
268	ぱりぱり	121	1
269	こちよこちよ	27	1
270	ずんぐりむっくり	18	1
271	どたどた	46	1
272	しこしこ	45	1
273	ひよこひよこ	23	1
274	がちやがちや	110	1
275	ぐびぐび	23	1
276	こてこて	42	1
277	ぐんにやり	12	1
278	がたぴし	17	1
279	ぎょろぎょろ	17	1
280	ぼちやぼちや	9	1
281	じとじと	10	1
282	しなしな	9	1
283	ぼてぼて	13	1
284	つんけん	8	1
285	ぼいぼい	13	1
286	べらべら	91	0
287	くどくど	118	0
288	あんぐり	60	0
289	ずんずん	144	0
290	ざっくり	141	0
291	まざまざ	134	0
292	どんどん	5302	0
293	そろそろ	3020	0
294	じっくり	1549	0
295	こっそり	1024	0
296	ちょっぴり	604	0

297	ばらばら	1302	0
298	うっすら	474	0
299	ぶつぶつ	575	0
300	ぎっしり	377	0
301	ぐっすり	366	0
302	ぼろぼろ	710	0
303	まじまじ	249	0
304	ぐんぐん	282	0
305	そそくさ	204	0
306	からから	353	0
307	ごくごく	216	0
308	ちょこちょこ	217	0
309	めつきり	180	0
310	すくすく	181	0
311	ぞろぞろ	235	0
312	ひそひそ	207	0
313	ちらほら	225	0
314	こんがり	162	0
315	しげしげ	159	0
316	くしゃくしゃ	179	0
317	じろじろ	232	0
318	ひよっこり	147	0
319	どっさり	151	0
320	くたくた	215	0
321	びっしょり	144	0
322	むしやむしや	59	0
323	ゆるゆる	134	0
324	すらすら	168	0
325	ぐいぐい	184	0
326	きっかり	115	0
327	ひたひた	141	0
328	なみなみ	104	0
329	どしどし	107	0
330	ずたずた	160	0
331	せかせか	100	0
332	みっちり	96	0
333	つかつか	104	0
334	やいやい	93	0

335	ちぐはぐ	115	0
336	へとへと	133	0
337	さっくり	136	0
338	もぞもぞ	100	0
339	ちびちび	109	0
340	ぱったり	102	0
341	しくしく	125	0
342	こんこん	153	0
343	じやんじやん	105	0
344	ぼうぼう	78	0
345	ぐっしょり	70	0
346	すたすた	111	0
347	ぽろぽろ	174	0
348	でっぷり	67	0
349	ばんばん	290	0
350	とぼとぼ	100	0
351	ぶんぶん	133	0
352	すごすご	65	0
353	どっかり	70	0
354	よちよち	92	0
355	のっそり	62	0
356	ばっさり	113	0
357	ぽつりぽつり	97	0
358	たらたら	100	0
359	だぶだぶ	68	0
360	わんさか	70	0
361	ずかずか	66	0
362	ぱりぱり	497	0
363	びしょびしょ	74	0
364	むくむく	80	0
365	しわくちゃ	53	0
366	ぬけぬけ	53	0
367	すやすや	81	0
368	すいすい	115	0
369	もりもり	93	0
370	ぐしゃぐしゃ	62	0
371	へなへな	58	0
372	ぐつぐつ	74	0

373	ぎしぎし	95	0
374	どやどや	53	0
375	ぶつくさ	46	0
376	ふつり	44	0
377	たんまり	36	0
378	てくてく	74	0
379	とことこ	88	0
380	のそのそ	42	0
381	しとしと	44	0
382	つべこべ	35	0
383	めきめき	54	0
384	かちかち	167	0
385	がみがみ	70	0
386	ぼたぼた	64	0
387	しわしわ	55	0
388	ふうふう	45	0
389	ぱりぱり	81	0
390	おめおめ	45	0
391	めらめら	60	0
392	ペしやんこ	45	0
393	こちこち	72	0
394	びゅんびゅん	48	0
395	がぶがぶ	44	0
396	ほやはや	44	0
397	かいたかた	133	0
398	がちがち	102	0
399	ペちゃくちゃ	34	0
400	ぶちぶち	182	0
401	ざくざく	66	0
402	ずけずけ	35	0
403	ちろちろ	40	0
404	ペちゃんこ	29	0
405	しっぽり	19	0
406	どかどか	35	0
407	ぬめぬめ	28	0
408	へたへた	19	0
409	かさこそ	28	0
410	ずらずら	25	0

411	ぺたぺた	42	0
412	へべれけ	25	0
413	てらてら	24	0
414	ひよいひよい	21	0
415	ぼりぼり	43	0
416	ぐうぐう	25	0
417	ごりごり	58	0
418	そよそよ	15	0
419	のらくら	16	0
420	ぽつきり	41	0
421	ごとごと	36	0
422	さやさや	14	0
423	によろによろ	19	0
424	みっしり	13	0
425	がっぷり	13	0
426	べちゃべちゃ	17	0
427	もしやもしや	18	0
428	きんきん	59	0
429	ごほごほ	33	0
430	すぱすぱ	34	0
431	ぼたぼた	20	0
432	ぐしょぐしょ	12	0
433	ごによごによ	16	0
434	みしみし	25	0
435	うはうは	39	0
436	うらうら	9	0
437	ぐでんぐでん	15	0
438	しおしお	9	0
439	すたこら	17	0
440	ぶうぶう	14	0
441	ねとねと	11	0
442	ぶちぶち	16	0
443	めりめり	27	0
444	きちきち	17	0
445	ざぶざぶ	13	0
446	しゃんしゃん	33	0
447	だくだく	10	0
448	ぶすぶす	19	0

449	ふっくり	5	0
450	ほこほこ	8	0
451	ゆさゆさ	13	0
452	がしやがしや	20	0
453	しやなりしやなり	8	0
454	ずばずば	22	0
455	ぴよこぴよこ	13	0
456	がたごと	23	0
457	ぐたぐた	11	0
458	つけつけ	6	0
459	ぱかぱか	18	0
460	ばきばき	26	0
461	びちやびちや	16	0
462	みりみり	6	0
463	かちやかちや	45	0
464	どさどさ	7	0
465	ぼきぼき	26	0
466	ペりペり	4	0
467	むきむき	19	0
468	れろれろ	1	0
469	ぎんぎん	30	0
470	ぐうすか	2	0
471	しんねりむつり	2	0
472	ばちやばちや	6	0
473	べろんべろん	13	0
474	ちよきちよき	16	0
475	ぱきぱき	8	0
476	べりべり	6	0
477	ぼそぼそ	3	0
478	ちよくちよく	198	0
479	ちょいちょい	90	0
480	ほんのり	349	0

付録2. オノマトペ (ひらがな・カタカナ) + (と) 「させ」

	オノマトペ	総数	ひらがな		カタカナ		合計
			とさせ	させ	とさせ	させ	
1	ぱちくり	76	0	18	0	11	29
2	はつきり	10440	0	7	0	16	23
3	すつきり	1953	0	12	1	7	20
4	がっかり	967	0	16	0	4	20
5	いらいら	1554	0	10	0	10	20
6	ほつ	2511	13	0	5	0	18
7	ぱちぱち	324	0	11	0	7	18
8	ひらひら	288	0	10	0	5	15
9	どきどき	1188	0	5	0	7	12
10	ぱくぱく	288	0	8	0	4	12
11	ぶらぶら	593	0	7	0	4	11
12	ひくひく	112	0	6	0	3	9
13	はらはら	338	0	2	0	6	8
14	うつとり	495	0	7	0	0	7
15	しんなり	200	0	7	0	0	7
16	ばたばた	616	0	2	0	5	7
17	うんざり	723	0	6	0	0	6
18	わくわく	897	0	2	0	4	6
19	しつかり	9824	0	5	0	0	5
20	ゆっくり	8184	0	5	0	0	5
21	さっぱり	1770	0	5	0	0	5
22	ぴくぴく	114	1	1	0	3	5
23	ぐずぐず	338	0	4	0	0	4
24	ひやひや	109	0	1	0	3	4
25	しょぼしょぼ	60	0	4	0	0	4
26	しっとり	655	0	2	0	1	3
27	きらきら	968	0	2	0	1	3
28	ゆらゆら	277	0	3	0	0	3
29	ぞくぞく	247	0	3	0	0	3
30	きょろきょろ	242	0	1	0	2	3
31	ぎらぎら	213	0	2	0	1	3
32	じやらじやら	56	1	1	0	1	3
33	ふらふら	612	0	2	0	0	2
34	どんより	263	0	2	0	0	2

35	もぐもぐ	113	0	2	0	0	2
36	やきもき	86	0	1	0	1	2
37	ぴりぴり	214	0	0	0	2	2
38	もごもご	76	0	1	0	1	2
39	くりくり (目)	82	0	2	0	0	2
40	かつ	551	2	0	0	0	2
41	あっさり	1533	0	1	0	0	1
42	ぐったり	503	0	1	0	0	1
43	くるくる	607	0	1	0	0	1
44	ふっくら	394	0	1	0	0	1
45	ふんわり	363	0	1	0	0	1
46	にやにや	442	0	1	0	0	1
47	くねくね	164	0	0	0	1	1
48	もじもじ	136	0	1	0	0	1
49	こっくり	129	0	1	0	0	1
50	ぎくしゃく	180	0	1	0	0	1
51	どぎまぎ	107	0	1	0	0	1
52	じたばた	110	0	1	0	0	1
53	ぱっちり	115	0	1	0	0	1
54	げんなり	68	0	1	0	0	1
55	ぐりぐり	116	0	1	0	0	1
56	うるうる	88	0	1	0	0	1
57	かりかり	311	0	0	0	1	1
58	くんくん	112	0	0	0	1	1
59	ばたばた	135	0	0	0	1	1
60	ぶるぶる	103	0	1	0	0	1
61	たじたじ	55	1	0	0	0	1
62	ぐびぐび	23	0	1	0	0	1
63	きよときよと	13	0	1	0	0	1
64	ぬらぬら	14	0	1	0	0	1
65	いらつ	29	0	0	1	0	1
66	どんどん	5302	0	0	0	0	0
67	たっぷり	3567	0	0	0	0	0
68	そろそろ	3020	0	0	0	0	0
69	ぴったり	2238	0	0	0	0	0
70	のんびり	1739	0	0	0	0	0
71	ぼんやり	1684	0	0	0	0	0
72	じっくり	1549	0	0	0	0	0

73	こっそり	1024	0	0	0	0	0
74	きっちり	965	0	0	0	0	0
75	うっかり	808	0	0	0	0	0
76	ぎりぎり	1437	0	0	0	0	0
77	にっこり	914	0	0	0	0	0
78	きっぱり	785	0	0	0	0	0
79	ひっそり	627	0	0	0	0	0
80	ぐるぐる	796	0	0	0	0	0
81	ちょっぴり	604	0	0	0	0	0
82	ばらばら	1302	0	0	0	0	0
83	くっきり	552	0	0	0	0	0
84	うっすら	474	0	0	0	0	0
85	じめじめ	517	0	0	0	0	0
86	すんなり	454	0	0	0	0	0
87	くらくら	477	0	0	0	0	0
88	ふわふわ	510	0	0	0	0	0
89	うろうろ	596	0	0	0	0	0
90	にこにこ	978	0	0	0	0	0
91	ぶつぶつ	575	0	0	0	0	0
92	ぎっしり	377	0	0	0	0	0
93	ぐっすり	366	0	0	0	0	0
94	さらさら	626	0	0	0	0	0
95	ばったり	353	0	0	0	0	0
96	だらだら	521	0	0	0	0	0
97	がっちり	377	0	0	0	0	0
98	ごろごろ	687	0	0	0	0	0
99	じわじわ	334	0	0	0	0	0
100	ひんやり	278	0	0	0	0	0
101	ぼろぼろ	710	0	0	0	0	0
102	ずるずる	397	0	0	0	0	0
103	じりじり	310	0	0	0	0	0
104	ほっそり	242	0	0	0	0	0
105	がっしり	252	0	0	0	0	0
106	まじまじ	249	0	0	0	0	0
107	のろのろ	290	0	0	0	0	0
108	うとうと	311	0	0	0	0	0
109	どっしり	233	0	0	0	0	0
110	ぐんぐん	282	0	0	0	0	0

111	おずおず	227	0	0	0	0	0
112	ちらちら	336	0	0	0	0	0
113	そそくさ	204	0	0	0	0	0
114	まるまる	201	0	0	0	0	0
115	がっくり	306	0	0	0	0	0
116	よろよろ	210	0	0	0	0	0
117	からから	353	0	0	0	0	0
118	ごくごく	216	0	0	0	0	0
119	つるつる	348	0	0	0	0	0
120	ちょこちょこ	217	0	0	0	0	0
121	めっきり	180	0	0	0	0	0
122	もやもや	257	0	0	0	0	0
123	やんわり	180	0	0	0	0	0
124	するする	241	0	0	0	0	0
125	ぶるぶる	355	0	0	0	0	0
126	すくすく	181	0	0	0	0	0
127	ぞろぞろ	235	0	0	0	0	0
128	くよくよ	197	0	0	0	0	0
129	ひそひそ	207	0	0	0	0	0
130	ちらほら	225	0	0	0	0	0
131	こそこそ	221	0	0	0	0	0
132	こんがり	162	0	0	0	0	0
133	びくびく	256	0	0	0	0	0
134	ころころ	375	0	0	0	0	0
135	しげしげ	159	0	0	0	0	0
136	おつとり	156	0	0	0	0	0
137	ずんぐり	155	0	0	0	0	0
138	くしゃくしゃ	179	0	0	0	0	0
139	じろじろ	232	0	0	0	0	0
140	そわそわ	190	0	0	0	0	0
141	むかつ	32	0	0	0	0	0
142	ひよっこり	147	0	0	0	0	0
143	どっさり	151	0	0	0	0	0
144	くたくた	215	0	0	0	0	0
145	ねつとり	203	0	0	0	0	0
146	こってり	139	0	0	0	0	0
147	どろどろ	330	0	0	0	0	0
148	がたがた	401	0	0	0	0	0

149	こんもり	138	0	0	0	0	0
150	いそいそ	143	0	0	0	0	0
151	びっしょり	144	0	0	0	0	0
152	ぴかぴか	410	0	0	0	0	0
153	まざまざ	134	0	0	0	0	0
154	むつり	139	0	0	0	0	0
155	ぶくぶく	186	0	0	0	0	0
156	きびきび	178	0	0	0	0	0
157	すらすら	168	0	0	0	0	0
158	とんとん	440	0	0	0	0	0
159	つやつや	170	0	0	0	0	0
160	ぐいぐい	184	0	0	0	0	0
161	ざっくり	141	0	0	0	0	0
162	ごたごた	209	0	0	0	0	0
163	ぱらぱら	338	0	0	0	0	0
164	ずっしり	128	0	0	0	0	0
165	ざわざわ	162	0	0	0	0	0
166	ずんずん	144	0	0	0	0	0
167	ぐらぐら	195	0	0	0	0	0
168	しょんぼり	117	0	0	0	0	0
169	ぽっちやり	140	0	0	0	0	0
170	おどおど	140	0	0	0	0	0
171	きつかり	115	0	0	0	0	0
172	ひたひた	141	0	0	0	0	0
173	くどくど	118	0	0	0	0	0
174	ざらざら	163	0	0	0	0	0
175	しんみり	116	0	0	0	0	0
176	すべすべ	132	0	0	0	0	0
177	なみなみ	104	0	0	0	0	0
178	おろおろ	171	0	0	0	0	0
179	とろとろ	206	0	0	0	0	0
180	ぽつぽつ	191	0	0	0	0	0
181	ぽんぽん	307	0	0	0	0	0
182	ぼそぼそ	168	0	0	0	0	0
183	うきうき	218	0	0	0	0	0
184	むちやくちや	148	0	0	0	0	0
185	ごつごつ	180	0	0	0	0	0
186	どしどし	107	0	0	0	0	0

187	ずたずた	160	0	0	0	0	0
188	せかせか	100	0	0	0	0	0
189	ぬくぬく	102	0	0	0	0	0
190	もうもう	100	0	0	0	0	0
191	みっちり	96	0	0	0	0	0
192	がんがん	471	0	0	0	0	0
193	つかつか	104	0	0	0	0	0
194	ぽかぽか	202	0	0	0	0	0
195	やいやい	93	0	0	0	0	0
196	ちぐはぐ	115	0	0	0	0	0
197	へとへと	133	0	0	0	0	0
198	よれよれ	122	0	0	0	0	0
199	べたべた	224	0	0	0	0	0
200	さっくり	136	0	0	0	0	0
201	にんまり	144	0	0	0	0	0
202	うずうず	119	0	0	0	0	0
203	もぞもぞ	100	0	0	0	0	0
204	ちびちび	109	0	0	0	0	0
205	がくがく	190	0	0	0	0	0
206	かんかん	242	0	0	0	0	0
207	ぱったり	102	0	0	0	0	0
208	ふかふか	113	0	0	0	0	0
209	しくしく	125	0	0	0	0	0
210	がらがら	375	0	0	0	0	0
211	ごしごし	179	0	0	0	0	0
212	ごそごそ	140	0	0	0	0	0
213	じつとり	82	0	0	0	0	0
214	もたもた	106	0	0	0	0	0
215	こんこん	153	0	0	0	0	0
216	ぬるぬる	149	0	0	0	0	0
217	ひりひり	139	0	0	0	0	0
218	ちやはや	114	0	0	0	0	0
219	きりきり	123	0	0	0	0	0
220	じょんじょん	105	0	0	0	0	0
221	すっぱり	85	0	0	0	0	0
222	ぼつぼつ	91	0	0	0	0	0
223	あくせく	67	0	0	0	0	0
224	ペこペこ	136	0	0	0	0	0

225	ぼうぼう	78	0	0	0	0	0
226	かっか	147	0	0	0	0	0
227	ぐっしょり	70	0	0	0	0	0
228	すたすた	111	0	0	0	0	0
229	ほっこり	67	0	0	0	0	0
230	ぼろぼろ	174	0	0	0	0	0
231	でっぷり	67	0	0	0	0	0
232	ばんばん	290	0	0	0	0	0
233	うつらうつら	74	0	0	0	0	0
234	とぼとぼ	100	0	0	0	0	0
235	ぴょんぴょん	118	0	0	0	0	0
236	ぶんぶん	133	0	0	0	0	0
237	もちもち	125	0	0	0	0	0
238	すごすご	65	0	0	0	0	0
239	どっかり	70	0	0	0	0	0
240	よちよち	92	0	0	0	0	0
241	ちよろちよろ	111	0	0	0	0	0
242	のっそり	62	0	0	0	0	0
243	ばっさり	113	0	0	0	0	0
244	あんぐり	60	0	0	0	0	0
245	ほくほく	123	0	0	0	0	0
246	ぽつりぽつり	97	0	0	0	0	0
247	うようよ	74	0	0	0	0	0
248	かさかさ	175	0	0	0	0	0
249	ぐうたら	61	0	0	0	0	0
250	べつとり	74	0	0	0	0	0
251	もじやもじや	71	0	0	0	0	0
252	うかうか	62	0	0	0	0	0
253	たらたら	100	0	0	0	0	0
254	びりびり	120	0	0	0	0	0
255	ぎざぎざ	144	0	0	0	0	0
256	げっそり	63	0	0	0	0	0
257	がやがや	111	0	0	0	0	0
258	だぶだぶ	68	0	0	0	0	0
259	のっぺり	57	0	0	0	0	0
260	ふりふり	128	0	0	0	0	0
261	わんさか	70	0	0	0	0	0
262	がつがつ	128	0	0	0	0	0

263	さくさく	264	0	0	0	0	0
264	ずかずか	66	0	0	0	0	0
265	ちくちく	155	0	0	0	0	0
266	はきはき	85	0	0	0	0	0
267	ぱりぱり	497	0	0	0	0	0
268	びしょびしょ	74	0	0	0	0	0
269	むくむく	80	0	0	0	0	0
270	がりがり	252	0	0	0	0	0
271	しわくちや	53	0	0	0	0	0
272	よたよた	78	0	0	0	0	0
273	のうのう	53	0	0	0	0	0
274	ペらペら	185	0	0	0	0	0
275	ぬけぬけ	53	0	0	0	0	0
276	べらべら	91	0	0	0	0	0
277	すやすや	81	0	0	0	0	0
278	どくどく	87	0	0	0	0	0
279	すいすい	115	0	0	0	0	0
280	ねばねば	112	0	0	0	0	0
281	ぱんぱん	293	0	0	0	0	0
282	めそめそ	69	0	0	0	0	0
283	じんじん	70	0	0	0	0	0
284	ぴんぴん	101	0	0	0	0	0
285	ぼさぼさ	90	0	0	0	0	0
286	むかむか	111	0	0	0	0	0
287	ごわごわ	76	0	0	0	0	0
288	もりもり	93	0	0	0	0	0
289	ぐしゃぐしゃ	62	0	0	0	0	0
290	ひょろひょろ	56	0	0	0	0	0
291	へなへな	58	0	0	0	0	0
292	ぐつぐつ	74	0	0	0	0	0
293	ずきずき	96	0	0	0	0	0
294	むずむず	91	0	0	0	0	0
295	のらりくらり	45	0	0	0	0	0
296	ぶよぶよ	61	0	0	0	0	0
297	うねうね	44	0	0	0	0	0
298	さばさば	70	0	0	0	0	0
299	むっちり	52	0	0	0	0	0
300	ぐにゃぐにゃ	59	0	0	0	0	0

301	ぎしきし	95	0	0	0	0	0
302	どやどや	53	0	0	0	0	0
303	ぶつくさ	46	0	0	0	0	0
304	ぶつつい	44	0	0	0	0	0
305	へらへら	67	0	0	0	0	0
306	ぽってり	46	0	0	0	0	0
307	くちやくちや	54	0	0	0	0	0
308	たんまり	36	0	0	0	0	0
309	てくてく	74	0	0	0	0	0
310	とことこ	88	0	0	0	0	0
311	のそのそ	42	0	0	0	0	0
312	べとべと	77	0	0	0	0	0
313	しとしと	44	0	0	0	0	0
314	つべこべ	35	0	0	0	0	0
315	むしやくしゃ	54	0	0	0	0	0
316	めきめき	54	0	0	0	0	0
317	かちかち	167	0	0	0	0	0
318	がみがみ	70	0	0	0	0	0
319	ぼたぼた	64	0	0	0	0	0
320	まごまご	40	0	0	0	0	0
321	わなわな	43	0	0	0	0	0
322	がさがさ	108	0	0	0	0	0
323	しわしわ	55	0	0	0	0	0
324	ふうふう	45	0	0	0	0	0
325	うじうじ	54	0	0	0	0	0
326	うだうだ	49	0	0	0	0	0
327	しゃあしゃあ	39	0	0	0	0	0
328	てかてか	65	0	0	0	0	0
329	ぼりぼり	81	0	0	0	0	0
330	おめおめ	45	0	0	0	0	0
331	めらめら	60	0	0	0	0	0
332	もつさり	36	0	0	0	0	0
333	うろちょろ	41	0	0	0	0	0
334	ちりちり	77	0	0	0	0	0
335	ぴちぴち	93	0	0	0	0	0
336	ふにゃふにゃ	48	0	0	0	0	0
337	ペしゃんこ	45	0	0	0	0	0
338	ぼこぼこ	153	0	0	0	0	0

339	いちゃいちゃ	62	0	0	0	0	0
340	おちおち	32	0	0	0	0	0
341	ちかちか	71	0	0	0	0	0
342	ばさばさ	71	0	0	0	0	0
343	ぶかぶか	50	0	0	0	0	0
344	こちこち	72	0	0	0	0	0
345	どたばた	159	0	0	0	0	0
346	びゅんびゅん	48	0	0	0	0	0
347	ちやらちやら	51	0	0	0	0	0
348	ちよこまか	29	0	0	0	0	0
349	べろべろ	45	0	0	0	0	0
350	がぶがぶ	44	0	0	0	0	0
351	ぼんぼん	181	0	0	0	0	0
352	むにやむにや	36	0	0	0	0	0
353	ねちねち	47	0	0	0	0	0
354	ほやはや	44	0	0	0	0	0
355	むんむん	60	0	0	0	0	0
356	じくじく	35	0	0	0	0	0
357	なよなよ	26	0	0	0	0	0
358	ペろペろ	75	0	0	0	0	0
359	かたかた	133	0	0	0	0	0
360	がちがち	102	0	0	0	0	0
361	こりこり	48	0	0	0	0	0
362	ばさばさ	115	0	0	0	0	0
363	ふかふか	111	0	0	0	0	0
364	ペちゃくちや	34	0	0	0	0	0
365	しゃきしゃき	107	0	0	0	0	0
366	にたにた	44	0	0	0	0	0
367	ぱりぱり	121	0	0	0	0	0
368	ふちふち	182	0	0	0	0	0
369	むしやむしや	59	0	0	0	0	0
370	ざくざく	66	0	0	0	0	0
371	ずけずけ	35	0	0	0	0	0
372	ちろちろ	40	0	0	0	0	0
373	ペちゃんこ	29	0	0	0	0	0
374	こちよこちよ	27	0	0	0	0	0
375	しつぼり	19	0	0	0	0	0
376	つんつん	57	0	0	0	0	0

377	どかどか	35	0	0	0	0	0
378	ぬめぬめ	28	0	0	0	0	0
379	へたへた	19	0	0	0	0	0
380	かさこそ	28	0	0	0	0	0
381	ずらずら	25	0	0	0	0	0
382	ずんぐりむっくり	18	0	0	0	0	0
383	どたどた	46	0	0	0	0	0
384	ぺたぺた	42	0	0	0	0	0
385	へべれけ	25	0	0	0	0	0
386	ぎすぎす	46	0	0	0	0	0
387	けちけち	57	0	0	0	0	0
388	しこしこ	45	0	0	0	0	0
389	てらてら	24	0	0	0	0	0
390	ひよいひよい	21	0	0	0	0	0
391	ひよこひよこ	23	0	0	0	0	0
392	ぼりぼり	43	0	0	0	0	0
393	ぐうぐう	25	0	0	0	0	0
394	ごりごり	58	0	0	0	0	0
395	そよそよ	15	0	0	0	0	0
396	のらくら	16	0	0	0	0	0
397	ぼっかり	41	0	0	0	0	0
398	ぼやぼや	25	0	0	0	0	0
399	がちゃがちゃ	110	0	0	0	0	0
400	こせこせ	16	0	0	0	0	0
401	こてこて	42	0	0	0	0	0
402	ごとごと	36	0	0	0	0	0
403	さやさや	14	0	0	0	0	0
404	によろによろ	19	0	0	0	0	0
405	みっしり	13	0	0	0	0	0
406	もさもさ	15	0	0	0	0	0
407	がさごそ	33	0	0	0	0	0
408	がっぷり	13	0	0	0	0	0
409	べちゃべちゃ	17	0	0	0	0	0
410	もしやもしや	18	0	0	0	0	0
411	きんきん	59	0	0	0	0	0
412	ごほごほ	33	0	0	0	0	0
413	じやりじやり	27	0	0	0	0	0
414	すうすう	60	0	0	0	0	0

415	すぱすぱ	34	0	0	0	0	0
416	ぼたぼた	20	0	0	0	0	0
417	でれでれ	31	0	0	0	0	0
418	ぐしょぐしょ	12	0	0	0	0	0
419	ごによごによ	16	0	0	0	0	0
420	みしみし	25	0	0	0	0	0
421	うはうは	39	0	0	0	0	0
422	うらうら	9	0	0	0	0	0
423	ぐでんぐでん	15	0	0	0	0	0
424	ぐんにやり	12	0	0	0	0	0
425	しおしお	9	0	0	0	0	0
426	すたこら	17	0	0	0	0	0
427	ぶうぶう	14	0	0	0	0	0
428	むちむち	28	0	0	0	0	0
429	ねとねと	11	0	0	0	0	0
430	ぶちぶち	16	0	0	0	0	0
431	めりめり	27	0	0	0	0	0
432	がたびし	17	0	0	0	0	0
433	きちきち	17	0	0	0	0	0
434	ぎょろぎょろ	17	0	0	0	0	0
435	ざぶざぶ	13	0	0	0	0	0
436	しゃんしゃん	33	0	0	0	0	0
437	だくだく	10	0	0	0	0	0
438	ぶすぶす	19	0	0	0	0	0
439	ふつくり	5	0	0	0	0	0
440	ほこほこ	8	0	0	0	0	0
441	ゆさゆさ	13	0	0	0	0	0
442	がしゃがしゃ	20	0	0	0	0	0
443	しゃなりしゃなり	8	0	0	0	0	0
444	ずばずば	22	0	0	0	0	0
445	ぴょこぴょこ	13	0	0	0	0	0
446	へどもど	10	0	0	0	0	0
447	ぼちやぼちや	9	0	0	0	0	0
448	がたごと	23	0	0	0	0	0
449	くさくさ	9	0	0	0	0	0
450	ぐたぐた	11	0	0	0	0	0
451	くにやくにや	6	0	0	0	0	0
452	じとじと	10	0	0	0	0	0

453	つけつけ	6	0	0	0	0	0
454	ばかばか	18	0	0	0	0	0
455	ばきばき	26	0	0	0	0	0
456	びちゃびちゃ	16	0	0	0	0	0
457	みりみり	6	0	0	0	0	0
458	かちやかちや	45	0	0	0	0	0
459	どさどさ	7	0	0	0	0	0
460	ぼきぼき	26	0	0	0	0	0
461	しなしな	9	0	0	0	0	0
462	ペりペり	4	0	0	0	0	0
463	ぼてぼて	13	0	0	0	0	0
464	むきむき	19	0	0	0	0	0
465	れれろろ	1	0	0	0	0	0
466	ぎとぎと	13	0	0	0	0	0
467	ぎんぎん	30	0	0	0	0	0
468	ぐうすか	2	0	0	0	0	0
469	しんねりむつり	2	0	0	0	0	0
470	つんけん	8	0	0	0	0	0
471	ばちやばちや	6	0	0	0	0	0
472	べろんべろん	13	0	0	0	0	0
473	ちよきちよき	16	0	0	0	0	0
474	ぱきぱき	8	0	0	0	0	0
475	べりべり	6	0	0	0	0	0
476	ぽいぽい	13	0	0	0	0	0
477	ぼそぼそ	3	0	0	0	0	0
478	ちょくちょく	198	0	0	0	0	0
479	ちょいちょい	90	0	0	0	0	0
480	ほんのり	349	0	0	0	0	0

付録3. オノマトペ (ひらがな・カタカナ) + (と) 「し」

	オノマトペ	総数	ひらがな		カタカナ		合計
			とし	し	とし	し	
1	ほつ	2511	310	0	146	0	456
2	はつきり	10440	0	277	2	47	326
3	どきどき	1188	0	65	0	142	207
4	いらいら	1554	0	51	0	142	193
5	すつきり	1953	0	65	3	101	169
6	がっかり	967	0	109	0	57	166
7	にっこり	914	0	100	0	12	112
8	わくわく	897	0	38	0	69	107
9	うろうろ	596	0	51	0	36	87
10	ごろごろ	687	0	37	1	42	80
11	うんざり	723	0	64	0	13	77
12	にこにこ	978	0	29	0	47	76
13	しっかり	9824	0	65	0	7	72
14	にやにや	442	0	29	0	33	62
15	くらくら	477	0	38	0	21	59
16	うずうず	119	0	40	0	16	56
17	ぐずぐず	338	0	40	0	8	48
18	ぼんやり	1684	0	42	0	5	47
19	ぴりぴり	214	0	16	0	29	45
20	そわそわ	190	0	32	0	12	44
21	うとうと	311	0	30	0	13	43
22	びくびく	256	0	27	0	14	41
23	ふらふら	612	0	23	0	17	40
24	のんびり	1739	0	32	0	6	38
25	ぐったり	503	0	28	0	9	37
26	ばたばた	616	0	8	0	27	35
27	ぞくぞく	247	0	25	0	10	35
28	はらはら	338	0	11	0	24	35
29	ぎくしゃく	180	0	12	0	22	34
30	うきうき	218	0	20	0	13	33
31	どぎまぎ	107	0	25	0	7	32
32	うつとり	495	0	28	0	3	31
33	ぴんぴん	101	0	13	0	18	31
34	きらきら	968	0	10	0	20	30

35	もじもじ	136	0	23	0	7	30
36	あっさり	1533	0	28	0	1	29
37	おろおろ	171	0	14	0	15	29
38	にんまり	144	0	21	0	8	29
39	ひやひや	109	0	13	0	16	29
40	さっぱり	1770	0	18	0	10	28
41	しっとり	655	0	25	0	2	27
42	むかむか	111	0	12	0	15	27
43	かつ	551	2	0	25	0	27
44	がっかり	306	0	16	0	9	25
45	ぶらぶら	593	0	13	0	11	24
46	やきもき	86	0	16	0	8	24
47	べたべた	224	0	11	0	11	22
48	きょろきょろ	242	0	9	0	11	20
49	ひりひり	139	0	8	0	12	20
50	しょんぼり	117	0	17	1	1	19
51	むずむず	91	0	6	0	13	19
52	だらだら	521	0	7	0	11	18
53	おどおど	140	0	9	0	8	17
54	がっしり	252	0	16	0	0	16
55	かつか	147	0	7	0	9	16
56	もやもや	257	0	9	0	6	15
57	くよくよ	197	0	8	0	7	15
58	ちくちく	155	0	7	0	8	15
59	ひっそり	627	0	14	0	0	14
60	げんなり	68	0	10	1	3	14
61	うかうか	62	0	12	0	2	14
62	ずきずき	96	0	3	0	11	14
63	ぴったり	2238	0	12	0	1	13
64	ふっくら	394	0	13	0	0	13
65	うるうる	88	0	6	0	7	13
66	ざわざわ	162	0	9	0	3	12
67	うようよ	74	0	8	0	4	12
68	うろちょろ	41	0	10	0	2	12
69	いちやいちや	62	0	3	0	9	12
70	ゆっくり	8184	0	10	0	1	11
71	きっちり	965	0	8	0	3	11
72	ふわふわ	510	0	7	0	4	11

73	ひんやり	278	0	11	0	0	11
74	ちらちら	336	0	8	0	3	11
75	つやつや	170	0	8	0	3	11
76	ぽかぽか	202	0	4	0	7	11
77	ぱさぱさ	115	0	0	0	11	11
78	がっかり	377	0	6	0	4	10
79	ぐらぐら	195	0	5	0	5	10
80	うつらうつら	74	0	8	0	2	10
81	ぶりぶり	128	0	7	0	3	10
82	ぎすぎす	46	0	3	0	7	10
83	おっとり	156	0	8	0	1	9
84	ごたごた	209	0	6	0	3	9
85	むしやくしや	54	0	6	0	3	9
86	むんむん	60	1	3	0	5	9
87	うっかり	808	0	8	0	0	8
88	どんより	263	0	6	1	1	8
89	こそこそ	221	0	6	0	2	8
90	ほっこり	67	0	7	0	1	8
91	めそめそ	69	0	6	0	2	8
92	ぱちくり	76	1	4	0	3	8
93	へらへら	67	0	6	0	2	8
94	まごまご	40	0	7	0	1	8
95	くつきり	552	0	7	0	0	7
96	じめじめ	517	0	6	0	1	7
97	じりじり	310	0	6	0	1	7
98	しんみり	116	0	5	1	1	7
99	すべすべ	132	0	6	0	1	7
100	こっくり	129	0	6	0	1	7
101	ごしごし	179	0	0	0	7	7
102	ぬるぬる	149	0	3	0	4	7
103	じたばた	110	0	2	0	5	7
104	げっそり	63	0	7	0	0	7
105	ぴくぴく	114	0	1	0	6	7
106	うだうだ	49	0	4	0	3	7
107	てかてか	65	0	4	0	3	7
108	さらさら	626	0	5	0	1	6
109	ほっそり	242	0	5	0	1	6
110	つるつる	348	0	4	0	2	6

111	どろどろ	330	0	2	0	4	6
112	ざらざら	163	0	4	0	2	6
113	ぎらぎら	213	0	3	0	3	6
114	がくがく	190	0	0	0	6	6
115	もたもた	106	0	4	0	2	6
116	ひくひく	112	0	4	0	2	6
117	ペこペこ	136	0	2	0	4	6
118	ほくほく	123	0	4	0	2	6
119	きっぱり	785	0	5	0	0	5
120	ふんわり	363	0	5	0	0	5
121	ひらひら	288	0	3	0	2	5
122	よろよろ	210	0	3	0	2	5
123	ころころ	375	0	0	0	5	5
124	きびきび	178	0	2	0	3	5
125	くねくね	164	0	3	0	2	5
126	ごつごつ	180	0	4	0	1	5
127	ぬくぬく	102	0	3	1	1	5
128	あくせく	67	0	5	0	0	5
129	かさかさ	175	0	4	0	1	5
130	がつがつ	128	0	1	0	4	5
131	ぴちぴち	93	0	3	0	2	5
132	どたばた	159	0	0	0	5	5
133	でれでれ	31	0	1	1	3	5
134	いらっしゃ	29	2	0	3	0	5
135	むかつ	32	0	0	4	0	4
136	ぐるぐる	796	0	2	0	2	4
137	がたがた	401	0	0	0	4	4
138	ぼっちやり	140	0	3	0	1	4
139	もちもち	125	0	2	0	2	4
140	ぐりぐり	116	0	2	0	2	4
141	ごわごわ	76	0	1	0	3	4
142	つんつん	57	0	1	0	3	4
143	こせこせ	16	0	4	0	0	4
144	じやりじやり	27	0	2	0	2	4
145	すうすう	60	1	1	0	2	4
146	ずるずる	397	0	2	0	1	3
147	ねっとり	203	0	3	0	0	3
148	いそいそ	143	0	1	0	2	3

149	ぼそぼそ	168	0	1	0	2	3
150	ちやほや	114	0	1	0	2	3
151	もじやもじや	71	0	0	0	3	3
152	がやがや	111	0	1	0	2	3
153	しょぼしょぼ	60	0	2	0	1	3
154	かりかり	311	0	1	0	2	3
155	くんくん	112	0	1	0	2	3
156	ひょろひょろ	56	0	2	0	1	3
157	もっさり	36	0	3	0	0	3
158	ちかちか	71	0	0	0	3	3
159	じくじく	35	0	1	0	2	3
160	けちけち	57	0	0	0	3	3
161	ぼやぼや	25	0	2	0	1	3
162	くさくさ	9	0	3	0	0	3
163	ゆらゆら	277	0	2	0	0	2
164	のろのろ	290	0	1	0	1	2
165	こんもり	138	0	2	0	0	2
166	ぴかぴか	410	0	0	0	2	2
167	ぶくぶく	186	0	2	0	0	2
168	ぱらぱら	338	0	0	0	2	2
169	よれよれ	122	0	2	0	0	2
170	きりきり	123	0	1	0	1	2
171	ぱっちり	115	0	1	0	1	2
172	ちょろちょろ	111	0	1	0	1	2
173	びりびり	120	0	1	0	1	2
174	ペらペら	185	0	0	0	2	2
175	くりくり（目）	82	0	1	0	1	2
176	どくどく	87	0	1	0	1	2
177	ねばねば	112	0	2	0	0	2
178	じんじん	70	0	2	0	0	2
179	のらりくらり	45	0	1	0	1	2
180	うねうね	44	0	2	0	0	2
181	さばさば	70	0	0	0	2	2
182	ぐにやぐにや	59	1	1	0	0	2
183	ぽってり	46	2	0	0	0	2
184	ぶるぶる	103	0	1	0	1	2
185	がさがさ	108	0	0	0	2	2
186	うじうじ	54	0	2	0	0	2

187	ちりちり	77	0	2	0	0	2
188	ふにやふにや	48	0	1	0	1	2
189	ぼこぼこ	153	0	1	0	1	2
190	おちおち	32	0	2	0	0	2
191	ぶかぶか	50	0	0	0	2	2
192	ちゃらちやら	51	0	2	0	0	2
193	しゃきしゃき	107	0	1	0	1	2
194	にたにた	44	0	0	0	2	2
195	もさもさ	15	0	1	0	1	2
196	がさごそ	33	0	0	0	2	2
197	むちむち	28	0	0	0	2	2
198	へどもど	10	0	2	0	0	2
199	くにやくにや	6	0	2	0	0	2
200	ぎとぎと	13	0	0	0	2	2
201	たっぷり	3567	0	2	0	0	2
202	のうのう	53	2	0	0	0	2
203	ぎりぎり	1437	0	0	0	1	1
204	すんなり	454	0	1	0	0	1
205	くるくる	607	0	1	0	0	1
206	ばったり	353	0	1	0	0	1
207	じわじわ	334	0	1	0	0	1
208	どっしり	233	0	1	0	0	1
209	おずおず	227	0	1	0	0	1
210	まるまる	201	0	1	0	0	1
211	しんなり	200	0	1	0	0	1
212	やんわり	180	0	1	0	0	1
213	するする	241	0	1	0	0	1
214	ぱくぱく	288	0	1	0	0	1
215	ぶるぶる	355	0	0	0	1	1
216	ずんぐり	155	0	1	0	0	1
217	こってり	139	0	0	0	1	1
218	むつつり	139	0	0	0	1	1
219	とんとん	440	0	1	0	0	1
220	ずっしり	128	0	1	0	0	1
221	とろとろ	206	0	1	0	0	1
222	ぽつぽつ	191	0	0	0	1	1
223	ほんほん	307	0	0	0	1	1
224	むちやくちや	148	0	0	0	1	1

225	もうもう	100	0	0	1	0	1
226	がんがん	471	0	1	0	0	1
227	ぱちぱち	324	0	0	0	1	1
228	かんかん	242	0	0	0	1	1
229	ふかふか	113	0	0	0	1	1
230	がらがら	375	0	1	0	0	1
231	ごそごそ	140	0	0	0	1	1
232	すっぱり	85	0	1	0	0	1
233	ぼつぼつ	91	0	0	0	1	1
234	ぴょんぴょん	118	0	1	0	0	1
235	もごもご	76	0	1	0	0	1
236	ぐうたら	61	0	1	0	0	1
237	べつとり	74	0	1	0	0	1
238	ぎざぎざ	144	0	1	0	0	1
239	のっぺり	57	0	1	0	0	1
240	さくさく	264	0	0	0	1	1
241	はきはき	85	0	1	0	0	1
242	よたよた	78	0	0	0	1	1
243	ぱんぱん	293	0	0	0	1	1
244	ぼさぼさ	90	0	1	0	0	1
245	ぱたぱた	135	0	0	0	1	1
246	ぶよぶよ	61	0	0	0	1	1
247	むっちり	52	0	0	1	0	1
248	べとべと	77	0	0	0	1	1
249	わなわな	43	0	1	0	0	1
250	しゃあしゃあ	39	1	0	0	0	1
251	ばさばさ	71	0	1	0	0	1
252	ちよこまか	29	0	1	0	0	1
253	べろべろ	45	0	0	0	1	1
254	ぼんぼん	181	0	0	0	1	1
255	むにゃむにゃ	36	0	1	0	0	1
256	じやらじやら	56	0	0	0	1	1
257	ねちねち	47	0	1	0	0	1
258	なよなよ	26	0	1	0	0	1
259	ぺろぺろ	75	0	0	0	1	1
260	こりこり	48	0	0	0	1	1
261	ふかふか	111	0	0	0	1	1
262	ぱりぱり	121	0	0	0	1	1

263	こちょこちょ	27	0	1	0	0	1
264	ずんぐりむっくり	18	0	1	0	0	1
265	どたどた	46	0	0	0	1	1
266	しこしこ	45	0	0	0	1	1
267	ひょこひょこ	23	0	0	0	1	1
268	がちゃがちゃ	110	0	0	1	0	1
269	こてこて	42	0	0	0	1	1
270	きょときょと	13	0	1	0	0	1
271	ぐんにやり	12	0	1	0	0	1
272	ぬらぬら	14	0	0	0	1	1
273	がたびし	17	0	0	0	1	1
274	ぎょろぎょろ	17	0	0	0	1	1
275	ぱちゃぱちゃ	9	0	1	0	0	1
276	じとじと	10	0	0	0	1	1
277	しなしな	9	0	0	0	1	1
278	ぼてぼて	13	0	1	0	0	1
279	つんけん	8	0	0	0	1	1
280	ぽいぽい	13	0	0	0	1	1
281	むしやむしや	59	0	0	0	0	0
282	べらべら	91	0	0	0	0	0
283	どんどん	5302	0	0	0	0	0
284	そろそろ	3020	0	0	0	0	0
285	ずんずん	144	0	0	0	0	0
286	くどくど	118	0	0	0	0	0
287	じっくり	1549	0	0	0	0	0
288	こっそり	1024	0	0	0	0	0
289	ちょっぴり	604	0	0	0	0	0
290	ばらばら	1302	0	0	0	0	0
291	うっすら	474	0	0	0	0	0
292	ぶつぶつ	575	0	0	0	0	0
293	ぎっしり	377	0	0	0	0	0
294	ぐっすり	366	0	0	0	0	0
295	ぼろぼろ	710	0	0	0	0	0
296	まじまじ	249	0	0	0	0	0
297	ぐんぐん	282	0	0	0	0	0
298	そそくさ	204	0	0	0	0	0
299	からから	353	0	0	0	0	0
300	ごくごく	216	0	0	0	0	0

301	ちょこちょこ	217	0	0	0	0	0
302	めっきり	180	0	0	0	0	0
303	すくすく	181	0	0	0	0	0
304	ぞろぞろ	235	0	0	0	0	0
305	ひそひそ	207	0	0	0	0	0
306	ちらほら	225	0	0	0	0	0
307	こんがり	162	0	0	0	0	0
308	しげしげ	159	0	0	0	0	0
309	くしゃくしゃ	179	0	0	0	0	0
310	じろじろ	232	0	0	0	0	0
311	ひよっこり	147	0	0	0	0	0
312	どっさり	151	0	0	0	0	0
313	くたくた	215	0	0	0	0	0
314	びっしょり	144	0	0	0	0	0
315	まざまざ	134	0	0	0	0	0
316	すらすら	168	0	0	0	0	0
317	ぐいぐい	184	0	0	0	0	0
318	ざっくり	141	0	0	0	0	0
319	きつかり	115	0	0	0	0	0
320	ひたひた	141	0	0	0	0	0
321	なみなみ	104	0	0	0	0	0
322	どしどし	107	0	0	0	0	0
323	ずたずた	160	0	0	0	0	0
324	せかせか	100	0	0	0	0	0
325	みっちり	96	0	0	0	0	0
326	つかつか	104	0	0	0	0	0
327	やいやい	93	0	0	0	0	0
328	ちぐはぐ	115	0	0	0	0	0
329	へとへと	133	0	0	0	0	0
330	さっくり	136	0	0	0	0	0
331	もぞもぞ	100	0	0	0	0	0
332	ちびちび	109	0	0	0	0	0
333	ぱったり	102	0	0	0	0	0
334	しくしく	125	0	0	0	0	0
335	じつとり	82	0	0	0	0	0
336	こんこん	153	0	0	0	0	0
337	じゃんじゃん	105	0	0	0	0	0
338	もぐもぐ	113	0	0	0	0	0

339	ぼうぼう	78	0	0	0	0	0
340	ぐっしょり	70	0	0	0	0	0
341	すたすた	111	0	0	0	0	0
342	ぼろぼろ	174	0	0	0	0	0
343	でっぷり	67	0	0	0	0	0
344	ばんばん	290	0	0	0	0	0
345	とぼとぼ	100	0	0	0	0	0
346	ぶんぶん	133	0	0	0	0	0
347	すごすご	65	0	0	0	0	0
348	どっかり	70	0	0	0	0	0
349	よちよち	92	0	0	0	0	0
350	のっそり	62	0	0	0	0	0
351	ばっさり	113	0	0	0	0	0
352	あんぐり	60	0	0	0	0	0
353	ぽつりぽつり	97	0	0	0	0	0
354	たらたら	100	0	0	0	0	0
355	だぶだぶ	68	0	0	0	0	0
356	わんさか	70	0	0	0	0	0
357	ずかずか	66	0	0	0	0	0
358	ぱりぱり	497	0	0	0	0	0
359	びしょびしょ	74	0	0	0	0	0
360	むくむく	80	0	0	0	0	0
361	がりがり	252	0	0	0	0	0
362	しわくちや	53	0	0	0	0	0
363	ぬけぬけ	53	0	0	0	0	0
364	すやすや	81	0	0	0	0	0
365	すいすい	115	0	0	0	0	0
366	もりもり	93	0	0	0	0	0
367	ぐしゃぐしゃ	62	0	0	0	0	0
368	へなへな	58	0	0	0	0	0
369	ぐつぐつ	74	0	0	0	0	0
370	ぎしぎし	95	0	0	0	0	0
371	どやどや	53	0	0	0	0	0
372	ぶつくさ	46	0	0	0	0	0
373	ふつつり	44	0	0	0	0	0
374	くちゃくちゃ	54	0	0	0	0	0
375	たんまり	36	0	0	0	0	0
376	てくてく	74	0	0	0	0	0

377	とことこ	88	0	0	0	0	0
378	のそのそ	42	0	0	0	0	0
379	しとしと	44	0	0	0	0	0
380	たじたじ	55	0	0	0	0	0
381	つべこべ	35	0	0	0	0	0
382	めきめき	54	0	0	0	0	0
383	かちかち	167	0	0	0	0	0
384	がみがみ	70	0	0	0	0	0
385	ぼたぼた	64	0	0	0	0	0
386	しわしわ	55	0	0	0	0	0
387	ふうふう	45	0	0	0	0	0
388	ぼりぼり	81	0	0	0	0	0
389	おめおめ	45	0	0	0	0	0
390	めらめら	60	0	0	0	0	0
391	ペしゃんこ	45	0	0	0	0	0
392	こちこち	72	0	0	0	0	0
393	びゅんびゅん	48	0	0	0	0	0
394	がぶがぶ	44	0	0	0	0	0
395	ほやはや	44	0	0	0	0	0
396	かたかた	133	0	0	0	0	0
397	がちがち	102	0	0	0	0	0
398	ペちゃくちゃ	34	0	0	0	0	0
399	ぶちぶち	182	0	0	0	0	0
400	ざくざく	66	0	0	0	0	0
401	ずけずけ	35	0	0	0	0	0
402	ちろちろ	40	0	0	0	0	0
403	ペしゃんこ	29	0	0	0	0	0
404	しっぽり	19	0	0	0	0	0
405	どかどか	35	0	0	0	0	0
406	ぬめぬめ	28	0	0	0	0	0
407	へたへた	19	0	0	0	0	0
408	かさこそ	28	0	0	0	0	0
409	ずらずら	25	0	0	0	0	0
410	ぺたぺた	42	0	0	0	0	0
411	へべれけ	25	0	0	0	0	0
412	てらてら	24	0	0	0	0	0
413	ひよいひよい	21	0	0	0	0	0
414	ぼりぼり	43	0	0	0	0	0

415	ぐうぐう	25	0	0	0	0	0
416	ごりごり	58	0	0	0	0	0
417	そよそよ	15	0	0	0	0	0
418	のらくら	16	0	0	0	0	0
419	ぽつきり	41	0	0	0	0	0
420	ぐびぐび	23	0	0	0	0	0
421	ごとごと	36	0	0	0	0	0
422	さやさや	14	0	0	0	0	0
423	によろによろ	19	0	0	0	0	0
424	みっしり	13	0	0	0	0	0
425	がっぷり	13	0	0	0	0	0
426	べちゃべちゃ	17	0	0	0	0	0
427	もしやもしや	18	0	0	0	0	0
428	きんきん	59	0	0	0	0	0
429	ごほごほ	33	0	0	0	0	0
430	すばすば	34	0	0	0	0	0
431	ぼたぼた	20	0	0	0	0	0
432	ぐしょぐしょ	12	0	0	0	0	0
433	ごによごによ	16	0	0	0	0	0
434	みしみし	25	0	0	0	0	0
435	うはうは	39	0	0	0	0	0
436	うらうら	9	0	0	0	0	0
437	ぐでんぐでん	15	0	0	0	0	0
438	しおしお	9	0	0	0	0	0
439	すたこら	17	0	0	0	0	0
440	ぶうぶう	14	0	0	0	0	0
441	ねとねと	11	0	0	0	0	0
442	ぶちぶち	16	0	0	0	0	0
443	めりめり	27	0	0	0	0	0
444	きちきち	17	0	0	0	0	0
445	ざぶざぶ	13	0	0	0	0	0
446	しゃんしゃん	33	0	0	0	0	0
447	だくだく	10	0	0	0	0	0
448	ぶすぶす	19	0	0	0	0	0
449	ふつくり	5	0	0	0	0	0
450	ほこほこ	8	0	0	0	0	0
451	ゆさゆさ	13	0	0	0	0	0
452	がしゃがしゃ	20	0	0	0	0	0

453	しゃなりしゃなり	8	0	0	0	0	0
454	づばづば	22	0	0	0	0	0
455	ぴょこぴょこ	13	0	0	0	0	0
456	がたごと	23	0	0	0	0	0
457	ぐたぐた	11	0	0	0	0	0
458	つけつけ	6	0	0	0	0	0
459	ばかばか	18	0	0	0	0	0
460	ばきばき	26	0	0	0	0	0
461	びちやびちや	16	0	0	0	0	0
462	みりみり	6	0	0	0	0	0
463	かちやかちや	45	0	0	0	0	0
464	どさどさ	7	0	0	0	0	0
465	ぼきぼき	26	0	0	0	0	0
466	ペりペり	4	0	0	0	0	0
467	むきむき	19	0	0	0	0	0
468	れろれろ	1	0	0	0	0	0
469	ぎんぎん	30	0	0	0	0	0
470	ぐうすか	2	0	0	0	0	0
471	しんねりむつり	2	0	0	0	0	0
472	ばちやばちや	6	0	0	0	0	0
473	べろんべろん	13	0	0	0	0	0
474	ちょきちょき	16	0	0	0	0	0
475	ぱきぱき	8	0	0	0	0	0
476	べりべり	6	0	0	0	0	0
477	ぼそぼそ	3	0	0	0	0	0
478	ちょくちょく	198	0	0	0	0	0
479	ちょいちょい	90	0	0	0	0	0
480	ほんのり	349	0	0	0	0	0

付録4. オノマトペ (ひらがな・カタカナ) + (と) 「する」

	オノマトペ	総数	ひらがな		カタカナ		合計
			とする	する	とする	する	
1	ほつ	2511	89	0	55	0	144
2	はつきり	10440	0	45	0	5	50
3	いらいら	1554	0	9	0	34	43
4	がっかり	967	0	26	0	12	38
5	すつきり	1953	0	17	0	16	33
6	どきどき	1188	0	16	0	14	30
7	ぞくぞく	247	0	13	0	9	22
8	わくわく	897	0	8	0	13	21
9	くらくら	477	0	16	0	4	20
10	うんざり	723	0	16	0	1	17
11	ふらふら	612	0	6	0	11	17
12	むかむか	111	1	6	0	6	13
13	ぐずぐず	338	0	11	0	1	12
14	くよくよ	197	0	10	0	2	12
15	しつかり	9824	0	11	0	0	11
16	さっぱり	1770	0	8	0	2	10
17	おろおろ	171	0	6	0	4	10
18	ひりひり	139	0	6	0	3	9
19	かつか	147	0	5	0	3	8
20	めそめそ	69	0	7	0	1	8
21	ぴったり	2238	0	7	0	0	7
22	はらはら	338	0	1	0	6	7
23	ぎくしゃく	180	0	4	0	3	7
24	むずむず	91	0	5	0	2	7
25	のんびり	1739	0	6	0	0	6
26	うつとり	495	0	3	0	3	6
27	うろうろ	596	0	5	0	1	6
28	ごろごろ	687	0	2	2	2	6
29	もたもた	106	0	6	0	0	6
30	ちくちく	155	0	3	0	3	6
31	ひやひや	109	0	5	0	1	6
32	ぐったり	503	0	5	0	0	5
33	にやにや	442	0	3	0	2	5
34	ばたばた	616	0	0	0	5	5

35	ぐらぐら	195	0	5	0	0	5
36	すうすう	60	0	1	0	4	5
37	ゅっくり	8184	0	4	0	0	4
38	しっとり	655	0	4	0	0	4
39	うとうと	311	0	3	0	1	4
40	びくびく	256	0	1	0	3	4
41	きょろきょろ	242	0	1	0	3	4
42	がんがん	471	0	4	0	0	4
43	うずうず	119	0	1	0	3	4
44	ぴりぴり	214	0	1	0	3	4
45	げんなり	68	0	4	0	0	4
46	ずきずき	96	0	0	0	4	4
47	ちりちり	77	0	3	0	1	4
48	ぼんやり	1684	0	3	0	0	3
49	ぶらぶら	593	0	3	0	0	3
50	にこにこ	978	0	0	0	3	3
51	うきうき	218	0	1	0	2	3
52	べたべた	224	0	0	0	3	3
53	にんまり	144	0	3	0	0	3
54	がくがく	190	0	0	0	3	3
55	どぎまぎ	107	0	2	0	1	3
56	じんじん	70	0	1	0	2	3
57	むしやくしや	54	0	1	0	2	3
58	いちやいちや	62	0	2	0	1	3
59	にっこり	914	0	0	0	2	2
60	ぐるぐる	796	0	1	0	1	2
61	ふわふわ	510	0	2	0	0	2
62	ちらちら	336	0	1	0	1	2
63	がっくり	306	0	2	0	0	2
64	ぱくぱく	288	0	0	0	2	2
65	ざわざわ	162	0	1	0	1	2
66	ちやほや	114	0	1	0	1	2
67	きりきり	123	0	2	0	0	2
68	ほっこり	67	0	2	0	0	2
69	ぶりぶり	128	0	2	0	0	2
70	ぱちくり	76	0	2	0	0	2
71	かりかり	311	0	1	0	1	2
72	べとべと	77	0	0	0	2	2

73	ちかちか	71	0	0	0	2	2
74	こせこせ	16	0	1	0	1	2
75	くさくさ	9	0	1	0	1	2
76	むかつ	32	0	0	1	0	1
77	あっさり	1533	0	1	0	0	1
78	ひっそり	627	0	1	0	0	1
79	じめじめ	517	0	0	0	1	1
80	きらきら	968	0	0	0	1	1
81	じりじり	310	0	1	0	0	1
82	のろのろ	290	0	1	0	0	1
83	よろよろ	210	0	1	0	0	1
84	つるつる	348	0	0	0	1	1
85	もやもや	257	0	0	0	1	1
86	ぶるぶる	355	0	0	0	1	1
87	こそこそ	221	0	1	0	0	1
88	ころころ	375	0	0	0	1	1
89	そわそわ	190	0	1	0	0	1
90	ごたごた	209	0	1	0	0	1
91	おどおど	140	0	1	0	0	1
92	ぽんぽん	307	0	1	0	0	1
93	ぱちぱち	324	0	0	0	1	1
94	ごしごし	179	0	0	0	1	1
95	じっとり	82	0	1	0	0	1
96	あくせく	67	0	1	0	0	1
97	ぺこぺこ	136	0	0	0	1	1
98	うつらうつら	74	0	0	0	1	1
99	もごもご	76	0	1	0	0	1
100	かさかさ	175	0	0	0	1	1
101	げっそり	63	0	0	0	1	1
102	がりがり	252	0	0	0	1	1
103	ねばねば	112	0	0	0	1	1
104	ぴんぴん	101	0	0	0	1	1
105	くちゃくちゃ	54	0	1	0	0	1
106	まごまご	40	0	1	0	0	1
107	どたばた	159	0	1	0	0	1
108	ちよこまか	29	0	1	0	0	1
109	むんむん	60	0	1	0	0	1
110	なよなよ	26	0	1	0	0	1

111	けちけち	57	0	0	0	1	1
112	ぼやぼや	25	0	1	0	0	1
113	いらっしゃ	29	0	0	1	0	1
114	かつ	551	1	0	0	0	1
115	かんかん	242	0	0	0	0	0
116	ざっくくり	141	0	0	0	0	0
117	むしやむしや	59	0	0	0	0	0
118	どんどん	5302	0	0	0	0	0
119	たっぷり	3567	0	0	0	0	0
120	そろそろ	3020	0	0	0	0	0
121	じっくり	1549	0	0	0	0	0
122	こっそり	1024	0	0	0	0	0
123	きっちり	965	0	0	0	0	0
124	うっかり	808	0	0	0	0	0
125	ぎりぎり	1437	0	0	0	0	0
126	きっぱり	785	0	0	0	0	0
127	ちよっぴり	604	0	0	0	0	0
128	ばらばら	1302	0	0	0	0	0
129	くつきり	552	0	0	0	0	0
130	うっすら	474	0	0	0	0	0
131	すんなり	454	0	0	0	0	0
132	くるくる	607	0	0	0	0	0
133	ふくくら	394	0	0	0	0	0
134	ふんわり	363	0	0	0	0	0
135	ぶつぶつ	575	0	0	0	0	0
136	ぎっしり	377	0	0	0	0	0
137	ぐっすり	366	0	0	0	0	0
138	さらさら	626	0	0	0	0	0
139	ばったり	353	0	0	0	0	0
140	だらだら	521	0	0	0	0	0
141	がっかり	377	0	0	0	0	0
142	じわじわ	334	0	0	0	0	0
143	ひんやり	278	0	0	0	0	0
144	ぼろぼろ	710	0	0	0	0	0
145	ずるずる	397	0	0	0	0	0
146	どんより	263	0	0	0	0	0
147	ゆらゆら	277	0	0	0	0	0
148	ほっそり	242	0	0	0	0	0

149	がっしり	252	0	0	0	0	0
150	まじまじ	249	0	0	0	0	0
151	どっしり	233	0	0	0	0	0
152	ぐんぐん	282	0	0	0	0	0
153	おずおず	227	0	0	0	0	0
154	ひらひら	288	0	0	0	0	0
155	そそくさ	204	0	0	0	0	0
156	まるまる	201	0	0	0	0	0
157	しんなり	200	0	0	0	0	0
158	からから	353	0	0	0	0	0
159	ごくごく	216	0	0	0	0	0
160	ちよこちよこ	217	0	0	0	0	0
161	めつきり	180	0	0	0	0	0
162	やんわり	180	0	0	0	0	0
163	するする	241	0	0	0	0	0
164	すくすく	181	0	0	0	0	0
165	ぞろぞろ	235	0	0	0	0	0
166	ひそひそ	207	0	0	0	0	0
167	ちらほら	225	0	0	0	0	0
168	こんがり	162	0	0	0	0	0
169	しげしげ	159	0	0	0	0	0
170	おっとり	156	0	0	0	0	0
171	ずんぐり	155	0	0	0	0	0
172	くしゃくしゃ	179	0	0	0	0	0
173	じろじろ	232	0	0	0	0	0
174	ひよっこり	147	0	0	0	0	0
175	どっさり	151	0	0	0	0	0
176	くたくた	215	0	0	0	0	0
177	ねっとり	203	0	0	0	0	0
178	こってり	139	0	0	0	0	0
179	どろどろ	330	0	0	0	0	0
180	がたがた	401	0	0	0	0	0
181	こんもり	138	0	0	0	0	0
182	いそいそ	143	0	0	0	0	0
183	びっしょり	144	0	0	0	0	0
184	ぴかぴか	410	0	0	0	0	0
185	まざまざ	134	0	0	0	0	0
186	むつり	139	0	0	0	0	0

187	ぶくぶく	186	0	0	0	0	0
188	きびきび	178	0	0	0	0	0
189	くねくね	164	0	0	0	0	0
190	すらすら	168	0	0	0	0	0
191	とんとん	440	0	0	0	0	0
192	つやつや	170	0	0	0	0	0
193	ぐいぐい	184	0	0	0	0	0
194	ぱらぱら	338	0	0	0	0	0
195	ずっしり	128	0	0	0	0	0
196	ずんずん	144	0	0	0	0	0
197	しょんぼり	117	0	0	0	0	0
198	ぼっちゃり	140	0	0	0	0	0
199	きっかり	115	0	0	0	0	0
200	ひたひた	141	0	0	0	0	0
201	くどくど	118	0	0	0	0	0
202	ざらざら	163	0	0	0	0	0
203	しんみり	116	0	0	0	0	0
204	すべすべ	132	0	0	0	0	0
205	なみなみ	104	0	0	0	0	0
206	とろとろ	206	0	0	0	0	0
207	ぽつぽつ	191	0	0	0	0	0
208	ぼそぼそ	168	0	0	0	0	0
209	むちやくちや	148	0	0	0	0	0
210	ごつごつ	180	0	0	0	0	0
211	どしどし	107	0	0	0	0	0
212	ぎらぎら	213	0	0	0	0	0
213	もじもじ	136	0	0	0	0	0
214	ずたずた	160	0	0	0	0	0
215	せかせか	100	0	0	0	0	0
216	ぬくぬく	102	0	0	0	0	0
217	もうもう	100	0	0	0	0	0
218	みっぢり	96	0	0	0	0	0
219	つかつか	104	0	0	0	0	0
220	ぽかぽか	202	0	0	0	0	0
221	こっくり	129	0	0	0	0	0
222	やいやい	93	0	0	0	0	0
223	ちぐはぐ	115	0	0	0	0	0
224	へとへと	133	0	0	0	0	0

225	よれよれ	122	0	0	0	0	0
226	さっくり	136	0	0	0	0	0
227	もぞもぞ	100	0	0	0	0	0
228	ちびちび	109	0	0	0	0	0
229	ぱったり	102	0	0	0	0	0
230	ふかふか	113	0	0	0	0	0
231	しくしく	125	0	0	0	0	0
232	がらがら	375	0	0	0	0	0
233	ごそごそ	140	0	0	0	0	0
234	こんこん	153	0	0	0	0	0
235	ぬるぬる	149	0	0	0	0	0
236	じたばた	110	0	0	0	0	0
237	ひくひく	112	0	0	0	0	0
238	じょんじょん	105	0	0	0	0	0
239	すっぽり	85	0	0	0	0	0
240	ぼつぼつ	91	0	0	0	0	0
241	もぐもぐ	113	0	0	0	0	0
242	ぼうぼう	78	0	0	0	0	0
243	やきもき	86	0	0	0	0	0
244	ぐっしょり	70	0	0	0	0	0
245	すたすた	111	0	0	0	0	0
246	ぼろぼろ	174	0	0	0	0	0
247	でっぷり	67	0	0	0	0	0
248	ばんばん	290	0	0	0	0	0
249	とぼとぼ	100	0	0	0	0	0
250	ぴょんぴょん	118	0	0	0	0	0
251	ぶんぶん	133	0	0	0	0	0
252	もちもち	125	0	0	0	0	0
253	すごすご	65	0	0	0	0	0
254	どっかり	70	0	0	0	0	0
255	ぱっちり	115	0	0	0	0	0
256	よちよち	92	0	0	0	0	0
257	ちよろちよろ	111	0	0	0	0	0
258	のっそり	62	0	0	0	0	0
259	ばっさり	113	0	0	0	0	0
260	あんぐり	60	0	0	0	0	0
261	ほくほく	123	0	0	0	0	0
262	ぱつりぱつり	97	0	0	0	0	0

263	うようよ	74	0	0	0	0	0
264	ぐうたら	61	0	0	0	0	0
265	べっとり	74	0	0	0	0	0
266	もじやもじや	71	0	0	0	0	0
267	うかうか	62	0	0	0	0	0
268	たらたら	100	0	0	0	0	0
269	びりびり	120	0	0	0	0	0
270	ぎざぎざ	144	0	0	0	0	0
271	がやがや	111	0	0	0	0	0
272	だぶだぶ	68	0	0	0	0	0
273	のっぺり	57	0	0	0	0	0
274	わんさか	70	0	0	0	0	0
275	がつがつ	128	0	0	0	0	0
276	さくさく	264	0	0	0	0	0
277	ずかずか	66	0	0	0	0	0
278	はきはき	85	0	0	0	0	0
279	ぱりぱり	497	0	0	0	0	0
280	びしょびしょ	74	0	0	0	0	0
281	むくむく	80	0	0	0	0	0
282	ぐりぐり	116	0	0	0	0	0
283	しわくちゃ	53	0	0	0	0	0
284	よたよた	78	0	0	0	0	0
285	のうのう	53	1	0	0	0	1
286	ペらペら	185	0	0	0	0	0
287	ぬけぬけ	53	0	0	0	0	0
288	べらべら	91	0	0	0	0	0
289	うるうる	88	0	0	0	0	0
290	くりくり（目）	82	0	0	0	0	0
291	すやすや	81	0	0	0	0	0
292	どくどく	87	0	0	0	0	0
293	しょぼしょぼ	60	0	0	0	0	0
294	すいすい	115	0	0	0	0	0
295	ぱんぱん	293	0	0	0	0	0
296	ぼさぼさ	90	0	0	0	0	0
297	ごわごわ	76	0	0	0	0	0
298	もりもり	93	0	0	0	0	0
299	ぐしゃぐしゃ	62	0	0	0	0	0
300	くんくん	112	0	0	0	0	0

301	ぱたぱた	135	0	0	0	0	0
302	ぴくぴく	114	0	0	0	0	0
303	ひょろひょろ	56	0	0	0	0	0
304	へなへな	58	0	0	0	0	0
305	ぐつぐつ	74	0	0	0	0	0
306	のらりくらり	45	0	0	0	0	0
307	ぶよぶよ	61	0	0	0	0	0
308	うねうね	44	0	0	0	0	0
309	さばさば	70	0	0	0	0	0
310	むっちり	52	0	0	0	0	0
311	ぐにやぐにや	59	0	0	0	0	0
312	ぎしぎし	95	0	0	0	0	0
313	どやどや	53	0	0	0	0	0
314	ぶつくさ	46	0	0	0	0	0
315	ぶつつり	44	0	0	0	0	0
316	へらへら	67	0	0	0	0	0
317	ぱってり	46	0	0	0	0	0
318	たんまり	36	0	0	0	0	0
319	てくてく	74	0	0	0	0	0
320	とことこ	88	0	0	0	0	0
321	のそのそ	42	0	0	0	0	0
322	ぶるぶる	103	0	0	0	0	0
323	しとしと	44	0	0	0	0	0
324	たじたじ	55	0	0	0	0	0
325	つべこべ	35	0	0	0	0	0
326	めきめき	54	0	0	0	0	0
327	かちかち	167	0	0	0	0	0
328	がみがみ	70	0	0	0	0	0
329	ぱたぱた	64	0	0	0	0	0
330	わなわな	43	0	0	0	0	0
331	がさがさ	108	0	0	0	0	0
332	しわしわ	55	0	0	0	0	0
333	ふうふう	45	0	0	0	0	0
334	うじうじ	54	0	0	0	0	0
335	うだうだ	49	0	0	0	0	0
336	しゃあしゃあ	39	0	0	0	0	0
337	てかてか	65	0	0	0	0	0
338	ぱりぱり	81	0	0	0	0	0

339	おめおめ	45	0	0	0	0	0
340	めらめら	60	0	0	0	0	0
341	もっさり	36	0	0	0	0	0
342	うろちょろ	41	0	0	0	0	0
343	ぴちぴち	93	0	0	0	0	0
344	ふにやふにや	48	0	0	0	0	0
345	ペしゃんこ	45	0	0	0	0	0
346	ぼこぼこ	153	0	0	0	0	0
347	おちおち	32	0	0	0	0	0
348	ばさばさ	71	0	0	0	0	0
349	ぶかぶか	50	0	0	0	0	0
350	こちこち	72	0	0	0	0	0
351	びゅんびゅん	48	0	0	0	0	0
352	ちやらちやら	51	0	0	0	0	0
353	べろべろ	45	0	0	0	0	0
354	がぶがぶ	44	0	0	0	0	0
355	ぼんぼん	181	0	0	0	0	0
356	むにやむにや	36	0	0	0	0	0
357	じやらじやら	56	0	0	0	0	0
358	ねちねち	47	0	0	0	0	0
359	ほやはや	44	0	0	0	0	0
360	じくじく	35	0	0	0	0	0
361	ペろペろ	75	0	0	0	0	0
362	かたかた	133	0	0	0	0	0
363	がちがち	102	0	0	0	0	0
364	こりこり	48	0	0	0	0	0
365	ぱさぱさ	115	0	0	0	0	0
366	ふかふか	111	0	0	0	0	0
367	ペちゃくちゃ	34	0	0	0	0	0
368	しゃきしゃき	107	0	0	0	0	0
369	にたにた	44	0	0	0	0	0
370	ぱりぱり	121	0	0	0	0	0
371	ぷちぷち	182	0	0	0	0	0
372	ざくざく	66	0	0	0	0	0
373	ずけずけ	35	0	0	0	0	0
374	ちろちろ	40	0	0	0	0	0
375	ペちゃんこ	29	0	0	0	0	0
376	こちよこちよ	27	0	0	0	0	0

377	しっぽり	19	0	0	0	0	0
378	つんつん	57	0	0	0	0	0
379	どかどか	35	0	0	0	0	0
380	ぬめぬめ	28	0	0	0	0	0
381	へたへた	19	0	0	0	0	0
382	かさこそ	28	0	0	0	0	0
383	ずらずら	25	0	0	0	0	0
384	ずんぐりむつくり	18	0	0	0	0	0
385	どたどた	46	0	0	0	0	0
386	ぺたぺた	42	0	0	0	0	0
387	へべれけ	25	0	0	0	0	0
388	ぎすぎす	46	0	0	0	0	0
389	しこしこ	45	0	0	0	0	0
390	てらてら	24	0	0	0	0	0
391	ひよいひよい	21	0	0	0	0	0
392	ひよこひよこ	23	0	0	0	0	0
393	ぼりぼり	43	0	0	0	0	0
394	ぐうぐう	25	0	0	0	0	0
395	ごりごり	58	0	0	0	0	0
396	そよそよ	15	0	0	0	0	0
397	のらくら	16	0	0	0	0	0
398	ぱつきり	41	0	0	0	0	0
399	がちやがちや	110	0	0	0	0	0
400	ぐびぐび	23	0	0	0	0	0
401	こてこて	42	0	0	0	0	0
402	ごとごと	36	0	0	0	0	0
403	さやさや	14	0	0	0	0	0
404	によろによろ	19	0	0	0	0	0
405	みっしり	13	0	0	0	0	0
406	もさもさ	15	0	0	0	0	0
407	がさごそ	33	0	0	0	0	0
408	がつぱり	13	0	0	0	0	0
409	べちゃべちゃ	17	0	0	0	0	0
410	もしやもしや	18	0	0	0	0	0
411	きんきん	59	0	0	0	0	0
412	ごほごほ	33	0	0	0	0	0
413	じやりじやり	27	0	0	0	0	0
414	すぱすぱ	34	0	0	0	0	0

415	ぼたぼた	20	0	0	0	0	0
416	でれでれ	31	0	0	0	0	0
417	ぐしょぐしょ	12	0	0	0	0	0
418	ごによごによ	16	0	0	0	0	0
419	みしみし	25	0	0	0	0	0
420	うはうは	39	0	0	0	0	0
421	うらうら	9	0	0	0	0	0
422	きょときょと	13	0	0	0	0	0
423	ぐでんぐでん	15	0	0	0	0	0
424	ぐんにやり	12	0	0	0	0	0
425	しおしお	9	0	0	0	0	0
426	すたこら	17	0	0	0	0	0
427	ぬらぬら	14	0	0	0	0	0
428	ぶうぶう	14	0	0	0	0	0
429	むちむち	28	0	0	0	0	0
430	ねとねと	11	0	0	0	0	0
431	ぶちぶち	16	0	0	0	0	0
432	めりめり	27	0	0	0	0	0
433	がたびし	17	0	0	0	0	0
434	きちきち	17	0	0	0	0	0
435	ぎょろぎょろ	17	0	0	0	0	0
436	ざぶざぶ	13	0	0	0	0	0
437	しゃんしゃん	33	0	0	0	0	0
438	だくだく	10	0	0	0	0	0
439	ぶすぶす	19	0	0	0	0	0
440	ふつくり	5	0	0	0	0	0
441	ほこほこ	8	0	0	0	0	0
442	ゆさゆさ	13	0	0	0	0	0
443	がしゃがしゃ	20	0	0	0	0	0
444	しゃなりしゃなり	8	0	0	0	0	0
445	ずばずば	22	0	0	0	0	0
446	ぴよこぴよこ	13	0	0	0	0	0
447	へどもど	10	0	0	0	0	0
448	ぱちやぱちや	9	0	0	0	0	0
449	がたごと	23	0	0	0	0	0
450	ぐたぐた	11	0	0	0	0	0
451	くにやくにや	6	0	0	0	0	0
452	じとじと	10	0	0	0	0	0

453	つけつけ	6	0	0	0	0	0
454	ばかばか	18	0	0	0	0	0
455	ばきばき	26	0	0	0	0	0
456	びちゃびちゃ	16	0	0	0	0	0
457	みりみり	6	0	0	0	0	0
458	かちやかちや	45	0	0	0	0	0
459	どさどさ	7	0	0	0	0	0
460	ぽきぽき	26	0	0	0	0	0
461	しなしな	9	0	0	0	0	0
462	ペりペり	4	0	0	0	0	0
463	ぼてぼて	13	0	0	0	0	0
464	むきむき	19	0	0	0	0	0
465	れろれろ	1	0	0	0	0	0
466	ぎとぎと	13	0	0	0	0	0
467	ぎんぎん	30	0	0	0	0	0
468	ぐうすか	2	0	0	0	0	0
469	しんねりむつり	2	0	0	0	0	0
470	つんけん	8	0	0	0	0	0
471	ばちやばちや	6	0	0	0	0	0
472	べろんべろん	13	0	0	0	0	0
473	ちよきちよき	16	0	0	0	0	0
474	ぱきぱき	8	0	0	0	0	0
475	べりべり	6	0	0	0	0	0
476	ぽいぽい	13	0	0	0	0	0
477	ぼそぼそ	3	0	0	0	0	0
478	ちょくちょく	198	0	0	0	0	0
479	ちょいちょい	90	0	0	0	0	0
480	ほんのり	349	0	0	0	0	0

付録5. 主文末の用法に含める形式

下記の成分が「する」の活用形と結びついた場合も、主文末における「オノマトペ+する」の述語用法に含めた。

助動詞：「だろう」「そうだ」「ようだ」「かもしれない」

終助詞：「よ」「わ」「ね」「か」「な」「ぞ」「さ」

副助詞：「だけ」

接続助詞を終助詞的に使う用法：「けど」「から」「し」「まま」

形式名詞：

- ・ガッカリすることもある
- ・ジクジクしていることがある
- ・すっきりさせることができる
- ・ビクビクすることはありません
- ・ポカポカしてくるはず
- ・ワクワクしたものだ
- ・ウロチョロ／うだうだしているわけではない
- ・どくどくとしているというわけでもない

＜させ＞

させましょう

させよう

させてもらいたい

させたんだ

させたかったんだ

させてもらおうじやねえか

させてほしい

させるべきです

させてみましょう

させてくれない

させてください

さしつきたい

<し>

します
しますように
しません
しましょう
しよう
したい
したいからです
しちゃった
しちゃってる
しすぎている
しかないでしよう
しかねない
しない
しなかつた
しなくなる
しやすくなります／やすくなるんだけど
している（の）かもしれない
しておきましょう
してください
していただく
してきました
してきます
してくるんです
してくれます
していそう
しているというのに
して（も）いられません
していません
しております
した
したところだ
したことでしょう
して

します
してた
してました
してない
してちゃいけないよな
して欲しい
してきた
してくる
しなさい
しろお～！
しろよな！！！

<する>

するんだけどね
するさかいな。
するのである
するしかないでしょう
するんじやないですかね？
するのでは？

付録6. オノマトペの述語用法に関するアンケート用紙

オノマトペの述語用法に関するアンケート

1. 氏名 : _____ (任意)
2. 性別 : (男 · 女)
3. 年齢 : (20 · 30 · 40 · 50 · 60) 代
4. 出生地 : _____ 都・道・府・県 _____ 市
5. 成人まで育った場所 : _____ (_____ 年から _____ 年)
_____ (_____ 年から _____ 年)
6. 一番長く住んだ場所 : _____ (_____ 年から _____ 年)
7. 他に特記すること :

このアンケートは、言語能力を測るものではなく、言語の使用実態を調査するものです。

◆ 評価の欄に次のいずれかを書いてください。

違和感はない…○　あまり言わないが、言えなくはない…△　　言えない…×

1 [～するところだ]

	例文	評価
1	私は、いらいらするところだ。	
2	私は、がっかりするところだ。	
3	傷口が、ひりひりするところだ。(感じているのは「私」)	
4	彼女（の性格）は、おっとりするところだ。	
5	彼（の体）は、がっしりするところだ。	
6	（私の）肌は、かさかさするところだ。	
7	祖母は孫を抱いて、にこにこするところだ。	
8	彼は、うとうとするところだ。	
9	私は家で、のんびりするところだ。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくするところだ。	
11	彼は、目をぱちぱちさせるところだ。	

2 [～しようとする]

	例文	評価
1	私は、いらいらしようとした。	
2	私は、がっかりしようとした。	
3	傷口が、ひりひりしようとした。(感じているのは「私」)	
4	彼女（の性格）は、おっとりしようとした。	
5	彼（の体）は、がっしりしようとした。	
6	（私の）肌は、かさかさしようとした。	
7	上司が来たので、彼女は、にこにこしようとした。	
8	彼は、うとうとしようとした。	
9	彼は家で、のんびりしようとした。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしようとした。	
11	電車の中で、子供が足をばたばたさせようとした。	

3 [～しはじめる]

	例文	評価
1	彼女がなかなか来なくて、私は、いらいらしはじめた。	
2	彼女が来ないと聞いて、私は、がっかりしはじめた。	
3	傷口が、ひりひりしはじめた。(感じているのは「私」)	
4	彼女（の性格）は、おっとりしはじめた。	
5	彼（の体）は、がっしりしはじめた。	
6	(私の) 肌は、かさかさしはじめた。	
7	祖母は孫を抱いて、にこにこしはじめた。	
8	彼は、うとうとしはじめた。	
9	私は家で、のんびりしはじめた。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしはじめた。	
11	目にゴミが入って、彼は目をぱちぱちさせはじめた。	

4 [～しだす]

	例文	評価
1	彼女がなかなか来なくて、私は、いらいらしだした。	
2	彼女が来ないと聞いて、私は、がっかりしだした。	
3	傷口が、ひりひりしだした。(感じているのは「私」)	
4	彼女（の性格）は、おっとりしだした。	
5	彼（の体）は、がっしりしだした。	
6	(私の) 肌は、かさかさしだした。	
7	祖母は孫を抱いて、にこにこしだした。	
8	彼は、うとうとしだした。	
9	私は家で、のんびりしだした。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしだした。	
11	目にゴミが入って、彼は目をぱちぱちさせしだした。	

5 [～してくる]

	例文	評価
1	「彼女がなかなか来なくて、いろいろしてきた。」(感じているのは「私」)	
2	「彼女が来ないと聞いて、がっかりしてきた。」(感じているのは「私」)	
3	「傷口が、ひりひりしてきた。」(感じているのは「私」)	
4	彼女 (の性格) は、おっとりしてきた。	
5	最近、彼女はぼっちやりしてきた。	
6	「肌が、かさかさしてきた。」(感じているのは「私」)	
7	祖母は孫を抱いて、徐々に、にこにこしてきた。	
8	彼は、徐々にうとうとしてきた。	
9	私は家で、徐々にのんびりしてきた。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしてきた。	
11	彼は、目をぱちぱちさせてきた。	

6 [～していく]

	例文	評価
1	彼女がなかなか来なくて、私は、徐々にいろいろしていった。	
2	彼女が来ないと聞いて、私は、徐々にがっかりしていった。	
3	傷口が、ひりひりしていった。(感じているのは「私」)	
4	彼女 (の性格) は、おっとりしていった。	
5	彼 (の体) は、がっしりしていった。	
6	(私の) 肌は、かさかさしていった。	
7	祖母は孫を抱いて、徐々に、にこにこしていった。	
8	彼は徐々に、うとうとしていった。	
9	私は家で、徐々にのんびりしていった。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしていった。	
11	彼は徐々に、目をぱちぱちさせていった。	

7 [～しつづける]

	例文	評価
1	彼女がなかなか来なくて、私は、いらいらしつづけた。	
2	彼女が来ないと聞いて、私は、がっかりしつづけた。	
3	傷口が、ひりひりしつづけた。(感じているのは「私」)	
4	彼女（の性格）は、おっとりしつづけた。	
5	彼（の体）は、がっしりしつづけた。	
6	（私の）肌は、かさかさしつづけた。	
7	祖母は孫を抱いて、にこにこしつづけた。	
8	彼は、うとうとしつづけた。	
9	私は家で、のんびりしつづけた。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしつづけた。	
11	目にゴミが入って、彼は目をぱちぱちさせつづけた。	

8 [～しつつある]

	例文	評価
1	私は、いらいらしつつある。	
2	私は、がっかりしつつある。	
3	傷口が、ひりひりしつつある。(感じているのは「私」)	
4	彼女（の性格）は、おっとりしつつある。	
5	彼（の体）は、がっしりしつつある。	
6	（私の）肌は、かさかさしつつある。	
7	祖母は孫を抱いて、にこにこしつつある。	
8	彼は、うとうとしつつある。	
9	私は家で、のんびりしつつある。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしつつある。	
11	彼は、目をぱちぱちさせつつある。	

9 [～しているところだ]

	例文	評価
1	私は、いらいらしているところだ。	
2	私は、がっかりしているところだ。	
3	傷口が、ひりひりしているところだ。(感じているのは「私」)	
4	彼女（の性格）は、おっとりしているところだ。	
5	彼（の体）は、がっしりしているところだ。	
6	（私の）肌は、かさかさしているところだ。	
7	祖母は孫を抱いて、にこにこしているところだ。	
8	彼は、うとうとしているところだ。	
9	私は家で、のんびりしているところだ。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしているところだ。	
11	彼は、目をぱちぱちさせているところだ。	

10 [～したところだ]

	例文	評価
1	私は、いらいらしたところだ。	
2	私は、がっかりしたところだ。	
3	傷口が、ひりひりしたところだ。(感じているのは「私」)	
4	彼女（の性格）は、おっとりしたところだ。	
5	彼（の体）は、がっしりしたところだ。	
6	（私の）肌は、かさかさしたところだ。	
7	祖母は孫を抱いて、にこにこしたところだ。	
8	彼は、うとうとしたところだ。	
9	私は家で、のんびりしたところだ。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしたところだ。	
11	彼は、目をぱちぱちさせたところだ。	

11 [～したばかりだ]

	例文	評価
1	私は、いらいらしたばかりだ。	
2	私は、がっかりしたばかりだ。	
3	傷口が、ひりひりしたばかりだ。(感じているのは「私」)	
4	彼女（の性格）は、おっとりしたばかりだ。	
5	彼（の体）は、がっしりしたばかりだ。	
6	（私の）肌は、かさかさしたばかりだ。	
7	祖母は孫を抱いて、にこにこしたばかりだ。	
8	彼は、うとうとしたばかりだ。	
9	私は家で、のんびりしたばかりだ。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしたばかりだ。	
11	彼は、目をぱちぱちさせたばかりだ。	

12 [～しおわる]

	例文	評価
1	私は、いらいらしおわった。	
2	私は、がっかりしおわった。	
3	傷口が、ひりひりしおわった。(感じているのは「私」)	
4	彼女（の性格）は、おっとりしおわった。	
5	彼（の体）は、がっしりしおわった。	
6	（私の）肌は、かさかさしおわった。	
7	祖母は孫を抱いて、にこにこしおわった。	
8	彼は、うとうとしおわった。	
9	私は家で、のんびりしおわった。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしおわった。	
11	彼は、目をぱちぱちさせおわった。	

13 [～してしまう]

	例文	評価
1	彼女がなかなか来なくて、私は、いらいらしてしまった。	
2	彼女が来ないと聞いて、私は、がっかりしてしまった。	
3	傷口が、ひりひりしてしまった。(感じているのは「私」)	
4	彼女（の性格）は、おっとりしてしまった。	
5	彼女は、運動をやめたので、ぼっちょりしてしまった。	
6	(私の) 肌は、かさかさしてしまった。	
7	私は、子供の写真を見て、にやにやしてしまった。	
8	私は、授業中、うとうとしてしまった。	
9	明日試験なのに、家で、のんびりしてしまった。	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしてしまった。	
11	(私の) 子供が電車の中で、足をぶらぶらさせてしまった。	

14 [～してある]

	例文	評価
1	いらいらしてある。(感じているのは「私」)	
2	がっかりしてある。(感じているのは「私」)	
3	傷口が、ひりひりしてある。(感じているのは「私」)	
4	彼女（の性格）は、おっとりしてある。	
5	彼（の体）は、がっしりしてある。	
6	(私の) 肌は、かさかさしてある。	
7	上司に、にこにこしてある。(動作をしているのは「私」)	
8	うとうとしてある。(動作をしているのは「私」)	
9	家で、のんびりしてある。(動作をしているのは「私」)	
10	夫婦の間が、ぎくしゃくしてある。	
11	目をぱちぱちさせてある。(動作をしているのは「彼」)	

付録7. オノマトペの述語用法に関するアンケートの結果

違和感はない…2 あまり言わないうが、言えなくはない…1 言えない…0

1 [～するところだ]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	3
3	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	3
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
7	0	0	0	1	0	0	0	2	1	1	5
8	1	2	1	1	0	2	2	2	1	1	13
9	2	0	1	2	0	1	2	0	1	1	10
10	0	1	1	1	0	1	0	0	1	1	6
11	1	1	0	1	0	2	0	0	1	1	7

2 [～しようとする]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
5	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
7	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	18
8	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	4
9	2	2	2	2	0	2	1	2	2	2	19
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	2	2	1	0	2	2	2	2	2	2	17

3 [～しはじめる]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	2	2	2	2	2	2	1	2	1	2	18
2	1	0	0	0	2	0	1	0	0	1	5
3	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	19
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
5	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	4
6	2	2	2	2	2	2	0	0	2	2	16
7	2	1	0	2	2	2	1	1	2	2	15
8	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
9	1	2	0	1	0	1	1	1	0	2	9
10	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	18
11	1	1	0	0	1	2	1	2	1	2	11

4 [～しだす]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	2	2	2	2	2	2	1	2	1	1	17
2	2	0	0	2	2	0	0	0	0	0	6
3	2	2	2	2	2	2	0	2	2	1	17
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
5	1	0	1	2	0	0	0	0	1	1	6
6	2	1	1	2	0	2	1	0	2	1	12
7	2	0	1	2	1	2	1	2	2	1	14
8	2	2	2	2	2	2	1	2	2	1	18
9	1	0	0	2	1	0	0	2	0	1	7
10	2	2	1	2	1	2	2	2	2	1	17
11	0	1	0	0	0	1	0	2	1	1	6

5 [～してくる]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
2	1	2	2	2	0	2	1	2	0	2	14
3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
4	1	2	2	2	2	2	2	0	2	2	17
5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
6	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
7	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	19
8	1	2	1	2	2	2	2	2	0	2	16
9	0	0	0	2	0	1	2	2	0	2	9
10	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
11	0	2	0	0	1	2	0	2	1	1	9

6 [～していく]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	0	2	0	2	0	2	0	0	1	2	9
2	0	2	0	2	0	2	0	0	0	2	8
3	0	2	0	0	0	2	0	0	1	1	6
4	0	2	0	0	0	2	0	0	0	1	5
5	1	2	0	2	0	1	0	0	1	1	8
6	1	2	0	2	0	2	0	0	2	1	10
7	0	2	0	1	0	2	0	0	2	1	8
8	0	2	0	1	0	1	0	0	1	1	6
9	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	4
10	2	2	2	2	0	2	0	0	2	2	14
11	0	1	0	0	0	2	0	0	2	1	6

7 [～しつづける]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	1	0	0	2	2	2	1	2	2	2	14
2	1	0	0	2	2	1	0	1	0	1	8
3	2	2	0	2	2	2	0	0	1	2	13
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	2	0	0	1	0	2	0	0	1	1	7
7	1	1	0	2	1	2	0	2	2	2	13
8	2	2	0	1	1	2	1	2	1	2	14
9	1	2	0	2	1	1	1	2	1	2	13
10	2	2	0	2	1	2	0	1	1	2	13
11	1	1	0	1	0	2	1	2	2	2	12

8 [～しつつある]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	2	2	1	2	1	2	0	0	0	2	12
2	2	0	0	2	1	1	0	0	0	2	8
3	1	2	1	1	1	2	0	0	1	2	11
4	0	2	0	1	1	0	0	0	1	2	7
5	2	1	0	1	1	0	0	0	1	2	8
6	2	0	1	1	0	2	0	0	1	2	9
7	1	1	0	1	0	1	0	0	1	2	7
8	2	2	0	1	1	0	0	0	1	2	9
9	1	0	0	1	0	1	0	0	0	2	5
10	2	2	2	1	1	2	2	0	2	2	16
11	0	0	0	1	1	1	0	0	1	2	6

9 [～しているところだ]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	19
2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	19
3	2	0	2	1	2	2	1	2	2	2	16
4	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3
5	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3
6	0	0	1	0	2	1	0	0	2	2	8
7	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2	18
8	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
9	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
10	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	19
11	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	18

10 [～したところだ]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	1	0	1	1	2	2	0	0	0	1	8
2	2	0	2	1	2	2	1	0	1	1	12
3	0	0	0	1	2	2	0	0	1	2	8
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
5	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	4
6	0	0	1	1	0	1	0	0	1	1	5
7	2	0	2	2	2	2	0	2	1	2	15
8	2	0	2	2	1	2	2	2	1	2	16
9	1	0	2	2	1	2	2	2	2	2	16
10	2	1	2	1	1	2	1	0	2	1	13
11	1	1	0	1	2	2	1	0	2	2	12

11 [～したばかりだ]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	0	0	1	1	0	2	0	2	2	2	10
2	2	0	2	1	0	2	0	0	2	2	11
3	0	0	0	0	0	2	1	0	2	2	7
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
6	0	0	1	0	0	2	1	0	1	1	6
7	1	1	2	0	0	2	0	0	1	1	8
8	0	2	1	0	0	1	2	0	1	2	9
9	2	2	1	0	0	2	2	0	1	2	12
10	1	0	1	0	0	2	0	1	1	1	7
11	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	4

12 [～しおわる]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

13 [～してしまう]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	19
2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	19
3	0	0	0	1	2	1	0	0	1	1	6
4	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	4
5	2	2	2	2	2	2	0	0	1	1	14
6	1	2	2	1	2	2	1	0	1	1	13
7	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	19
8	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
9	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
10	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	19
11	1	2	1	2	2	1	0	2	2	2	15

14 [～してある]

	20男	20女	30男	30女	40男	40女	50男	50女	60男	60女	計
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
5	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

付録8. オノマトペの述語用法に関するアンケートの結果（オノマトペ別）

(1) [いらいら(1人称)]

	意味	(20点)
するところだ	直前	2
しようとする	直前	2
しはじめる	開始	18
しだす	開始	17
してくる	状態の出現	20
していく	変化の進展	9
しつづける	継続	14
しつつある	継続	12
しているところだ	継続	19
したところだ	直後	8
したばかりだ	直後	10
しおわる	終了	3
してしまう	完了	19
してある	完了	0

(2) [がっかり(1人称)]

	意味	(20点)
するところだ	直前	3
しようとする	直前	1
しはじめる	開始	5
しだす	開始	6
してくる	状態の出現	14
していく	変化の進展	8
しつづける	継続	8
しつつある	継続	8
しているところだ	継続	19
したところだ	直後	12
したばかりだ	直後	11
しおわる	終了	0
してしまう	完了	19
してある	完了	0

(3) [ひりひり (1人称)]

	意味	(20点)
するところだ	直前	3
しようとする	直前	0
はじめる	開始	19
だす	開始	17
てくる	状態の出現	20
していく	変化の進展	6
しつづける	継続	13
しつつある	継続	11
しているところだ	継続	16
したところだ	直後	8
したばかりだ	直後	7
終わる	終了	1
てしまう	完了	6
してある	完了	0

(4) [おっとり]

	意味	(20点)
するところだ	直前	0
しようとする	直前	2
はじめる	開始	1
だす	開始	1
てくる	状態の出現	17
していく	変化の進展	5
しつづける	継続	0
しつつある	継続	7
しているところだ	継続	3
したところだ	直後	1
したばかりだ	直後	1
終わる	終了	0
てしまう	完了	4
してある	完了	1

(5) [がっしり]

	意味	(20 点)
するところだ	直前	3
しようとする	直前	2
しあじめる	開始	4
しだす	開始	6
してくる	状態の出現	20
していく	変化の進展	8
しつづける	継続	0
しつつある	継続	8
しているところだ	継続	3
したところだ	直後	4
したばかりだ	直後	1
しおわる	終了	0
してしまう ³⁹	完了	14
してある	完了	2

(6) [かさかさ(1人称)]

	意味	(20 点)
するところだ	直前	1
しようとする	直前	1
しあじめる	開始	16
しだす	開始	12
してくる	状態の出現	20
していく	変化の進展	10
しつづける	継続	7
しつつある	継続	9
しているところだ	継続	8
したところだ	直後	5
したばかりだ	直後	6
しおわる	終了	1
てしまう	完了	13
してある	完了	0

³⁹ アンケートの例文をなるべく、自然な表現に近づけるため、「ぱっちやりてしまった」に変更した。

(7) [にこにこ]

	意味	(20点)
するところだ	直前	5
しようとする	直前	18
はじめる	開始	15
だす	開始	14
てくる	状態の出現	19
していく	変化の進展	8
しつづける	継続	13
しつつある	継続	7
しているところだ	継続	18
したところだ	直後	15
したばかりだ	直後	8
しおわる	終了	0
してしまう	完了	19
してある	完了	0

(8) [うとうと]

	意味	(20点)
するところだ	直前	13
しようとする	直前	4
はじめる	開始	20
だす	開始	18
てくる	状態の出現	16
していく	変化の進展	6
しつづける	継続	14
しつつある	継続	9
しているところだ	継続	20
したところだ	直後	17
したばかりだ	直後	9
しおわる	終了	3
してしまう	完了	20
してある	完了	0

(9) [のんびり]

	意味	(20 点)
するところだ	直前	10
しようとする	直前	19
しあじめる	開始	9
しだす	開始	7
してくる	状態の出現	9
していく	変化の進展	4
しつづける	継続	13
しつつある	継続	5
しているところだ	継続	20
したところだ	直後	16
したばかりだ	直後	12
しおわる	終了	2
してしまう	完了	20
してある	完了	0

(10) [ぎくしゃく]

	意味	(20 点)
するところだ	直前	6
しようとする	直前	0
しあじめる	開始	18
しだす	開始	17
してくる	状態の出現	20
していく	変化の進展	14
しつづける	継続	13
しつつある	継続	16
しているところだ	継続	19
したところだ	直後	13
したばかりだ	直後	7
しおわる	終了	1
してしまう	完了	19
してある	完了	0

(11) [ぱちぱち]

	意味	(20 点)
するところだ	直前	7
しようとする ⁴⁰	直前	17
しあじめる	開始	11
しだす	開始	6
してくる	状態の出現	9
していく	変化の進展	6
しつづける	継続	12
しつつある	継続	6
しているところだ	継続	18
したところだ	直後	12
したばかりだ	直後	4
しおわる	終了	1
してしまう	完了	15
してある	完了	0

⁴⁰ アンケートの例文をなるべく、自然な表現に近づけるため、「足をばたばたさせようとした」に変更した。

謝　辞

本論文は、筆者が九州大学大学院芸術工学府と、留学先であるルードヴィッヒ・マクシミリアン大学（ミュンヘン大学）の博士後期課程に在籍中の研究成果、及び新羅大学・新潟産業大学・大東文化大学に在職中の研究成果をまとめたものです。本論文の執筆にあたり、本当に多くの方々にご協力いただきました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

まず、修士課程の時からご指導くださった、九州大学大学院芸術工学研究院教授の板橋義三先生には、当時、まだ研究の足取りも覚束なかった私に対して、広い視野で言語学について学ぶ機会を与えていただき、多くの啓発を受けることができました。終始、懇切丁寧にご指導・ご鞭撻を賜りましたこと、研究遂行に際し激励下さったことを心より深謝申し上げます。

九州大学大学院言語文化研究院教授の松村瑞子先生、九州大学大学院芸術工学研究院教授の岩宮眞一郎先生には、本論文の審査を快くお引き受け頂き、審査過程において的確かつ貴重なご指示やご助言を賜り、ご審査いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

また、本研究の趣旨を理解し、快くアンケート調査に協力してくださった皆様にも感謝を申し上げます。

大東文化大学の「日本語学概説」と「日本語学講読」の授業で、学生達と交わした議論により、オノマトペの魅力に改めて気づかされ、本研究に対する意欲が深まりました。受講してくれた学生の皆さんにお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

他にも、この場で具体的にお名前は挙げておりませんが、薰陶を賜った諸先生方に深甚の謝意を表します。

最後に、家族に感謝の意を表します。夫は、執筆作業で忙しい私の代わりに積極的に家事や育児をしてくれました。2歳半の長女の紫秀（しほ）は、その笑顔で本論文執筆中の私の緊張を和らげてくれ、執筆の原動力ともなりました。主人のご両親は、私が論文審査で出張している際に、紫秀の面倒をみて下さいました。私の両親は、新聞でオノマトペに関する記事を見つけては、切り抜いて送ってくれるなど、私の論文執筆を陰ながら応援し、遠く島根の空より論文完成を祈り続けてくれました。

このように多くの方々の支えがなければ、本研究はなし得ませんでした。心から感謝いたします。

2015年 6月
著　者